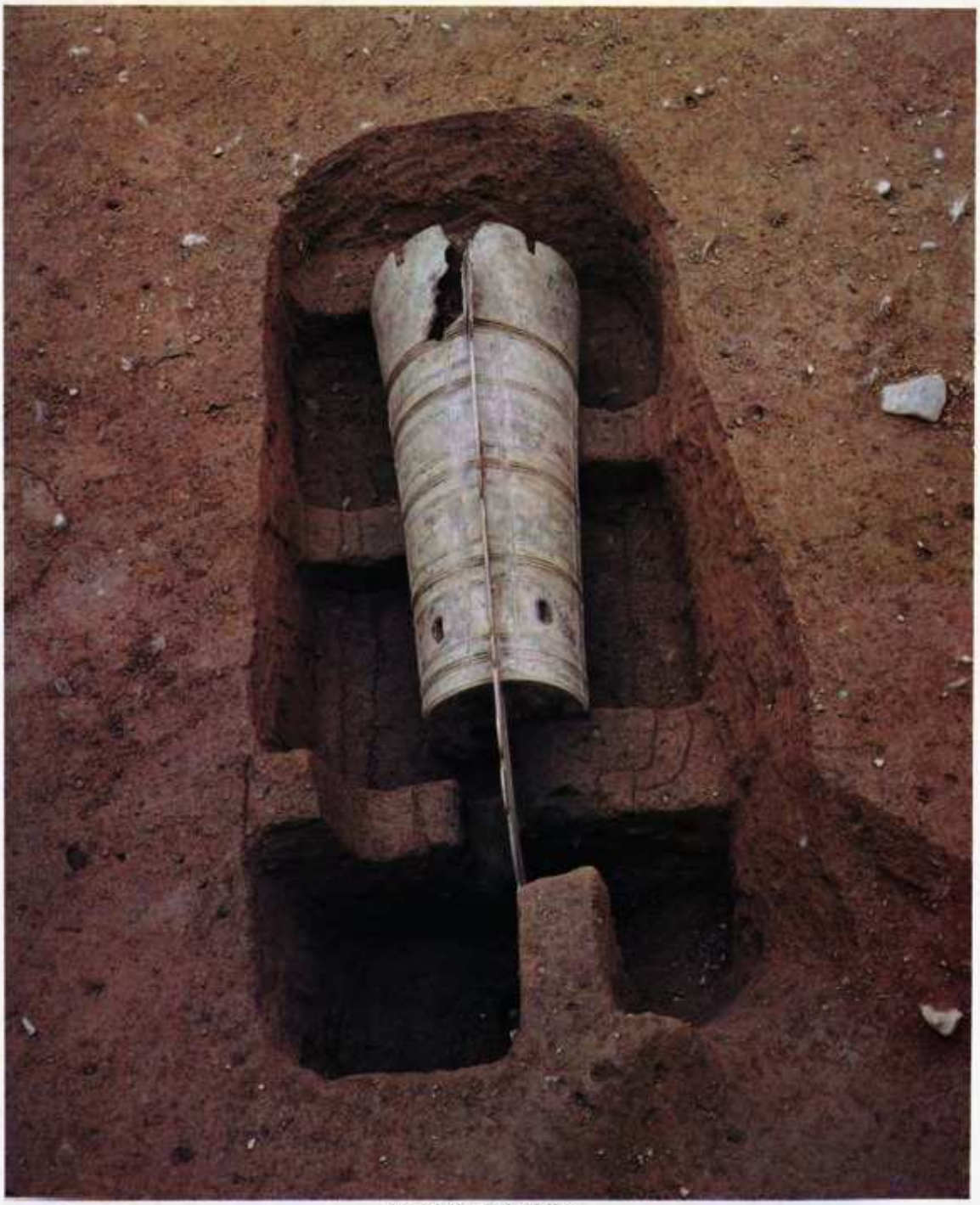
徳　島　県

埋蔵文化財センター年報

Vol. 4　1992年度

1 9 9 3

財団法人　徳島県埋蔵文化財センター



矢野遺跡銅鐸埋納状況

名東遺跡出土石杵

前田遺跡出土梵鐘鋳型

はじめに

本書は平成4年度に徳島県埋蔵文化財センターが行った事業概要をまとめたものであります。

本センターは平成元年の設立以降、徳島県からの委託により、四国縦貫自動車道関連埋蔵文化財発掘調査を主な業務としてまいりましたが、設立時からの懸案でありました徳島～脇間の調査については、無事に完了することができました。

平成4年度からは一般国道192号徳島南環状線建設に伴う調査業務や本格的な整理業務を実施することとなりました。調査の成果は報告書として順次刊行する予定であります。

徳島南環状線関連調査では矢野遺跡で銅鐸が出土しました。これまでに例のない埋納方法が明らかになったとともに、県内はもとより県外各地の方々に埋納当時の銅鐸を御覧いただき、多大な成果をあげることができたものと考えております。

当埋蔵文化財センターでは平成7年開設予定の徳島県埋蔵文化財総合施設にむけて、委託業務とあわせて自主事業として研究紀要の刊行や講演会等を行い、基盤の強化を図っているところであります。

本書の刊行に当たり関係者各位、関係機関に御礼申し上げるとともに、今後とも一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成5年7月

財団法人　徳島県埋蔵文化財センター

理事長　近　藤　通　弘

目　　次

Ⅰ　財団法人　徳島県埋蔵文化財センターの概要……3
Ⅱ　平成4年度事業概要……5
Ⅲ　事業報告……7
　四国縦貫自動車道関連発掘調査
　神宮寺遺跡……11
　菖蒲谷西山B遺跡……15
　蓮華谷古墳群（Ⅰ）……17
　古城遺跡……19
　試掘調査……23
　八坂遺跡（Ⅲ）　向山古墳群　神宮寺遺跡
　山田古墳B　大谷古墳群　祝谷古墳
　聖天山遺跡　黒谷窯跡　東中富遺跡
　前須遺跡　新居須遺跡　佐城遺跡（Ⅰ）
　佐城遺跡（Ⅱ）　佐城遺跡（Ⅲ）　滝ノ宮遺跡
　一般国道192号徳島南環状線発掘調査
　名東遺跡……27
　矢野遺跡……31
　四国縦貫自動車道関連整理
　日吉谷遺跡……37
　赤坂遺跡（Ⅰ）・（Ⅱ）・（Ⅲ）……38
　桜ノ岡遺跡（Ⅰ）・（Ⅲ）……39
　金蔵～上井遺跡……40
　北原～大法寺遺跡……41
　前田遺跡……42
　椎ヶ丸～芝生遺跡……43
　十楽寺遺跡……44
　天神山遺跡・青谷遺跡……45
　蓮華池遺跡（Ⅰ）……46
　蓮華谷古墳群（Ⅱ）……47
　黒谷川宮ノ前遺跡……48
　古城遺跡……49
　埋蔵文化財総合施設試掘調査……50
Ⅳ　埋蔵文化財センターの活動……51
Ⅴ　講義の記録……53
Ⅵ　受贈図書……61

例　　言

1　本書は財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成4年度事業をまとめた年報である。

2　Ⅲ　事業報告に関する地形図は国土地理院発行1／50,000地形図を転載したものであり、各遺跡に図幅名を記した。

3　Ⅲ　事業報告の概要については各担当者が執筆し、その責を文末に記した。

4　本書の編集は菅原が行った。

Ⅰ　財団法人　徳島県埋蔵文化財センターの概要

1　設立の目的

財団法人徳島県埋蔵文化財センターは、徳島県内における埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、文化財の保護意識の啓発、普及を図り、もって地域文化の振興に寄与することを目的とする。

2　事業の内容

(1)　埋蔵文化財の調査及び研究に関する事業
(2)　出土した文化財の整理及び保存に関する事業
(3)　埋蔵文化財の活用及び保護意識の啓発、普及に関する事業
(4)　その他目的を達成するために必要な事業

3　設立年月日

平成元年4月1日

4　出資者

徳　島　県

5　基本財産

10,000千円

6　事務所所在地

徳島県板野郡板野町川端字関ノ本25番

平成４年度　財団法人　徳島県埋蔵文化財センターの組織

役　員

理 事 長
近藤　通弘　県教育長
副理事長
林　　鵄男　県教育次長
板東　　武　県教育次長
理　　事
佐藤　幸雄　県教育委員会総務課長
松嶋　　修　県土木部監理課長
永山　賀久　県教育委員会義務教育課長
森　　通男　県教育委員会高校教育課長
安芸　　武　県教育委員会文化課長

常務理事
佐藤　信博
監　　事
米沢　靖二　県副出納長
井内　憲次　県監査事務局監査第一課長

職　員

事務局長　佐藤　信博
総務課
課　　長　岡本　一仁
主　　事　佐藤　　馨
臨時補助員　柴田みのり　藤川　淑江
調査課
課　　長　羽山　久男
調整係長　島巡　賢二
技　　師　堀江　隆治
調査係長　菅原　康夫
研 究 員　市原　健次　中野　健次
　　久保脇美朗　石川　直章
　　鎌田　幸二　湯浅　利彦
　　九十九　肇　安友　克佳
　　桑原　正晴　藤本　好浩
　　早渕　隆人　石尾　和仁
　　佐野　耕市　辻　　佳伸
　　橋川　充男　篠原　貴文
　　平山　義朗　須崎　一幸
　　小泉　信司　藤川　智之
　　氏家　敏之　原　　芳伸
研究補助員　扶川　道代　佐藤　誠二
嘱 託 員　信田　誠司　尾崎もり子
　　楠原　武司　西本　益美
　　松田　貴博　佐藤　誠介
　　武田　直樹

Ⅱ　平成４年度事業概要

1　理事会の開催

第14回理事会

開催日　平成４年４月１日　県庁教育長室

議　案　第１号議案　役員の選任について

第15回理事会

開催日　平成４年６月16日　県庁教育長室

議　案　第１号議案　平成３年度事業報告の承認について

第２号議案　平成３年度収支決算の承認について

第３号議案　平成３年度未処分剰余金の処理について

第16回理事会

開催日　平成５年３月22日　県庁教育長室

議　案　第１号議案　平成４年度事業計画の変更について

第２号議案　平成４年度予算の変更について

第３号議案　平成５年度事業計画について

第４号議案　平成５年度当初予算について

2　事業の状況

徳島県からの委託により、次の事業を実施した。

①四国縦貫道関連等埋蔵文化財調査

業務内容　四国縦貫道関連埋蔵文化財発掘調査業務

７町18遺跡の発掘調査業務を実施した。

四国縦貫道関連埋蔵文化財出土品整理業務

日吉谷遺跡他15遺跡発掘調査による出土品の整理業務を実施した。

一般国道192号徳島南環状線埋蔵文化財発掘調査業務

徳島市名東遺跡・矢野遺跡の発掘調査業務を実施した。

②埋蔵文化財総合施設埋蔵文化財調査

業務内容　埋蔵文化財総合施設埋蔵文化財試掘調査

板野郡板野町の埋蔵文化財総合施設建設予定地の試掘調査を実施した。

3　収支決算報告

財団法人　徳島県埋蔵文化財センターの平成４年度収支決算は次のとおりである。

平成４年度決算状況

（収入の部）　　（単位　円）

科目又は業務	予算額	決算額	比較	備考
1　県からの受託料	287,534,000	285,967,140	1,556,860	
2　諸収入	2,910,000	3,055,837	▲ 145,837	
合計	290,444,000	289,022,977	1,421,023	

（支出の部）　　（単位　円）

科目又は業務	予算額	決算額	比較	備考
1　四国縦貫道関連等埋蔵文化財調査業務	287,534,000	285,967,140	1,566,860	
2　その他の支出	2,910,000	2,437,166	436,834	
合計	290,440,000	288,440,306	2,003,694	

Ⅲ 事 業 報 告

平成４年度は徳島県と平成４年４月１日付で締結した業務委託契約書に基づいて事業を実施したが、本年度より四国縦貫自動車道関連埋蔵文化財調査に加え、建設省を事業主体とする一般国道192号徳島南環状線建設に伴う埋蔵文化財調査が委託された。四国縦貫自動車道（徳島～脇）に係る発掘調査は平成５年３月、上板町神宮寺遺跡、板野町古城遺跡の調査終了をもって暫定２車線分を完了した。平成元年６月の土成町金蔵～上井遺跡の調査以来、路線に係る調査対象面積約340,000㎡に３年９カ月の期間を要した。それぞれの調査結果は本年度より本格的に着手した整理業務を経て順次報告書刊行の計画である。四国縦貫自動車道（脇～美馬）については、５年度調査に向けて試掘調査を一部実施した。

以下、４年度の主な調査結果を述べる。

四国縦貫自動車道関連調査

蓮華谷古墳群（Ⅰ）、菖蒲谷西山Ｂ遺跡で古墳の調査を実施した。前者は刳抜式木棺を直葬する直径12mの円墳である。鉄剣、鉄鏃、刀子を副葬しており、現位置を遊離しているが墳丘裾から出土した鉄鏃ともあわせて中期の年代が与えられる。徳島県では中期古墳の調査例は少ないが、前期以来の竪穴式石室に加え、徳島市恵解山古墳群に代表される箱式石棺が盛行する中にあって、棺形状、副葬遺物はより前期的様相をとどめている。なお、徳島県の円墳は中期に造営された土成町土成丸山古墳や徳島市天王ノ森古墳、鳴門市天河別神社１号墳など数例を除き、前期から後期にかけて墳丘規模に大きな変化は認められない。

神宮寺遺跡、古城遺跡は前年度までの調査地点の継続である。

一般国道192号徳島南環状線関連調査

名東遺跡、矢野遺跡の調査を実施した。いずれも徳島市の西部を流れる鮎喰川下流域に形成された徳島県を代表する弥生時代遺跡である。従来より県・市教育委員会により調査が実施されているが、遺跡全体の把握には至っていない。

名東遺跡の調査地点は1987年、徳島市教育委員会の調査により扁平鈕式６区袈裟襷紋銅鐸の埋納坑が確認された地点の北200mにあたる。竪穴住居、溝、方形周溝墓の一部などが検出された。

特に中期末の住居床面に構築された土坑にみられる朱の堆積層及び朱の付着した石杵と朱精製容器の出土は、これまでに知られていた阿南市若杉山遺跡や板野町黒谷川郡頭遺跡での朱精製時期を大きく遡るとともに、朱の精製が庄内式併行期、各地に搬出される東阿波型土器を創出した鮎喰川流域遺跡群でも広範に実施されていたことを伺わせる資料となった。また後期後葉の溝底には２ヵ所の井戸状遺構が付設されており、本遺構に接する張り出し施設に石臼が据えられていたことから、大規模な辰砂水簸が行われたことが想定される。

石杵の形態は従来判明している敲打痕や平坦な擦痕をもつ石杵と異なり、薬研状の石臼とセットになるものと思われる。朱精製容器は甕体部下半を半裁し、左右に接合したかのような形状を示す。兵庫県家島大山遺跡Ｄ地点で異形土器として報告された形態[1]に類例があるが、朱が全面に付着しており、専用の精製容器、甕の転用、仕分け用の鉢の使用など、時期によって精製法にも何種かのパターンがあったことが伺われる。

矢野遺跡は鮎喰川を挟んで名東遺跡の対岸に位置する東西１キロ、南北２キロに広がると推定される徳島県屈指の遺跡であるが、本年度の調査で銅鐸が出土した。突線鈕５式６区袈裟襷紋銅鐸

（近畿Ⅳ式）で、これまで例のない埋納法が採られており、埋納坑周囲に柱穴を伴う。調査概要は『矢野銅鐸』1993を刊行しているので、本年報とあわせて参照されたい。（菅原）

(1) 石野博信 「大山神社遺跡」『古墳文化出現期の研究』1985所収

四国縦貫自動車道（徳島～脇間）関係発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	神宮寺遺跡	板野郡上板町神宅	4,080㎡	4.10.12～5.3.19	・平安時代 ◎鎌倉時代 ◎室町時代	掘立柱建物跡 石塔墓・溝	須恵器・土師器・瓦器 輸入磁器・瓦　銭貨
2	菖蒲谷西山B遺跡	板野郡上板町菖蒲谷	250㎡	4.10.1～4.11.14	◎古墳時代	円墳 横穴式石室	須恵器・土玉・ガラス玉 鉄鏃　刀子　耳環
3	蓮華谷古墳群（Ⅰ）	板野郡板野町犬伏	288㎡	4.4.6～4.5.22	◎古墳時代	円墳 木棺直葬	鉄剣・鉄鏃　手鎌・刀子
4	古城遺跡（C地点）	板野郡板野町古城	840㎡	5.2.4～5.3.19	・平安時代 ◎鎌倉時代 室町時代	溝・掘立柱建物跡・土壙墓	須恵器・土師器　黒色土器・瓦器　輸入磁器 銭貨
5	八坂遺跡（Ⅲ）	阿波郡市場町尾開	29㎡ (試掘調査)	4.5.6～4.5.8		無	無
6	向山古墳群	板野郡土成町宮川内	50㎡ (試掘調査)	4.7.13～4.7.22		無	無
7	神宮寺遺跡（C地点）	板野郡上板町神宅	62㎡ (試掘調査)	4.6.8～4.6.18		無	無
8	山田古墳B	板野郡上板町神宅	250㎡ (試掘調査)	4.4.6～4.4.23 4.12.17～4.12.22		無	磁器
9	大谷古墳群	板野郡上板町神宅	30㎡ (試掘調査)	4.11.16～4.11.17		無	無
10	祝谷古墳	板野郡上板町神宅	90㎡ (試掘調査)	4.12.24～5.1.11		無	無
11	聖天山遺跡	板野郡上板町神宅	115㎡ (試掘調査)	4.12.15～4.12.16		無	無
12	黒谷窯跡	板野郡板野町黒谷	91㎡ (試掘調査)	4.6.25～4.7.8		無	無
13	東中富遺跡	板野郡藍住町東中富	210㎡ (試掘調査)	4.5.19～4.5.23		無	無
14	前須遺跡	板野郡藍住町徳命	251㎡ (試掘調査)	4.5.25～4.5.26 4.12.3～4.12.10		無	無
15	新居須遺跡	板野郡藍住町徳命	190㎡ (試掘調査)	5.1.18～5.1.22		無	無

四国縦貫自動車道（脇～美馬間）関係発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	佐城遺跡（Ⅰ）	美馬郡脇町大字脇町	165㎡ (試掘調査)	5.2.25～5.2.26		無	無
2	佐城遺跡（Ⅱ）	美馬郡脇町大字脇町	89㎡ (試掘調査)	5.2.15～5.2.18	・弥生時代	無	弥生土器・石鏃
3	佐城遺跡（Ⅲ）	美馬郡脇町大字脇町	146㎡ (試掘調査)	5.2.19～5.2.23		無	無
4	滝ノ宮遺跡	美馬郡美馬町滝ノ宮	350㎡ (試掘調査)	5.3.9～5.3.17	縄文時代 ・弥生時代 ◎鎌倉時代	溝	縄文土器　弥生土器・石器・土師器　瓦質土器

一般国道192号徳島南環状線関係発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	名東遺跡	徳島市名東町	1,800㎡	4.9.1～4.11.17	旧石器時代 ・縄文時代 ◎弥生時代	竪穴住居・土坑 溝	旧石器・縄文土器・弥生土器 石杵 石臼
2	矢野遺跡	徳島市国府町矢野	300㎡ (試掘調査) 3,630㎡	4.4.23～4.6.4 4.7.15～5.2.26	縄文時代 ◎弥生時代 ・平安時代 ・鎌倉時代	銅鐸埋納坑 ・竪穴住居 土坑・溝	縄文土器 弥生土器 銅鐸・石器 土師器 黒色土器・瓦器

埋蔵文化財総合施設試掘調査

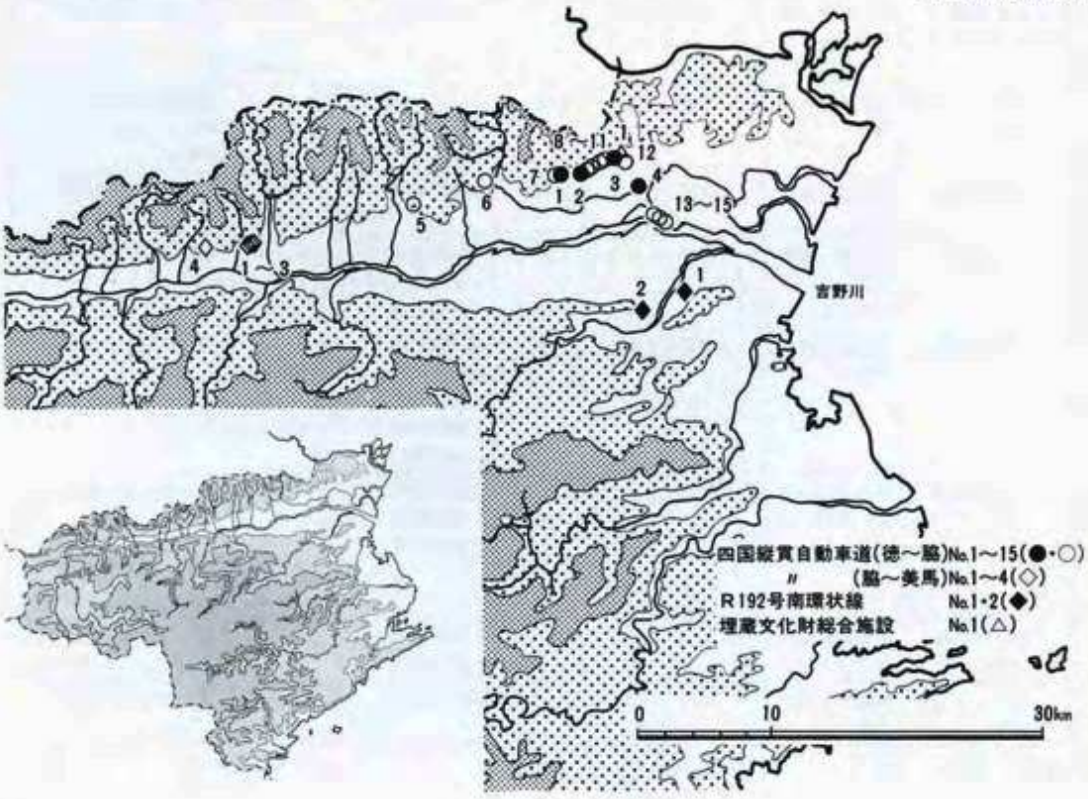
No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1		板野郡板野町犬伏	600㎡	4.12.15～5.2.2		無	無

四国縦貫自動車道関係整理業務一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	業務内容
1	赤坂遺跡(Ⅰ)	阿波郡阿波町赤坂	14箱	4.4.1～5.3.31	◎弥生時代	土坑9 ピット79	報告書の刊行まで
2	赤坂遺跡(Ⅱ)	阿波郡阿波町赤坂	1箱	4.4.1～5.3.31	・旧石器時代 弥生時代 古墳時代	無	報告書の刊行まで
3	赤坂遺跡(Ⅲ)	阿波郡阿波町赤坂	5箱	4.4.1～5.3.31	◎弥生時代	竪穴住居2 ・土坑5 ピット95	報告書の刊行まで
4	金蔵～上井遺跡	板野郡土成町浦池	5箱	4.4.1～5.3.31	◎旧石器時代 ・弥生時代 ◎鎌倉時代	炭窯6・土坑2・溝1	報告書の刊行まで
5	天神山遺跡	板野郡上板町引野	9箱	4.4.1～5.3.31	◎弥生時代	竪穴住居1 ・土壙墓5	報告書の刊行まで
6	青谷遺跡	板野郡上板町引野	8箱	4.4.1～5.3.31	旧石器時代 縄文時代 弥生時代	土坑42・ ピット117	報告書の刊行まで
7	日吉谷遺跡	阿波郡阿波町日吉谷	230箱	4.4.1～5.3.31	◎旧石器時代 ◎弥生時代 古墳時代 ・鎌倉時代 室町時代	ブロック1 竪穴住居 5 土坑222 ピット1,989	報告書原稿の執筆まで
8	桜ノ岡遺跡(Ⅰ)	阿波郡阿波町桜ノ岡	234箱	4.4.1～5.3.31	◎弥生時代 ・鎌倉時代 ・室町時代	竪穴住居11 ・掘立柱建物21 集石 土壙10・土坑177	報告書原稿の執筆まで
9	桜ノ岡遺跡(Ⅲ)	阿波郡阿波町桜ノ岡	1箱	4.4.1～5.3.31	旧石器時代 ・弥生時代	無	報告書原稿執筆まで
10	北原～大法寺遺跡	板野郡土成町土成	55箱	4.4.1～5.3.31	◎弥生時代	竪穴住居1 土坑12	報告書原稿の執筆まで

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	業務内容
11	前田遺跡	板野郡土成町土成	121箱	4.4.1～5.3.31	◎弥生時代 ◎鎌倉時代 江戸時代	竪穴住居5・堀立柱建物16　土坑61　炭窯7・鍛冶遺構6・梵鐘鋳造関連遺構1	報告書原稿の執筆まで
12	椎ヶ丸～芝生遺跡	板野郡土成町吉田	19箱	4.4.1～5.3.31	◎旧石器時代 ◎弥生時代	竪穴住居3　土坑3	報告書原稿の執筆まで
13	十楽寺遺跡	板野郡土成町高尾	25箱	4.4.1～5.3.31	◎奈良時代	灰原1	報告書原稿の執筆まで
14	蓮華池遺跡（Ⅰ）	板野郡板野町犬伏	20箱	4.4.1～5.3.31	◎古墳時代 鎌倉時代	流路1　土壙墓1	報告書原稿の執筆まで
15	蓮華谷古墳群（Ⅱ）	板野郡板野町犬伏	29箱	4.4.1～5.3.31	◎古墳時代	円墳6　土壙墓1	報告書原稿の執筆まで
16	黒谷川宮ノ前遺跡	板野郡板野町犬伏	374箱	4.4.1～5.3.31	◎弥生時代 ・古墳時代 ・奈良時代 ◎平安時代 ・鎌倉時代 ◎室町時代	小区画水田46　池状遺構1・掘立柱建物48　溝22　土坑320　河道2	報告書原稿の執筆まで
17	古城遺跡	板野郡板野町古城	87箱	4.4.1～5.3.31	・平安時代 ◎鎌倉時代 ・室町時代	掘立柱建物1　溝19　土坑47　ピット150	報告書原稿の執筆まで

◎主体となる時期



発掘調査地点

神宮寺遺跡

所在地　板野郡上板町神宅字神宮寺10－1他
調査期間　1992年10月12日～1993年3月19日
担当者　鎌田　平山　九十九　篠原　桑原

調査概要　本遺跡は宮ヶ谷川によって形成された扇状地の西側縁部と、それに接する阿讃山脈からのびた尾根の斜面上に位置する。

『大山村史』（1917）および『上板町史』（1983）に、この地区に中世「神宮寺」と呼称される寺院が存在したとする伝承が紹介されている。昨年度の調査で、それを裏付けるような礎石建物を中心とした建物群、石塔墓、また寺域を画すと考えられる大溝、石垣が検出された。

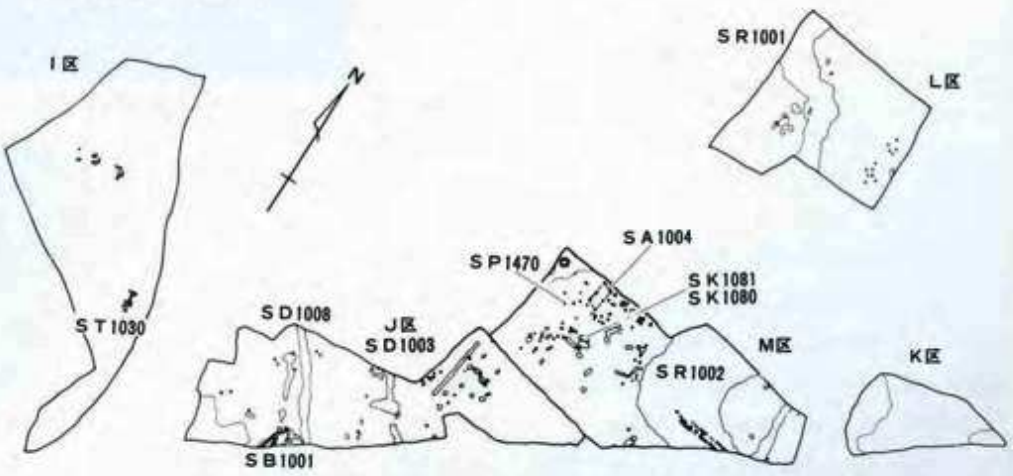
本年度は、昨年度調査区の西及び南にあたる地区にⅠ～Mの5調査区を設定した。

昨年度の建物群の続き、自然流路、そして大溝の西側に溝、14～15世紀の石列を伴う建物跡、石塔墓を検出した。

調査区の東と西の地点では遺構面状況が異なり、東は扇状地形の砂礫層、西は安定した明黄褐色の堆積層になる。遺構は西側に集中して検出された。また調査区の南壁に安定した遺物包含層を確認でき、本遺跡が南に拡がることが考えられる。

1　調査地点の位置（川島）

2　調査前風景



3　遺構配置図

I　区
石塔墓
ＳＴ1030

本遺跡の西端、比高差約20mの急傾斜の斜面裾部に基壇状遺構を検出した。背後の斜面をやや垂直気味に削り込んで、平坦面を形成し、30～40㎝大の砂岩を北、東、南辺に「コ」状に配している。北、南辺は約１m、東辺は約2.3mを測る。基壇内部は埋土が流失、削平されたのか、岩盤上に黄褐色砂質土が約10㎝堆積するのみである。

石塔自体は検出できなかった。しかし石塔墓近くの近世以降に組まれた石垣内で、尖頭状板碑、尖頭状五輪板碑、一石五輪塔、五輪塔等15個体が検出され、石塔は石垣に転用されたと考えられる。

また石塔墓周辺には砂岩大礫と10㎝大の偏平な河原石が散乱しており、この平坦面上に２基以上の石塔墓が存在したと考えられる。

J　区

J区の東側地点は暗褐色の包含層が拡がるものの、遺構面が黄褐色砂礫層で安定せず、遺構は検出できなかった。西側地点は暗オリーブ褐色の包含層、安定した遺構面になり、遺構が拡がる。

石列を伴う掘立柱建物
ＳＢ1001

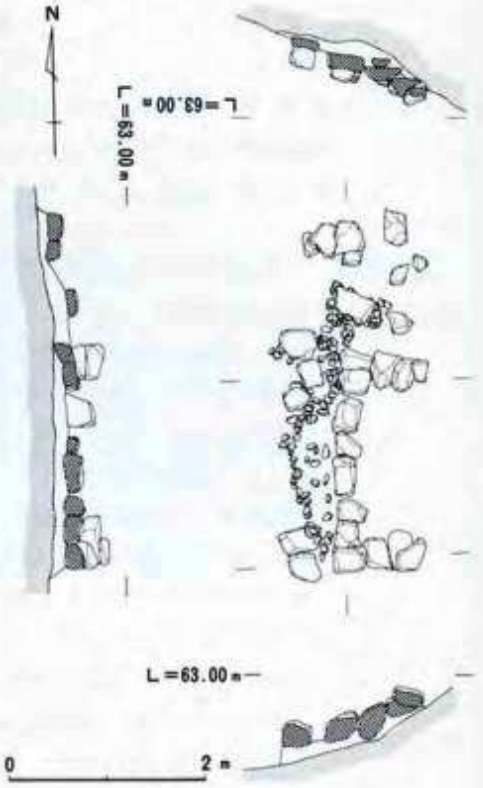
J区の南西部、８号溝のすぐ西に位置する。方形と考えられる掘り方をもち、西辺約6.1m、北辺約4.5mを測る。遺構面から約20～30㎝ほど掘り込まれた面上に土坑２・柱穴５基が掘られている。また西辺には幅約１mの間に、約20～30㎝大の砂岩礫からなる上下２列の石列を並置している。その石列の側面と下部に、浅黄色の砂質土を約５～10㎝ほど入れている。

出土遺物は輸入白磁皿、瓦質土器の椀、土師質土器の細片である。存続時期は出土遺物などからみて、14～15世紀を考える。

検出したのが一部であったため間数などは特定できないが、石列が調査区の南壁に続くことから、ある程度の規模をもった掘立柱建物であることが想定される。

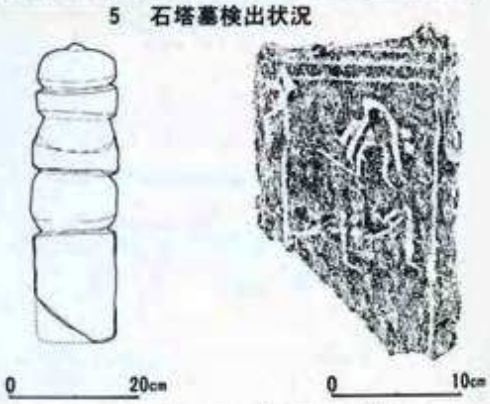
大　溝
ＳＤ1003

昨年度調査において寺域を画すと考えられた大溝の続き部分を検出した。J区の中央付近で、東西軸約５m、南北軸約２mの不整方形状で途切れる。



4　石塔墓実測図

5　石塔墓検出状況



6　一石五輪塔実測図・尖頭状板碑拓影

8号溝 SD1008　大溝の西約15mに位置し、調査区を南々東方向に直線的に走る。検出部の全長は20m、最大幅は2m、最深度は1.1mを測る。

出土遺物は土師質土器、古代末の須恵器であるが、掘削時期は石列を伴う建物との位置関係から14～15世紀を考えておきたい。

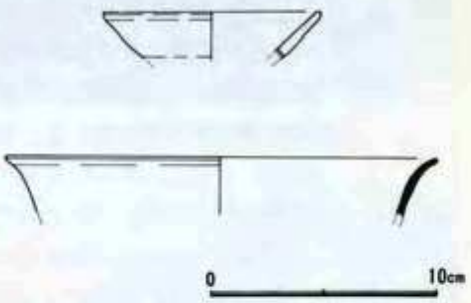
K・L区　昨年度調査のC・D区からの石列の続きの検出が期待されたが、宅地跡のために削平、攪乱がひどく石列は検出できなかった。

L区では中央付近に暗灰黄色の包含層が拡がり、その層の下に自然流路（SR1001）を検出した。昨年度のD区との境界の上層断面を観察すると、自然流路の上面に石列が並び、流路は石列より少し古い時期にあてられる。

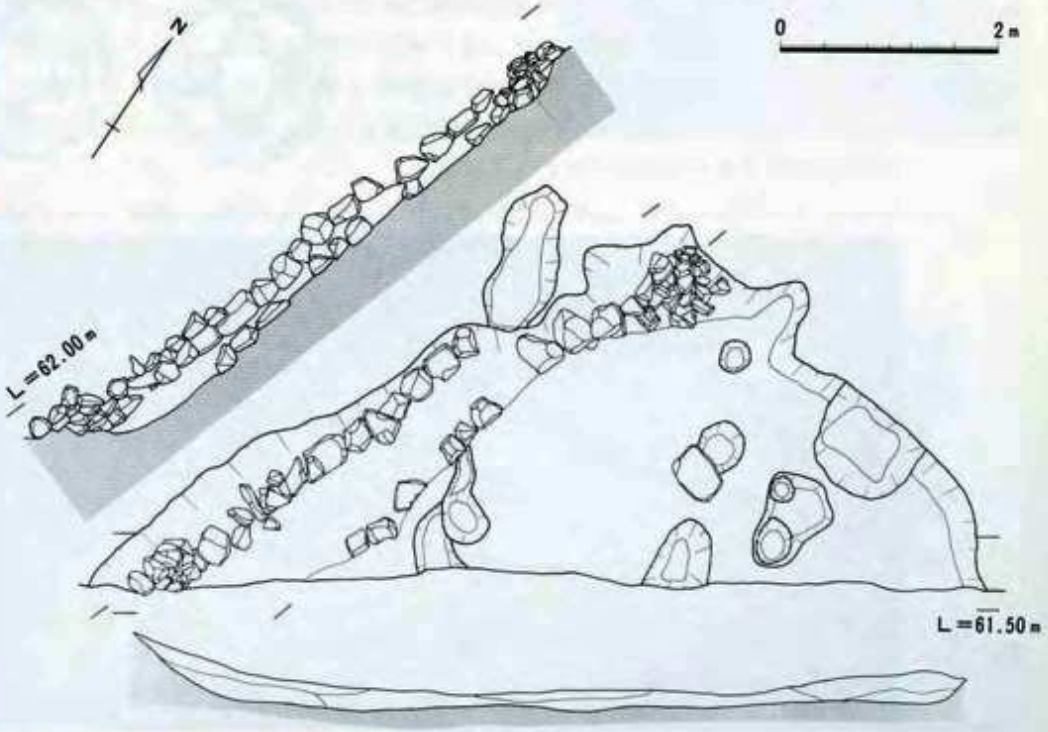
M区　M区の西側地点において、昨年度F区の建物群の続きを検出した。柱穴は平均で径40～50cm、深さ30～40cmを測る。柱穴から復元できる建物には、かなり大型のものがあると想定される。

2間×1間の掘立柱建物（SA1004）の柱穴からは、銘は不明であるが(嘉慶？通宝）、銅銭が出土している。また柱穴SP1470にも

7　石列を伴う掘立柱建物検出状況



8　石列を伴う建物出土遺物実測図



9　石列を伴う掘立柱建物実測図

菖蒲谷西山B遺跡

所在地　板野郡上板町神宅字菖蒲谷13他
調査期間　1992年10月1日～11月14日
担当者　須崎　平山　鎌田　桑原

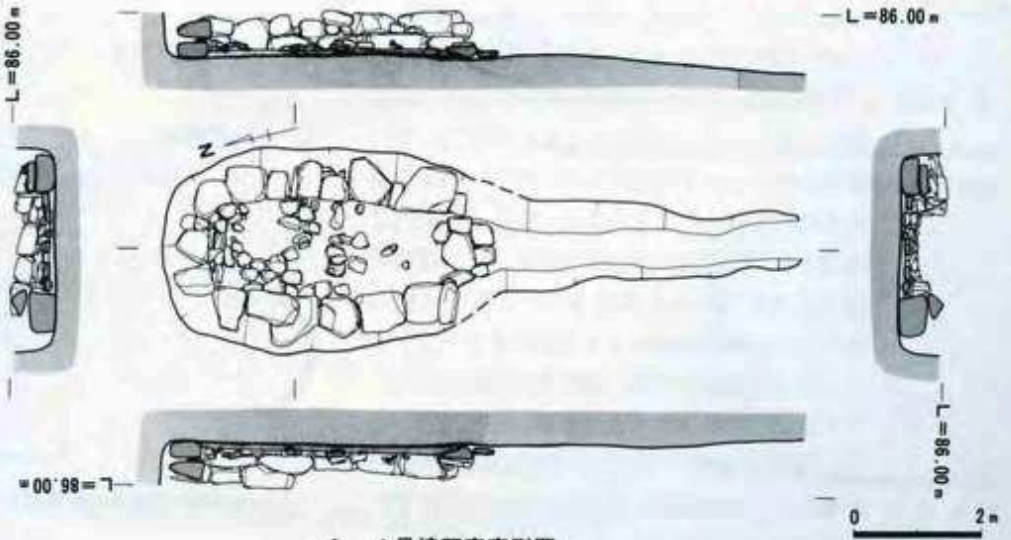
1　調査地点の位置（川島）

調査概要　本遺跡は、阿讃山脈南麓の狭小な尾根の先端部、標高約85mの地点に位置する。少なくとも6～7基の古墳から形成される古墳群で、谷ひとつ隔てた西の尾根には菖蒲谷西山古墳群が、また500m東側の山麓には山田古墳群Aが存在する。前年度の調査で、横穴式石室を持つ円墳が3基検出されており、今年度はその残りの250㎡を対象に調査を行った結果、横穴式石室を持つ円墳を1基検出することができた。

4号墳　墳丘の直径約14.5m、短径約12mの長円形の古墳で、墳丘北側に幅2m～2.5m、深さ約30cmの周溝を持つ。周溝には樹木による攪乱が多く、遺物は少なかった。

墳丘は、まず地山を尾根に沿って傾斜を持たせて整形し、その上に炭化物混じりの砂質土を敷いて固め、その上に粒の細かい土とやや粗い土を互層に突き固めて構築しているが、墳丘北側の尾根線上にあたる部分には、

2　4号墳遺物出土状況



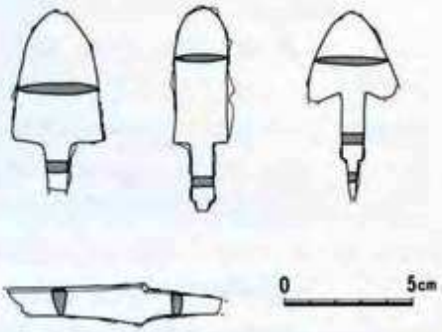
3　4号墳石室実測図

盛土は認められなかった。主体部には、横穴式石室を持ち、南側に長さ約4.5mの墓道が延びる。玄門部には高さ約60cmほど閉塞石が残存しており、その外側上層では須恵器がほぼ完形で出土した。また閉塞石の下層からも須恵器片が出土している。

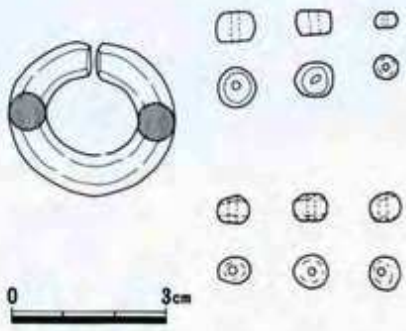
石　室　石室は、S13°Wに開口する、玄室幅約1.5m、長さ約3.5mの無袖式石室である。天井石は残存せず、石室内部は上から床面直上にかけて盗掘による攪乱を受けていた。最も残りのよいところで3段目まで残っている側壁は、0.7～1m大の砂岩を第1段目に据えて基礎とし、その上に同じ大きさの石を20～30cm大の小振りの砂岩で隙間を埋めながら積み上げて構築している。床面は20～30cm大の礫を中心に敷かれている。鉄器が小片を主としてほぼ全面に、玉類は中央やや奥壁よりから玄門部にかけて検出された。またトンボ玉が床石の下で割れて散った状態で出土したが、追葬段階で石を敷き直したためか、盗掘によるものかは不明である。石室内には土器がほとんどなく、また玄室中央より玄門側には、礫床が検出されなかった。

出土遺物　石室内からは、須恵器の杯身のほか、鉄鏃、刀子などの鉄製品や、ガラス玉、土製丸玉、耳環などの玉類が出土した。また墓道からはほぼ完形の杯蓋、高杯、平瓶などが出土した。須恵器はTK209段階と考えられる。

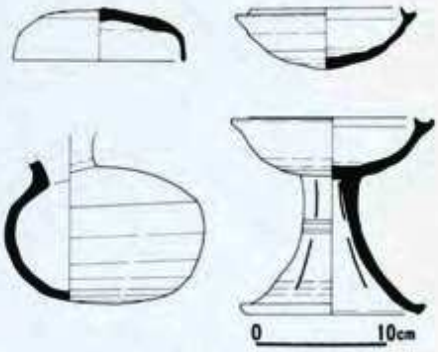
ま と め　今回調査された4号墳は、石室内出土の須恵器から考えて、6世紀末～7世紀初頭で、先に調査された1～3号墳よりやや新しい時期に築造されたものと考えられる。しかし、石室内で検出された須恵器が極端に少なく、また遺物全体を見ても良好なものが少ないこと、盗掘によって主体部が床面直上まで攪乱を受けていることから、追葬の回数、被葬者の性格などについては慎重に検討すべきである。柿谷遺跡、山田古墳群Aなど、周辺の古墳群の調査ともあわせて、この地域の古墳群の有様を示す資料の一つとして注目される。（須崎）



4　出土遺物（鉄器）



5　出土遺物（玉・耳環）



6　出土遺物（須恵器）

蓮華谷古墳群（I）

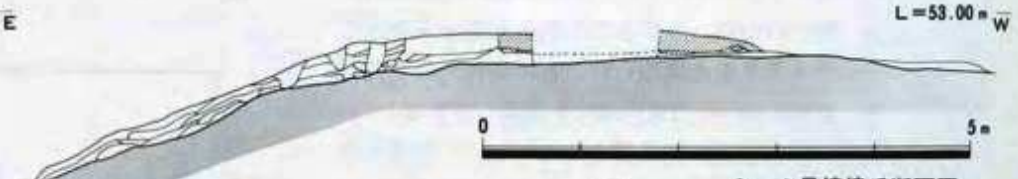
所在地　板野郡板野町犬伏９－１－２他
調査期間　1992年４月６日～５月22日
担当者　辻　須崎　九十九　桑原　篠原
　　藤本　橋川

1　調査地点の位置（川島）

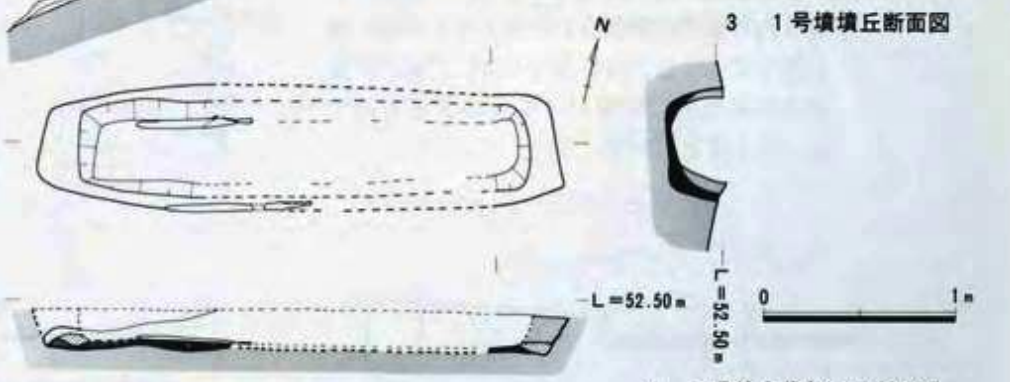
調査概要　本遺跡は阿讃山脈より南にのびる標高約50mの尾根上に位置する。今回の調査では２基の円墳が確認できた。

１号墳　現地は後世に墓地として利用されていたため著しい削平と攪乱を受けており、墳丘自体も西半分については不明な点が多い。墳丘は北側と南側で地山を削り出した後に盛り土を施し構築されている。直径は12m、高さは現存で1.4mを測る。墳丘南東部には南北６m東西１mの範囲にわたり葺石が残存していた。内部主体は木棺直葬、長さ2.7m、幅0.65mの隅丸長方形の墓壙を掘削した後に底面に粘質土を敷きつめ棺床としている。棺床は断面U字状を呈し刳抜式木棺が採用されたものと思われる。棺は長さ2.3m、幅0.45mで棺小口の幅は東側がやや広く、主軸はN－78°－Eである。棺設置後は粘質土と粘土で四周を固定し、更に粘質土で棺を被覆した後に山

2　１号墳墳丘全景



3　１号墳墳丘断面図



4　１号墳主体部平・断面図

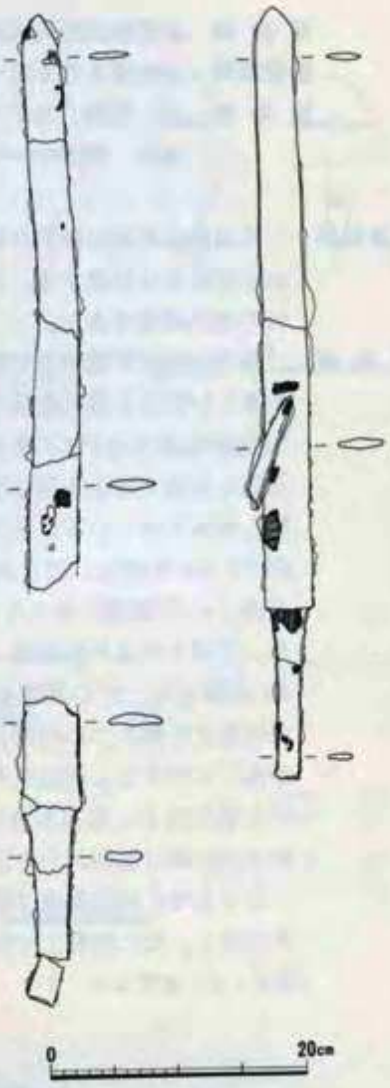
土で盛り土している。

出土遺物　棺内遺物は鉄剣が長側辺北西部底面で切先を西側に向けた状態で検出された。更に鉄剣の下に刀子が1点検出された。棺外遺物としては鉄剣が長側辺の南西部棺押さえの粘土の上面で切先を西に向けた状態で検出された。この他主体部中央の攪乱土中より鉄鏃が2本墳丘南側の攪乱土中より鉄鏃が1点出土した。棺内より出土した鉄剣は47cmの刃部に13cmの茎部を持つ。刃部と茎部の一部に木質をとどめる。刀子は茎部を欠失し、残存長は9cmを測る。棺外の鉄剣は52cmの刃部に15cmの茎部を持つ。出土した鉄鏃2点の内全長のわかるもので10.5cmを測り、茎部の末端に樹皮と木質の痕跡をとどめる。鉄鏃は両端を折り返し長さ17.2cm、幅4.5cmである。

2号墳　調査区の東南隅で墳丘の裾と周溝の一部が確認できた。周溝の規模は幅1.1m深さ0.2mで断面は浅いU字状を呈する。

まとめ　今回の調査で確認された1号墳の構築時期は土器の出土がないため厳密な時期の決定は困難であるが、副葬された鉄鏃の形態を見ると茎部がいわゆる長頸鏃に比べてやや短く、両丸造、斜め関であるなどの特徴が認められ徳島市恵解山9号墳南方埋葬施設出土のものに近似しており、古墳時代中期前半（5C前半）におさまるものと思われる。埋葬頭位は、棺小口の幅、副葬された剣の配置から東頭位をとるものと考えられ、古墳時代前期に四国東部に盛行した東西頭位を指向している。

本古墳は鉄製武器と農工具という副葬品の組み合わせや埋葬頭位から考えると中期古墳にあってもなお古相を保つと共に、それが被葬者の社会的な位置付けを反映するものであったと捉えられる。（辻）



5　1号墳出土遺物実測図

古城遺跡（C地点）

所有地　板野郡板野町古城字楠ノ本134－2他
調査期間　1993年2月4日～3月19日
担当者　原　安友　橋川

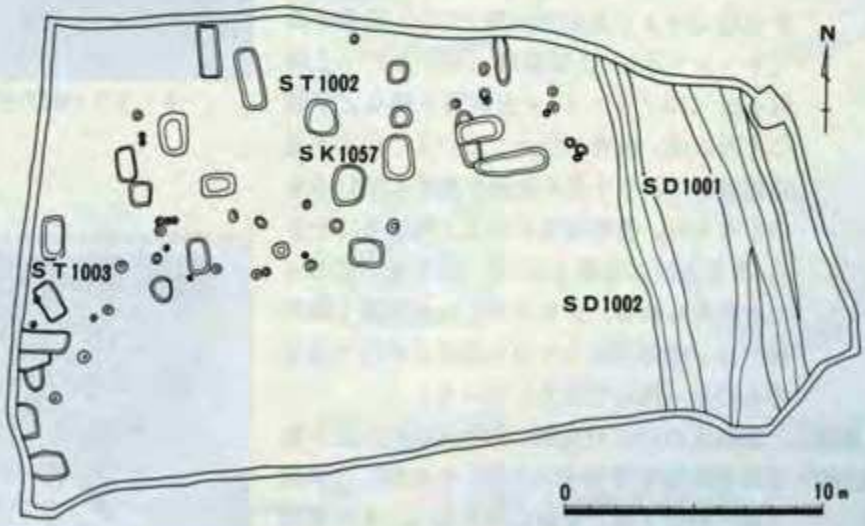
1　調査地点の位置（川島）

調査概要　本遺跡は、黒谷川より注ぐ唐ノ口川と宮川内谷川により形成された微高地上に立地しており、平成2年度に調査された調査区東側の残地部分であり、大溝によって区画された屋敷地内部があると推定された。

今回の調査では、第1遺構面（12世紀末～15世紀代）とその下約20cmに第2遺構面（12世紀前半～末）の2時期の遺構面が確認された。第1遺構面では大溝・土壙墓・土坑・ピット、第2遺構面では掘立柱建物跡・土坑・ピットなどを検出した。

2　SD1001・1002検出状況

第1遺構面大溝 SD1001 SD1002　調査区東端において、平成2年度に調査された溝とつながる溝を2条検出した。2条の溝は平行して南北に延び、断面形は逆台形を呈する。SD1001は幅が肩口で約2.2m・底面で約0.7m・深さ約1.3m前後である。SD1002は幅が肩口で約1.1m・底面で約0.5m・深さ約0.6m前後を測る。前回の調査と同様の土層堆積がみられた。SD1001は最初の溝



3　遺構配置図（第1遺構面）

が埋没した後、新しく溝を掘削していたことが確認できた。ＳＤ1001からは瓦器・土師質土器・土釜などが出土しており、時期は13世紀初～15世紀まで存続したと推定される。また、ＳＤ1002からは土師器・須恵器・黒色土器などが出土しているが、いずれも小片であるため明確に時期を特定することは困難である。

土壙墓
ＳＴ1002
ＳＴ1003

今回の調査において、比較的良好な状態で土壙墓を２基検出した。２基の土壙墓は長方形の平面プランをもち、規模はＳＴ1002は長幅1.5m、短軸0.8m、深さ0.3m、ＳＴ1003は長軸1.2m、短軸0.7m、深さ0.1mを測る。木棺に納められていた可能性があるが、その痕跡を確認することはできなかった。埋葬形態はともに北頭位の仰臥屈葬である。特にＳＴ1002は被葬者の胸部に刀子（10－7）が副葬されていた。これらの土壙墓の埋葬時期は、埋土中より出土した瓦器椀等から12世紀末～13世紀初にかけての年代が考えられる。

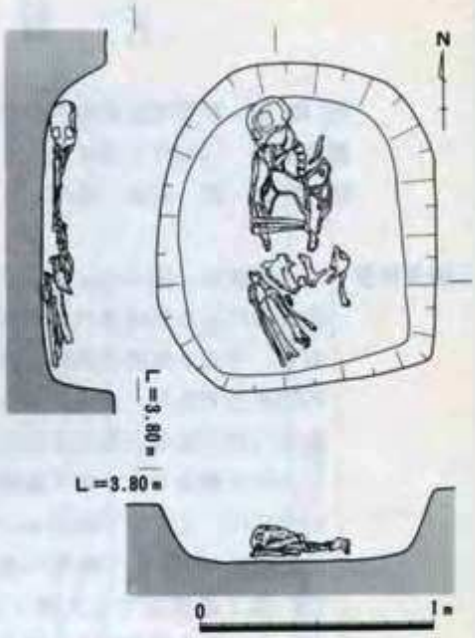
土　坑
ＳＫ1042
～
ＳＫ1064

本遺跡からは21基の土坑が検出された。検出された21基の土坑のうち、長方形の平面プランを呈する土坑については土壙墓の可能性があり、いずれも長軸は南北方向を示し、規則性が認められる。

ＳＫ1057は上面に炭化物・焼土が堆積し、その埋土中より瓦器椀（８－１）・瓦器小皿（８－４・５）・土師質杯（10－１）・土師質小皿（10－３・４）・土師質土鍋など多数の土器の他、獣骨も出土している。出土土器には被熱により土器の表面が変色しているものもみられ、食物残滓が出土していることから、ＳＫ1057は廃棄土坑（ゴミ捨て場）であったと考えられる。また出土した土師質土器の杯には、底部回転ヘラ切り技法と糸切り技法のものが一括して出土している。

第２遺構面掘立柱建物

調査区のほぼ中央部において柱列が並ぶ掘立柱建物跡を３棟検出した。ＳＡ2001は梁間２間×桁行３間で東側に庇をもつ。その東側にＳＡ2002があり、規模は梁間２間×桁行３



4　ＳＴ1002人骨出土状況

5　ＳＴ1002刀子検出状況

6　ＳＴ1003人骨出土状況

ＳＡ2001～ＳＡ2003

間である。ＳＡ2001の南側にはＳＡ2003があり、規模は梁間１間×桁行１間である。ＳＡ2001・2002は主屋、ＳＡ2003はそれらに付属する納屋であると思われる。これらの掘立柱建物の時期は、周辺の状況から12世紀前半～12世紀末の頃であると思われる。

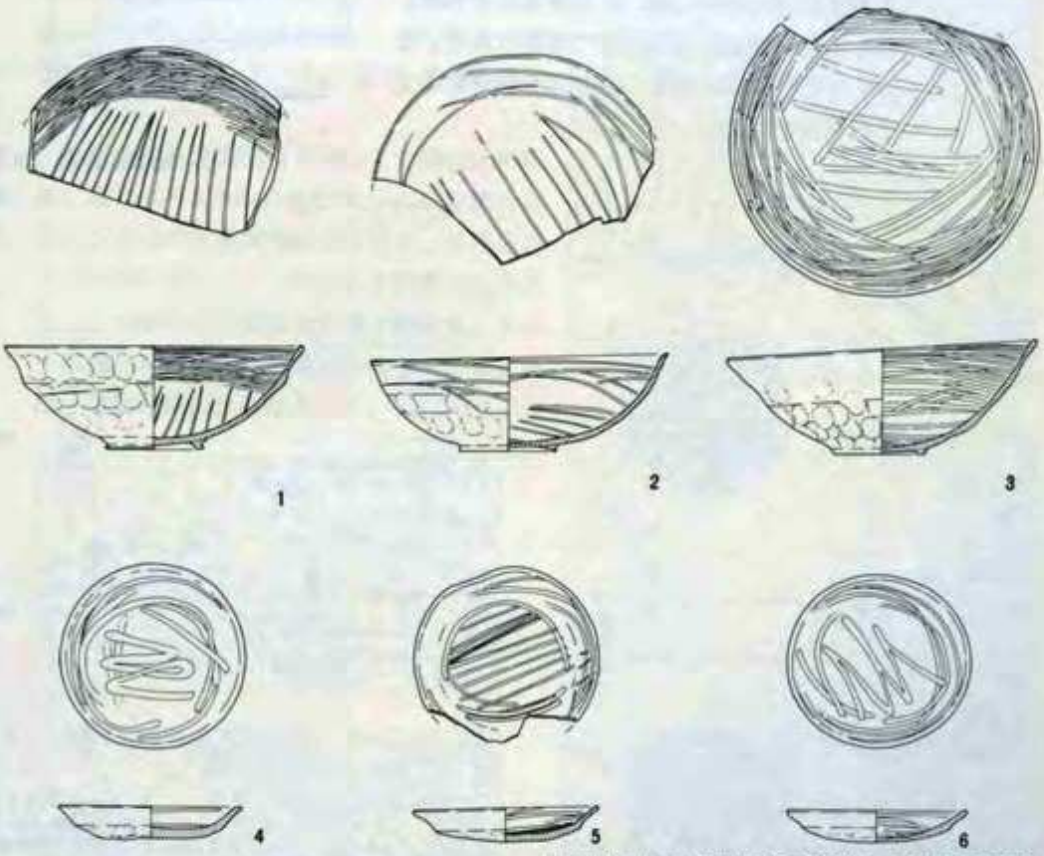
柵列ＳＡ2004～ＳＡ2007

ＳＡ2001～2003を画するように検出された柵列である。柵列の柱穴間は約2.0mを測る。屋敷を区画する機能をもつもの思われる。

出土遺物

第１遺構面・第２遺構面出土遺物については、主に12世紀～14世紀にかけての土師質土器・瓦器・輸入陶磁器などを検出した。特に今回の調査では本県において、12世紀には土師質土器の杯・皿類の製作技法である底部回転糸切り技法が、すでに一般的な製作技法として普及していたことが明らかになった。本

7　ＳＫ1057　遺物出土状況



1　瓦器椀　4.5　瓦器小皿(ＳＫ1057)　2　瓦器椀(ＳＴ1002)
3　瓦器椀　6　瓦器小皿(ＳＰ1173)

8　出土遺物

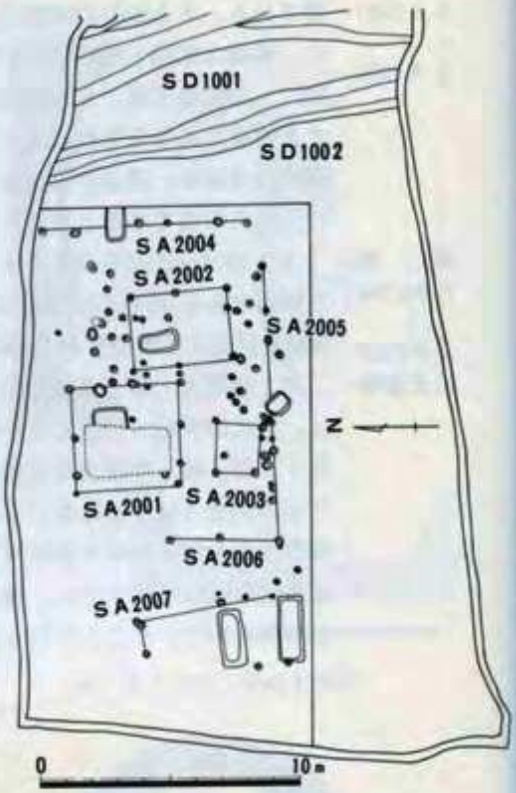
遺跡出土の土師質土器・瓦器等は、ほとんど不明であった本県における当該期の土器様相を知る上で貴重な資料となろう。

まとめ

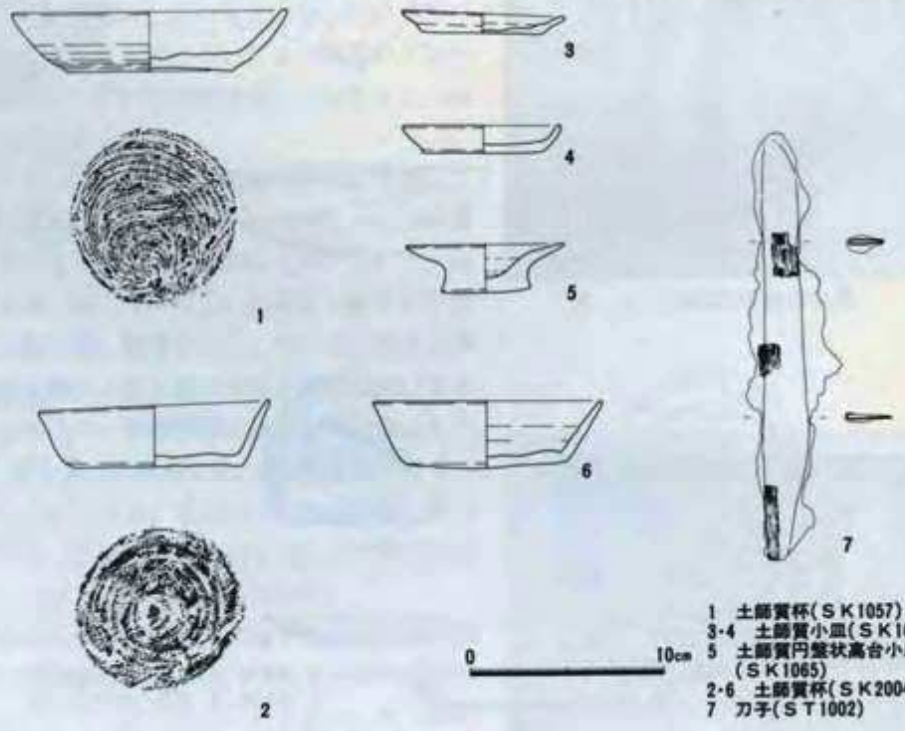
今回の調査で、本遺跡は平安時代末～室町時代にかけて存続した、溝により区画された屋敷地を伴う居住区及び土壙墓群であることが確認された。

第1遺構面では土壙墓群が検出された。土壙墓群の周辺にピットが検出されており、建物群の存在が想定されることから屋敷墓と捉えることもできるが、このような在り方は通常の屋敷墓にはなく、むしろ小規模墓地と考える方が適当であろう。これは中世集落における墓制を検討していくうえで貴重な資料となろう。

第2遺構面では、主屋と思われる掘立柱建物跡が2棟、それらに付属する納屋と思われる掘立柱建物跡が1棟、計3棟検出された。その規模・構成及び短期間で廃絶されていることなど当該期の集落の在り方を検討する上で興味深い。（原）



9　遺構配置図（第2遺構面）



1　土師質杯（SK1057）
3・4　土師質小皿（SK1057）
5　土師質円盤状高台小皿（SK1065）
2・6　土師質杯（SK2004）
7　刀子（ST1002）

10　出土遺物

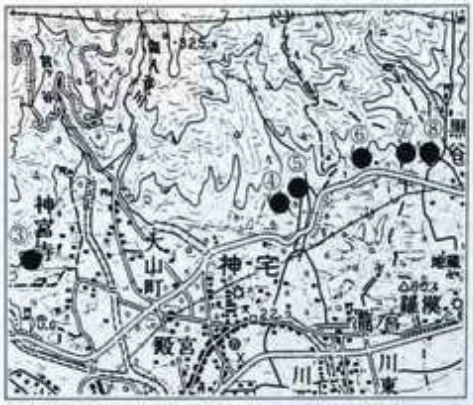
試　掘　調　査

所 在 地　発掘調査一覧表参照
調査期間　1992年4月2日～1993年3月17日
担 当 者　石尾　市原　中野　安友　藤本　橋川　篠原　原

八坂遺跡（Ⅲ）　昨年度に続いての試掘調査である。調査地点は日開谷川の支流高西谷川左岸で阿讃山脈南麓に位置し、地山は「しらはね」と呼ばれるきわめてかたい土質である。急峻な地形で現況は墓地となっており、ほとんどの場所に墓壙が掘られているためそれに伴う多くの攪乱が存在する。昨年度の調査同様遺物・遺構は確認されなかった。

向山古墳群　宮川内谷川北岸の、南及び東側が崖になっている標高82mほどの小丘陵上に位置している。現況は牧場になっており、人為的に土が動かされているところもあり、部分的にはすでに地山も露出していた。遺物・遺構も検出されなかった。

神宮寺遺跡（c地点）　昨年度礎石建物跡等を検出した調査区の西側、標高90～120mの尾根部分とその麓の谷部分が今回の試掘調査箇所である。谷部分は人工の溜め池がつくられており開墾の痕が著しく、尾根部分も腐植土が薄く堆積し、その下は風化した礫を含む地山となっている。遺構・遺物は検出されなかった。



①八坂遺跡(Ⅲ)②向山古墳群③神宮寺遺跡④山田古墳B⑤大谷古墳群⑥祝谷古墳⑦聖天山遺跡⑧黒谷窯跡⑨東中富遺跡⑩前須遺跡⑪新居須遺跡

1 1　調査地点の位置（徳島・川島）

山田古墳B　大山谷川と大谷川に挟まれた標高80～100mの丘陵部に位置し、現況は果樹畑・山林である。分布調査で古墳群が想定され、また昨年度斜面部分で蔵骨器が出土したことから中世墳墓の可能性もあると想定されていたが、それと考えられる遺構・遺物は検出されなかった。

大谷古墳群　大谷川右岸に位置し、西側は山腹がせまる谷地形である。現況は宅地及び果樹畑である大谷古墳群の数基ある古墳のうち一基がかかるのではないかと想定されていたが、遺物・遺構は検出されなかった。

祝谷古墳　阿讃山脈から南に延びた尾根上に位置し、標高は90～120mである。南に果樹試験場が建つ尾根もあり、平野部からの展望には好条件の場所ではない。尾根上に古墳があると想定されていたが、遺物・遺構は検出されなかった。

聖天山遺跡　祝谷古墳の東側の尾根に位置しており、祝谷古墳と同様平野部からの展望には好条件であるとは言いがたい。傾斜も急峻であり、腐植土直下が地山である。遺物・遺構は検出されなかった。

黒谷窯跡　板野町黒谷の扇状地地形の扇頂部にあたり標高70m台の尾根とその東側の平地部分の調査を行った。尾根部分は古墳を、平地部分は窯跡を想定していたが、尾根部分は黒谷地区の民俗行事「三吉べー」（毎年7月7日に小屋を建て、8月13日に焼き払う。左義長の一形態）が行われていた場所で、すでに平たく改変されていた。また、平地部分も山際で人為的な削平が見られ、窯跡と想定できる遺物・遺構は検出されなかった。

東中富遺跡　吉野川と旧吉野川にはさまれた沖積平野に位置し、標高4.7mから5m前後である。現況は宅地及び畠地である。中世の集落・水田跡が想定されていたが、砂を多く含む砂質土層と砂層の互層となっており、数度となく洪水を被った模様である。遺物・遺構は検出されなかった。

前須遺跡　東中富遺跡の東に位置しており、立地条件は吉野川沿いの沖積平野である。堆積も基本

⑫佐城遺跡（Ⅰ）⑬佐城遺跡（Ⅱ）
⑭佐城遺跡（Ⅲ）⑮滝ノ宮遺跡

1　2　調査地点の位置（脇町）

2　山田古墳B　調査前風景

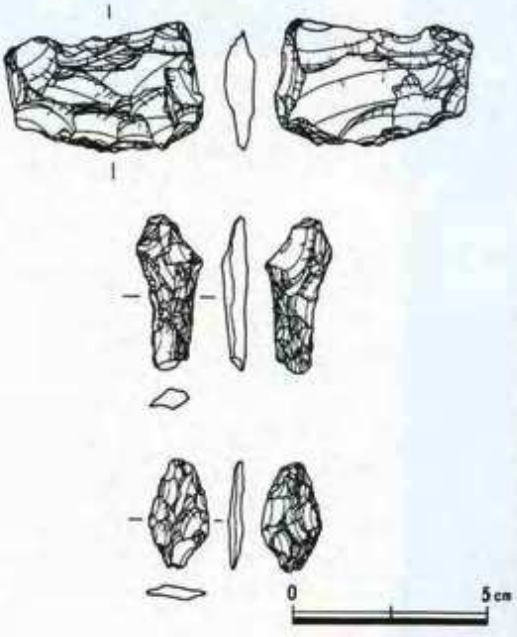
的には砂を多く含む砂質土層と砂層の互層であるが、調査区中央部は全くの砂層である。この地区は旧来の微高地にあたると想定されていたが、旧河道の蛇行している内湾部にあたるため、早い時期より砂層の堆積がみられたものと思われる。遺物・遺構は検出されなかった。

新居須遺跡　吉野川左岸堤防直下に位置し、標高4.4m程度の沖積平野である。現況は畑になっている。この地区は平安時代の東大寺領新島荘の一部にあたると考えられていたが、砂を多く含む砂質土層と砂層が繰り返されるのみで、遺物・遺構は検出されなかった。

佐城遺跡（Ⅰ）　大谷川右岸の河岸段丘上に位置し、標高は110m台である。尾根中央やや西寄りは旧来湿地帯だった模様で、耕作土・盛り土の下は水の影響をうけた土質となっている。また調査区西端は耕作土直下で整地された地山が確認できるなど、人為的な改変が見られる。遺物・遺構は確認できなかった。なお、本遺跡

3　向山古墳群　調査前風景

4　八坂遺跡（Ⅲ）土層断面



6　佐城遺跡（Ⅱ）出土遺物実測図

5　山田古墳B　土層断面

の東半は保安区域になっており、今年度は調査を実施できなかった。

佐城遺跡（Ⅱ）　本遺跡は、佐城遺跡（Ⅰ）から谷をはさんだ西側の河岸段丘上に位置し、標高115～130mにわたる傾斜地である。傾斜地のため、田畑造成時に土が動かされている部分もあり、耕作土直下は多くの場合盛り土となっているが、部分的にはサヌカイト片・弥生土器片が出土する明黄褐色層も確認できた。

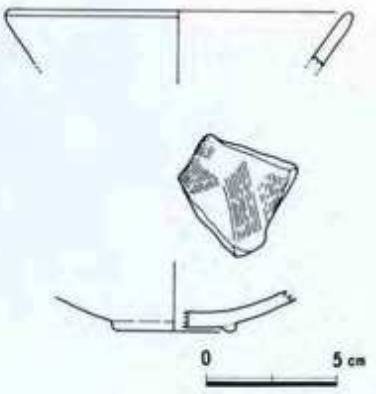
佐城遺跡（Ⅲ）　脇城跡のある河岸段丘上に位置し、平坦面から急峻面にさしかかる場所にあたる。標高は130m台である。土地が急峻であるため人為的な改変が著しく、遺物・遺構も検出されなかった。

滝ノ宮遺跡　鍋倉谷川左岸の河岸段丘上に位置し、標高は129mほどである。瓦質土器片や土師質土器片が出土したほか、中世と想定される溝状遺構が検出できたこと、また、この段丘突端に鎌倉時代の経塚があることなどから、今後の調査が期待される遺跡である。なお、縄文土器片や、弥生土器片・石器も出土している。（石尾）

7　滝ノ宮遺跡土層断面

8　滝ノ宮遺跡出土遺物

9　山田古墳B　トレンチ完掘状況



10　滝ノ宮遺跡出土遺物実測図

名東遺跡

所在地　徳島市名東町2丁目112他
調査期間　1992年9月1日～11月17日
担当者　藤川　氏家　佐藤

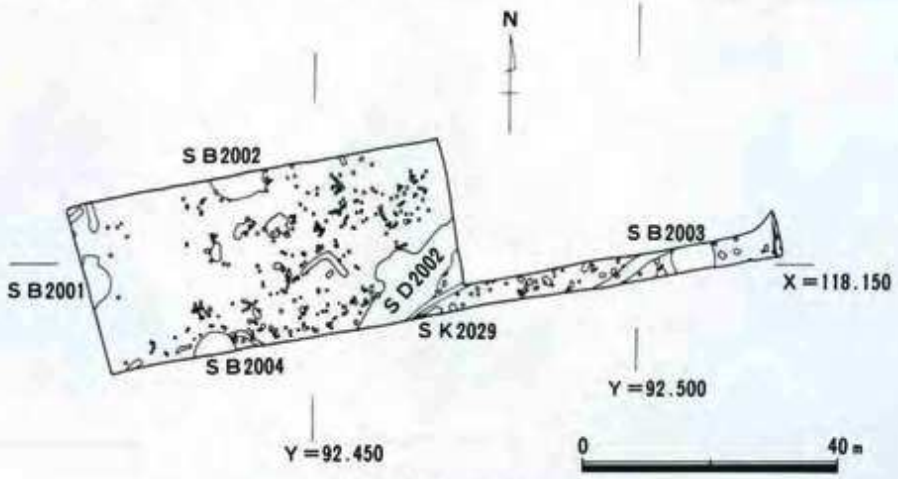
1　調査地点の位置（徳島・川島）

調査概要　本遺跡は吉野川の支流である鮎喰川右岸の沖積地に位置している。調査区南約200mには扁平鈕式銅鐸の出土した天理教名東大教会地区がある。遺構面は2枚存在しており、第1遺構面からは古墳時代以降とみられる遺構が、第2遺構面からは弥生時代の遺構がそれぞれ検出された。また第2遺構面の包含層中からは、縄文時代および旧石器時代の遺物も出土した。

第1遺構面の遺構　第1遺構面では、溝が5条、柱穴53基が検出された。2号溝が調査区のほぼ中央を東西に縦断しており、4号溝と5号溝はそれに平行するように延びている。また1号溝と3号溝は2号溝に直交して延びている。柱穴は調査区南半部分に集中している。出土遺物は少ないが、2号溝からは古墳時代に属すると考えられる須恵器の甕が出土している。

2　第1遺構面全景

第2遺構面の遺構　第2遺構面からは竪穴住居跡4軒、溝5条、土坑49基、柱穴474基、方形周溝墓1基が検出された。遺構はSD2002を境として、東側からは弥生時代中期末の遺構が、西側からは弥生時代後期後半の遺構がそれぞれ集中して



3　第2遺構面平面図

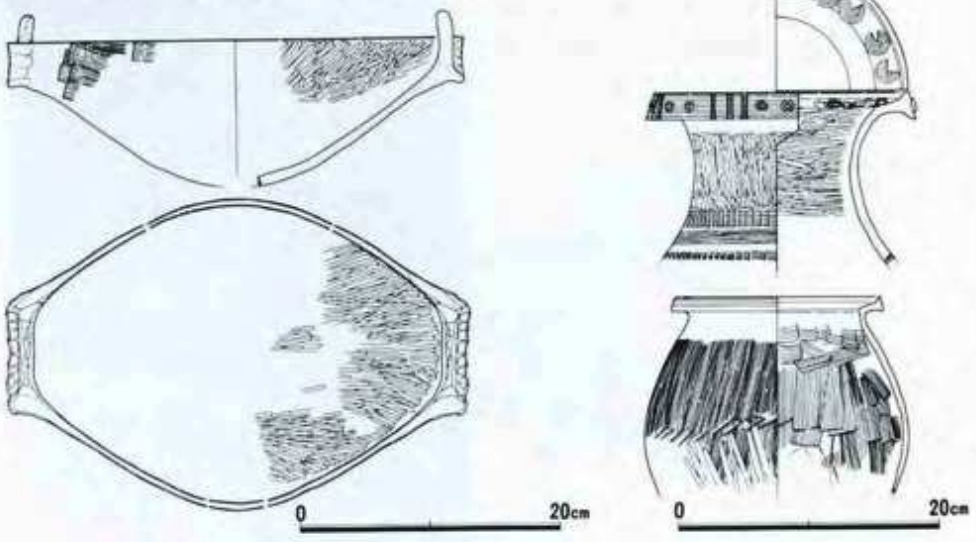
検出された。

住居跡 SB2003　弥生時代中期末の円形の竪穴住居跡である。南北の径は調査区外へ拡がっているため不明であるが、東西の径は7.1m、深さ0.5mを測る。床面は張り床になっており、住居の上部構造は4ないし6本の主柱穴で、数回建て替えが行われている。中央よりやや北寄りの床面には焼け込みによる変色や硬化した部分が存在しており、炉跡と推定される。また炭化物は住居跡中央部分に広く分布していた。遺物は壺形土器、甕形土器、高杯形土器が床面や土坑内に大量に投棄されていたほかに、回転台形土器、ミニチュア土器、ガラス玉、環状石斧、石鏃などが出土している。

また住居跡内からは朱の精製に関連した遺物と遺構が検出されている。東壁沿いの床面から並んで出土した2点の砂岩製の石杵には使用した面に朱の付着がみられた。さらに住居跡中央部の土坑内からは、埋土中に朱の沈殿した層が検出された。これらからSB2003は朱の精製に関する工房跡であった可能性が高い。

土坑 SK2029　弥生時代中期末の土坑である。規模は長軸が231cm、短軸が110cm、深さは最大74cmを測る。底面は北東側にテラス状の平坦部をもち、南西隅の最深部に向けて緩やかに傾斜してい

4　SB2003遺物出土状況

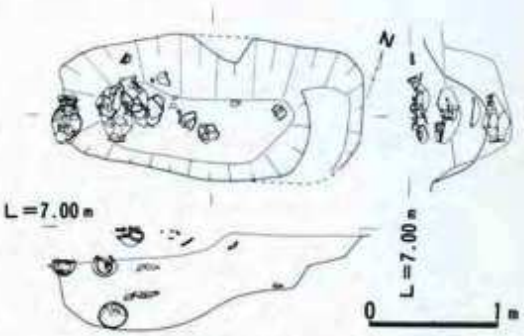


5　SB2003出土遺物実測図

る。遺構検出面において、壺形土器が2個体と甕形土器が1個体、そして底面に近いレベルにおいて壺形土器が1個体と甕形土器が1個体出土している。その他にも砂岩製のスクレイパーや結晶片岩製の石鏃を伴っていることから、墓壙の可能性が高い。

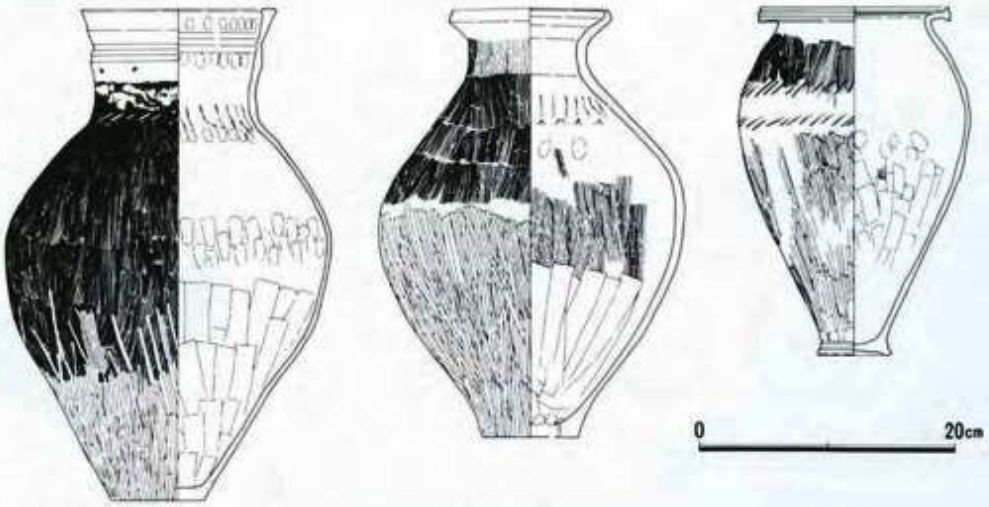
住居跡 SB2001　弥生時代後期後半の円形の竪穴住居跡である。西半分が調査区外に拡がっているため東西の径は不明であるが、南北の径は8mで、深さは0.35mを測る。南北の両端にはそれぞれ張り出しの施設を伴っている。床面よりやや上部の埋土中からは、焼土の拡がりと炭化材片の分布が確認された。柱穴は周囲に3本と中央部分に1本検出されており、住居跡の構造は周囲に4本、中央部に一本の主柱穴で構成されている。炉跡は中央部の柱穴からやや南寄りに、直径約30cm、深さ5cmほどの浅い掘り込みを利用している。遺物は床面よりやや上部で壺形土器と甕形土器が数個体ずつ出土しているが、いずれも小片である。

溝 SD2002　弥生時代後期後半の大規模な溝で、調査区を南北に縦断している。幅は約5.5～5mで、深さは最深部で1.4mを測る。西岸部分に3×6mほどの張り出し施設を伴っている。張り出し施設には階段状のテラス面が形成されており、下段の部分からは砂岩製の石臼が1点出土して



6　SK2029平・断面図

7　SB2001完掘状況



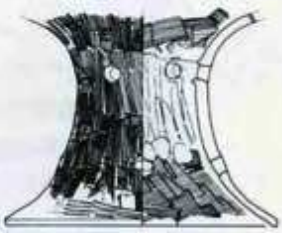
8　SK2029出土遺物実測図

いる。石臼は厚さ9㎝の平たい円礫を利用しており、半分が欠損している。両面に鶏卵大の凹みが2ないしは3ヵ所ずつみられ、石臼としてかなり使用されていたことが伺われる。また張り出し施設に面した溝の底部には井戸状遺構が2基検出された。井戸状遺構の規模は直径が1.2～1.5m、深さは2.0～2.5mを測り、内1基はシルト層を貫通して砂層にまで達していた。張り出し施設と井戸状遺構の性格は、朱の原石を粉砕するための作業場と、粉砕した辰砂を水簸するための施設にあたると推定され、ＳＤ2002は朱の精製を専門的に行うために掘削された溝であると考えられる。

9　ＳＤ2002石臼・井戸状遺構検出状況

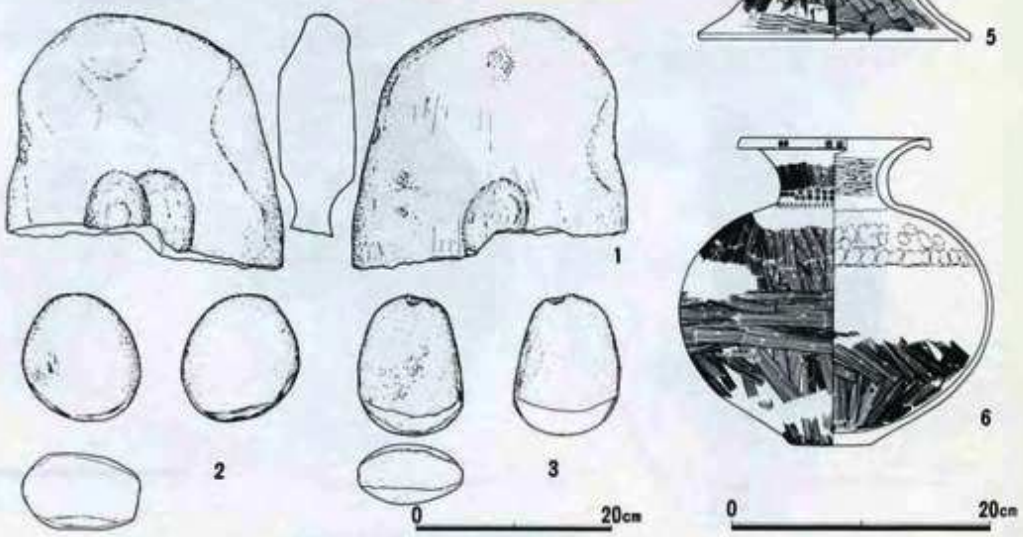
まとめ　特に今回の調査では、第2遺構面から朱の精製に関連する遺構や遺物がまとまって検出されたことが注目される。これまで県内で朱の生産に関連した遺跡としては、原産地に形成された若杉山遺跡と、集落遺跡では黒谷川郡頭遺跡が知られていたが、その形成年代は弥生時代後期後半である。今回朱の沈澱した土坑の検出されたＳＢ2003は弥生時代中期末であるため、県内における朱の生産の開始時期が弥生時代中期にまで遡ることを示す資料として重要なものである。今後の比較検討によって、県内における朱の生産の実態がより明らかになるものと期待される。（氏家）

4



5

6



10　出土遺物実測図　（ＳＤ2002　1・4～6　ＳＢ2003　2・3）

矢野遺跡

所在地　徳島市国府町矢野184他
調査期間　1992年7月15日～1993年2月26日
担当者　藤川　氏家　佐藤

1　調査地点の位置（川島）

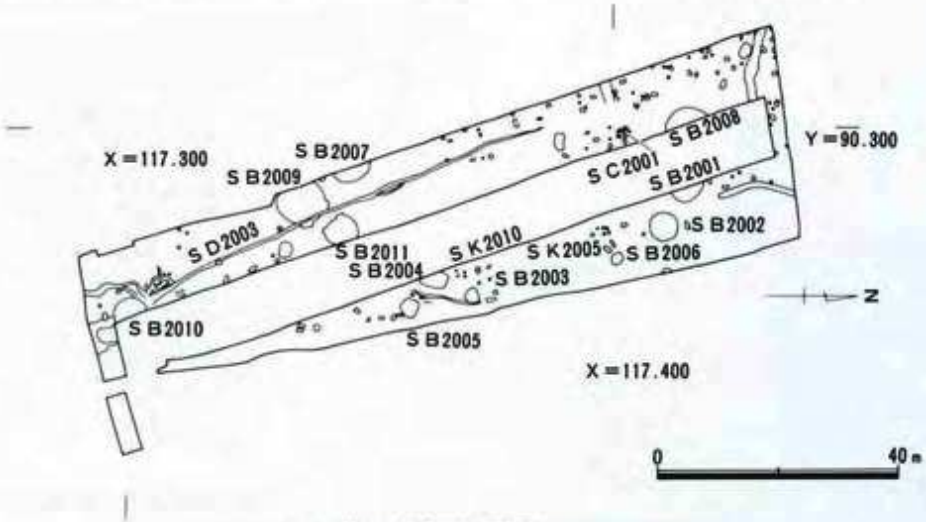
調査概要　本遺跡は吉野川の支流である鮎喰川左岸の沖積地に位置している。調査区より西へ約500mには、県下で初めて三角縁神獣鏡が出土した宮谷古墳が存在している。また周囲には国分寺や国府推定地などの古代の遺跡も多く存在している。

今回の調査では2枚の遺構面が確認された。第1遺構面からは古墳時代以降とみられる遺構が、第2遺構面からは弥生時代の遺構がそれぞれ検出された。特に第2遺構面からは銅鐸埋納坑が検出されたことが注目される。

2　第1遺構面全景

第1遺構面の遺構　調査区の地形は西から東へとなだらかに傾斜しており、調査区東端には南北方向に自然流路が存在している。第1遺構面は平坦な部分は後世の削平を受けており、傾斜地である調査区の北東寄りを中心に遺構が検出された。検出された遺構は、溝が1条、柱穴が39基である。

土坑SK1004　削平によって西半分のプランが明確ではないが、楕円形を呈する土坑である。深さも削



3　第2遺構面平面図

平のため5㎝と極端に浅いが、埋土中より6世紀末から7世紀初頭にかけてとみられる古墳時代の須恵器の蓋杯が1点出土している。

第2遺構面の遺構

第2遺構面からは竪穴住居跡5軒、大型土坑6基、溝6条、土坑88基、柱穴85基、銅鐸埋納坑1基、不明遺構2基が検出された。

住居跡

SB2008

弥生時代の円形の竪穴住居跡である。東側が調査区の外に拡がっているため、正確な規模が不明だが、径は約7m、深さは0.6mを測る。柱穴が6本と周溝が検出されている。炉跡は検出されなかった。遺物は甕形土器、高杯形土器、鉢形土器が出土している。出土した土器の型式から弥生時代後期末に位置付けられる。

4　SB2008完掘状況

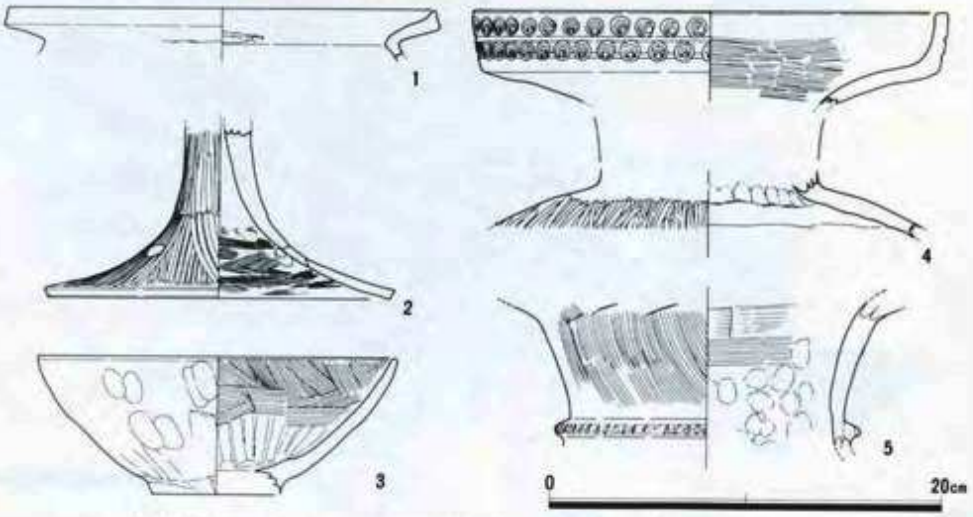
SB2011

弥生時代の円形の竪穴住居跡である。東側の一部が調査区外に拡がっているが、規模は径が約8m、深さは0.4mを測る。プランの西側と南側には、それぞれ1×1mほどの張り出しを伴っている。柱穴12本、土坑が1基、また周溝とベッド状遺構が検出されている。中央部分からは炭化物がまとまって検出されており、炉跡の可能性がある。遺物は甕形土器、鉢形土器、壺形土器などが出土している。壺形土器では口縁部分に2条の竹管文を施した山陰地方の搬入土器がみられる。出土した土器の型式から弥生時代後期末に位置付けられる。

5　SB2011完掘状況

SB2009

弥生時代の円形の竪穴住居跡である。西側



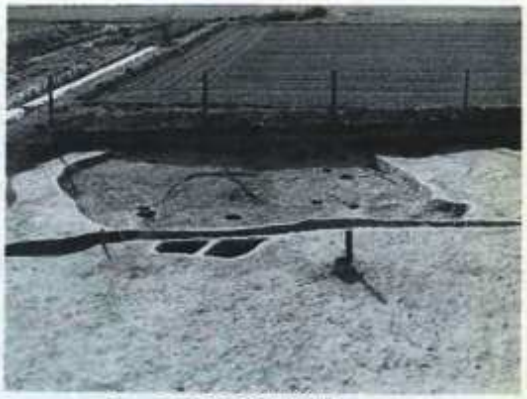
6　出土遺物実測図（SB2008　1～3　SB2011　4・5）

の一部が調査区外に拡がっているが、規模は径が約10m、深さは0.5mを測る。プランの北側と東側には、それぞれ1×1mほどの張り出しを伴っている。柱穴が10本と周溝とベッド状遺構が検出されている。遺物は甕形土器、鉢形土器、鎌などが出土している。出土した土器の型式から弥生時代後期末に位置付けられる。

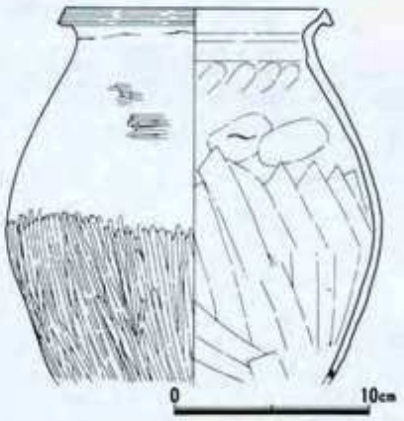
SB2007　弥生時代の円形の竪穴住居跡である。西側が調査区外に拡がっているため、正確な規模は不明であるが、径が約7m、深さは0.5mを測る。柱穴が5本検出されている。柱穴から木炭片が大量に検出されている。遺物は甕形土器、鉢形土器などが出土している。出土した土器の型式から弥生時代後期末に位置付けられる。

大型土坑　SB2001からSB2006までは大型土坑として取り扱っておく。これらの遺構はSB2007からSB2011までの竪穴住居跡とは異なり、やや規模が小さく、柱穴などの施設が検出されていない。また遺構の立地も住居跡に較べると、より自然流路に面した傾斜地に位置している。そのため一般の住居跡とは異なる性格のものと考えられる。

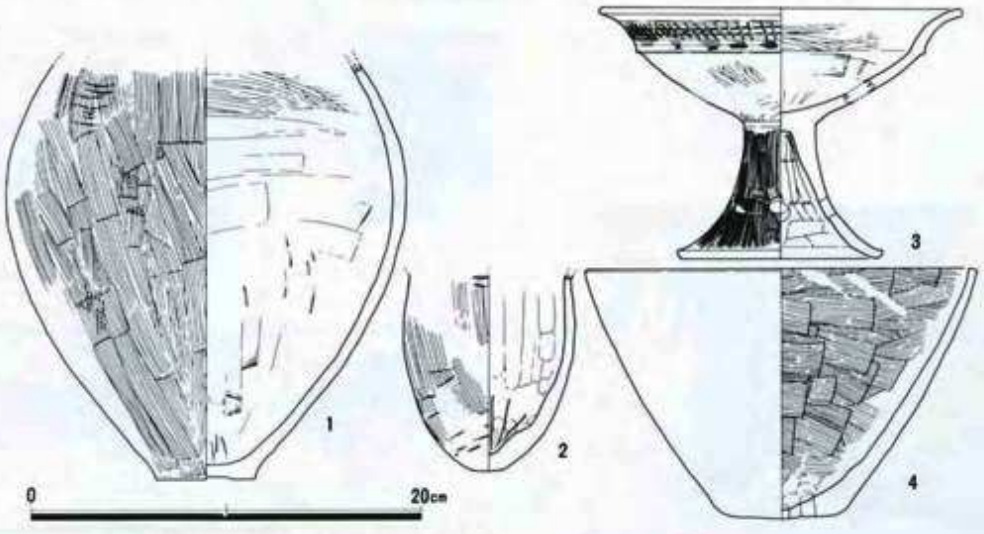
SB2002　弥生時代の大型土坑である。平面プランは



7　SB2009完掘状況



8　SB2007出土遺物実測図



9　出土遺物実測図（SB2009　1・2　SB2002　3・4）

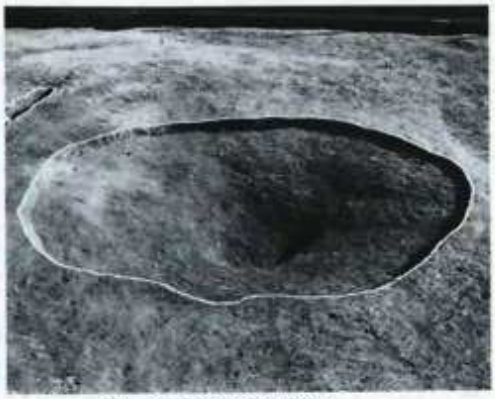
円形で擂り鉢状を呈している。規模は径が5m、深さは0.5mを測る。遺物は鉢形土器、高杯形土器などが出土している。出土した土器の型式から弥生時代後期末に位置付けられる。

ＳＢ2003　弥生時代の大型土坑である。平面プランは隅丸方形を呈している。規模は一辺が3m、深さが0.3mを測る。遺物は甕形土器などが出土している。出土した土器の型式から弥生時代後期後半に位置付けられる。

ＳＢ2004　弥生時代の大型土坑である。平面プランはほぼ円形を呈している。規模は径が4m、深さは0.5mを測る。底面からは炭化物がまとまって出土している。遺物は壺形土器、甕形土器、鉢形土器などが出土している。出土した土器の型式から弥生時代後期後半に位置付けられる。

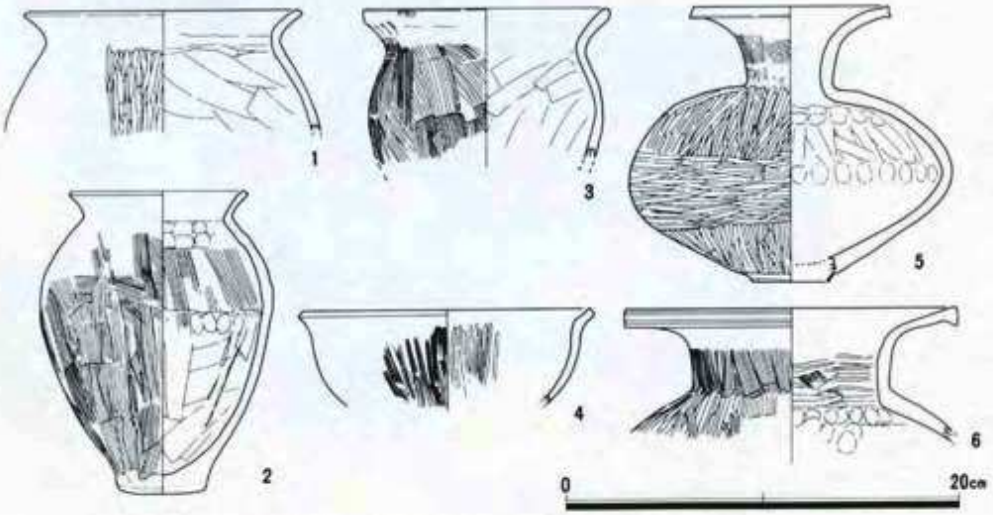
溝
ＳＤ2003　弥生時代の溝である。調査区内を南北に縦断しており、規模は総延が約100m、幅は最大部で約0.7m、深さは最深部で約0.3mを測る。遺物の出土状況は、数ヵ所に分かれて土器が廃棄されていた。弥生時代後期後半に位置付けられる。

土坑
ＳＫ2010　弥生時代の土坑である。平面プランは隅丸長方形を呈し、規模は長軸が1.5m、短軸が1.0m、深さが0.3mを測る。底面はほぼ平坦で、土壙墓の可能性が高い。土坑内南西部分から土器がまとまって出土している。主な遺物は壺形土



10　ＳＢ2002完掘状況

11　ＳＢ2003遺物出土状況



12　出土遺物実測図（ＳＢ2003　1・2　ＳＢ2004　3～6）

器、甕形土器、鉢形土器が出土している。出土した土器の型式から弥生時代後期後半に位置付けられる。

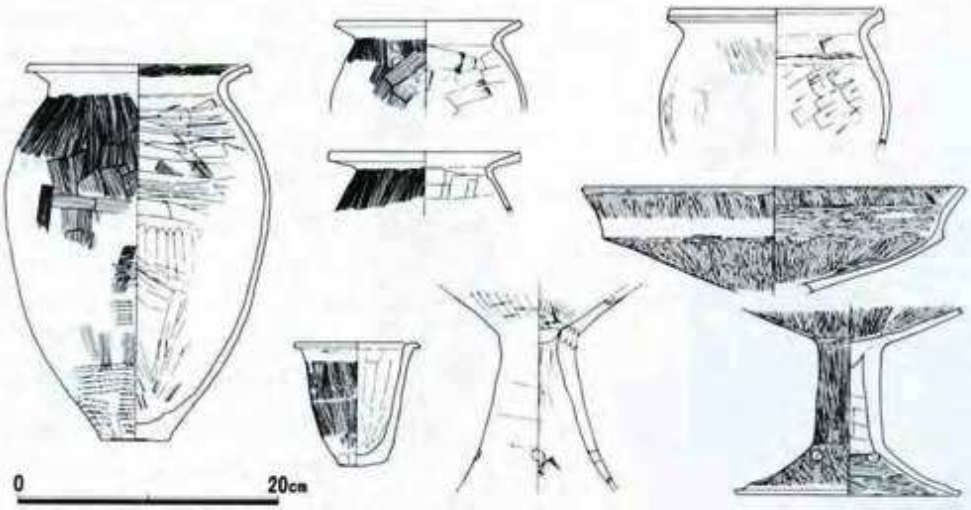
ＳＫ2005　弥生時代の土坑である。平面プランは隅丸方形を呈し、規模は一辺が0.5m、深さが0.2mを測る。土坑内からは高杯形土器、甕などが出土している。弥生時代後期末に位置付けられる。

埋納坑ＳＣ2001　突線鈕式銅鐸が１口埋納されていた銅鐸埋納坑である。平面プランは隅丸長方形を呈し、規模は長軸が1.36m、短軸が0.61m、深さは0.5mを測る。銅鐸は鰭を上下に立て、横倒しになった状態で出土した。銅鐸は周囲を黒色の砂質土によって包まれており、さらにその外側には褐色の砂質土が取り巻くという、非常に丁寧な方法で埋められていた。また銅鐸の鐸身内部には心棒状に黄色の砂質土が存在し、黄色の砂質土と鐸身との間に黒色の砂質土が存在していた。銅鐸の埋納に際して、鐸身内に土が充塡されていたか否かについてはこれまではっきりとした結論は出されていないが、矢野遺跡の例は鐸身内部に意図的に土の充塡が確認された例である。

出土した銅鐸は突線鈕５式の最も新しい型式の銅鐸で、総高は97.8cmに及ぶ。発掘調査中に出土した銅鐸は全国で８例ほど知られて

13　ＳＢ2004遺物出土状況

14　ＳＤ2003遺物出土状況



15　ＳＤ2003出土遺物実測図

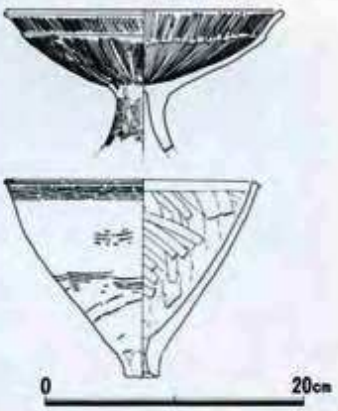
いるが、突線鈕５式の銅鐸の埋納例は初めてである。

また周辺からは銅鐸埋納坑を取り巻くようにして７ヵ所の柱穴が検出された。柱穴の規模は、それぞれ直径が15～30㎝、深さが約20㎝ほどであり、規模が揃っていることや配列の関係からみて、７本の場合は立柱列、６本が利用された場合であれば棟持柱を有するおよそ一間四方の建物の存在が想定される。

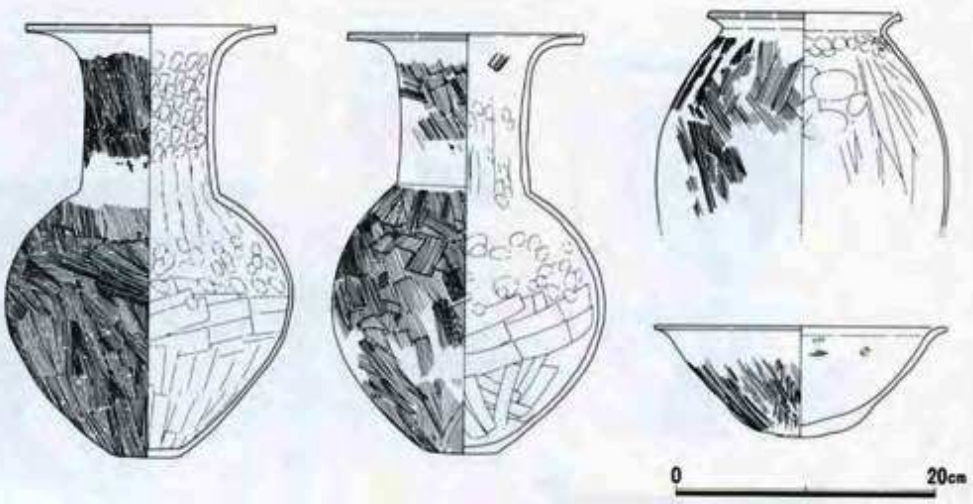
まとめ

これまで矢野遺跡は県教育委員会によって発掘調査が行われた国府変電所地点や国府養護学校地点など、今回の調査地点の北側の調査が主であったことから、一般に遺跡の中心は北寄りに考えられていた。しかし今回、弥生時代の集落跡が検出されたことから、遺跡全体の拡がりについても再検討する必要がある。第１遺構面では時期の特定できる遺構は少なかったが、包含層中から布目の圧痕のついた瓦や土師質土器が出土していることから、国分寺に関係する遺構も今後の調査で確認される可能性が高い。第２遺構面では集落内に銅鐸が埋納されていたことが注目される。来年度遺構の調査によって、弥生時代の祭祀、および銅鐸を保有していた集落の実態がさらに解明されることが期待される。（氏家）

16　ＳＫ2010検出状況



17　ＳＫ2010出土遺物実測図



18　ＳＫ2005出土遺物実測図

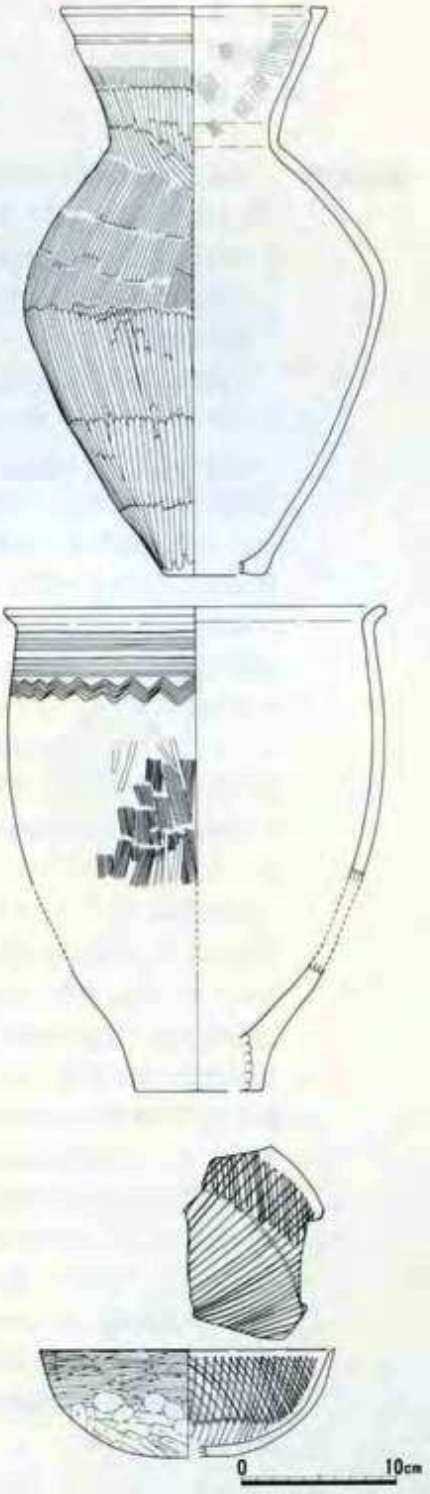
日吉谷遺跡

所在地　阿波郡阿波町字日吉谷24－2他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　小泉

整理概要　日吉谷遺跡は平成元年度・平成2年度にわたって発掘調査が行われた。調査面積は合わせて4,080㎡である。調査の結果、旧石器時代のブロック、弥生時代の集落跡、古墳時代の竪穴住居跡、中世の集落跡等多くの遺構が検出された。整理作業は平成3年度に遺物の洗浄、注記等の基礎整理が行われており、今年度は遺物の実測、トレース、レイアウト、原稿の作成等を行った。また、古墳時代の竪穴住居跡から出土した炭化材同定を委託した。

遺跡概要　本遺跡は、吉野川中流域左岸の標高約60mの段丘面中央部先端近くに位置している。旧石器時代の遺物は、石核・ナイフ形石器・翼状剥片等がブロックを形成しながら出土した。出土遺物は、剥片・チップが多量に出土していることから消費地遺跡と考えられる。また、県下におけるブロックの検出はこれが初例である。弥生時代中期には竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡4棟、土坑31基等の遺構が検出された。これらの遺構は、出土遺物より弥生時代中期初頭～中期末（第Ⅱ様式～第Ⅳ様式）に当たる。竪穴住居跡の中には県下では初例の長方形住居跡が確認され、本遺跡と瀬戸内地方との関係が注目される。古墳時代の遺構としては、竈付きの竪穴住居跡、土坑等が確認された。出土遺物より古墳時代末～終末期（7世紀初頭～前半）に当たる。竪穴住居跡からは土師器の杯、甕などが出土し、当該期の良好な一括資料となりうる。中世の遺構としては掘立柱建物跡6棟、土坑等が確認された。これらの遺構は出土遺物より13世紀～15世紀にかけてのものと思われる。

（小泉）



1　出土遺物実測図

赤坂遺跡（Ⅰ）・（Ⅱ）・（Ⅲ）

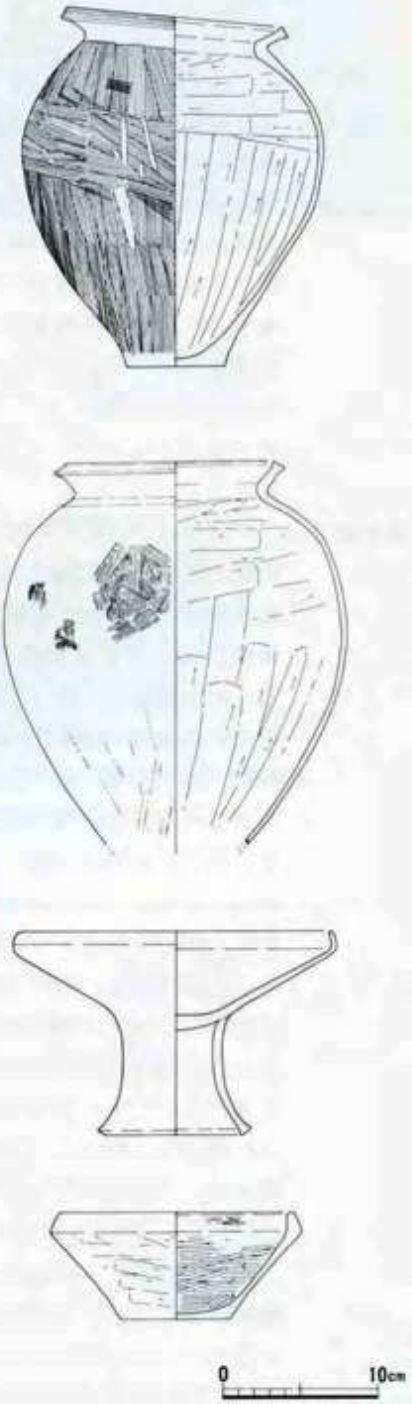
所在地　阿波郡阿波町字赤坂65－1他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　原

整理概要　平成元年度及び平成2年度に赤坂遺跡（Ⅰ）800㎡、赤坂遺跡（Ⅱ）50㎡、赤坂遺跡（Ⅲ）1,600㎡を対象として発掘調査を実施した。この調査によって、弥生時代中期後半の遺構・遺物を確認した。

3遺跡とも吉野川左岸の長峰台地と呼ばれる東西幅1～2㎞、海抜50～150mの緩やかな中位河岸段丘上に位置し、赤坂遺跡（Ⅰ）は標高65～66.5mに、赤坂遺跡（Ⅱ）は標高65m、赤坂遺跡（Ⅲ）は標高80～85mの丘陵先端部に形成された高位台地性集落である。赤坂遺跡（Ⅲ）では弥生時代中期後半に属する竪穴住居跡を2軒検出した。

赤坂遺跡（Ⅰ）・（Ⅱ）・（Ⅲ）の整理作業については、図面・写真整理・遺物の選別・遺物の復元・台帳作成の基礎整理及び出土遺物の実測作業・原稿の執筆を行い、報告書を刊行した。

赤坂遺跡（Ⅰ）・（Ⅱ）・（Ⅲ）の立地する曽江谷川左岸、吉野川に張り出した長峰台地を中心とする段丘先端には東西約2㎞の範囲に西長峰遺跡、日吉谷遺跡、桜ノ岡遺跡（Ⅰ）など継続時期の微差はあるが、ほぼ同時期の弥生時代の遺構が存在している。とくに西長峰遺跡では大規模な掘立柱建物跡を囲む形で多数の竪穴住居跡が検出されており、長峰台地遺跡群の中心的空間であったことをうかがわせている。これら一連の遺跡は各台地上に営まれた枝集落として把握する必要があり、それぞれの枝脈での土地利用形態の分析を通して、当該地域の集落構造を検討していく必要があろう。（原）



1　出土遺物（弥生土器）

桜ノ岡遺跡（Ⅰ）・（Ⅲ）

所在地　阿波郡阿波町桜ノ岡91－2他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　湯浅

整理概要　桜ノ岡遺跡（Ⅰ）・（Ⅲ）の整理作業は平成3年度に基礎整理、本年度は、報告書の原稿執筆まで行った。なお、集石土壙内の土壌（リン）・炭化材の分析を実施し、考察の一助とした。

遺跡概要

桜ノ岡遺跡（Ⅰ）　桜ノ岡遺跡（Ⅰ）は、吉野川中流左岸の中位段丘面に立地する。弥生時代中期と中世の遺構群が検出された。

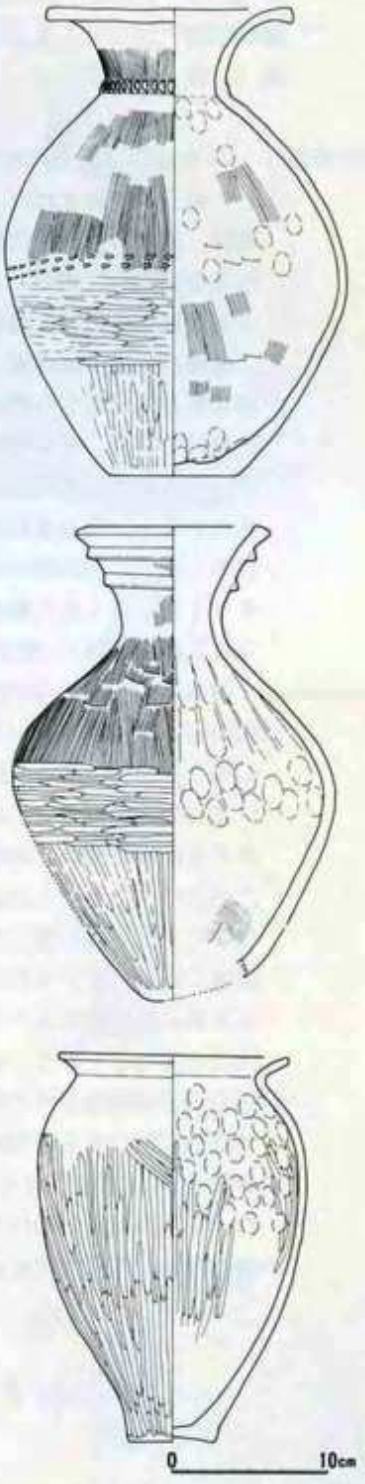
弥生時代中期には竪穴住居跡11軒、掘立柱建物跡2棟、集石遺構13基等が検討され、吉野川中流域における、この時期の集落の具体相の一部が明らかになった。

遺構の中で注目されるのは、掘立柱建物跡SA2001である。独立棟持柱をもつ構造と考えられ、集落の中で特殊な役割を果たした建物と推察できる。竪穴住居跡は、段丘面の東側で集中して検出され、そのほとんどが不整な円形である。建て替えが行われた住居もみられる。

また、集石遺構の存在が注目される。大きく分けて墓の可能性のあるものと、住居の廃絶に伴う祭祀と考えられるものがある。概ね、土器の破砕・礫の被覆・火の使用・黒色あるいは白色の円礫の存在が共通する。集石祭祀は本遺跡で特徴的にみられる行為であるが、独自なものではなく、中期末の土成町北原遺跡の集石土壙との関連が考えられる点で意義がある。

中世(12～16世紀)には、掘立柱建物跡19棟、溝7条、土壙墓・土坑25基等の遺構が検出された。

桜ノ岡遺跡（Ⅲ）　桜ノ岡遺跡（Ⅲ）は、（Ⅰ）の東側の狭い尾根状の段丘面上にあり、旧石器時代・弥生時代・中世の遺物が出土した。（湯浅）



1　集石土壙（SK1014）出土土器実測図

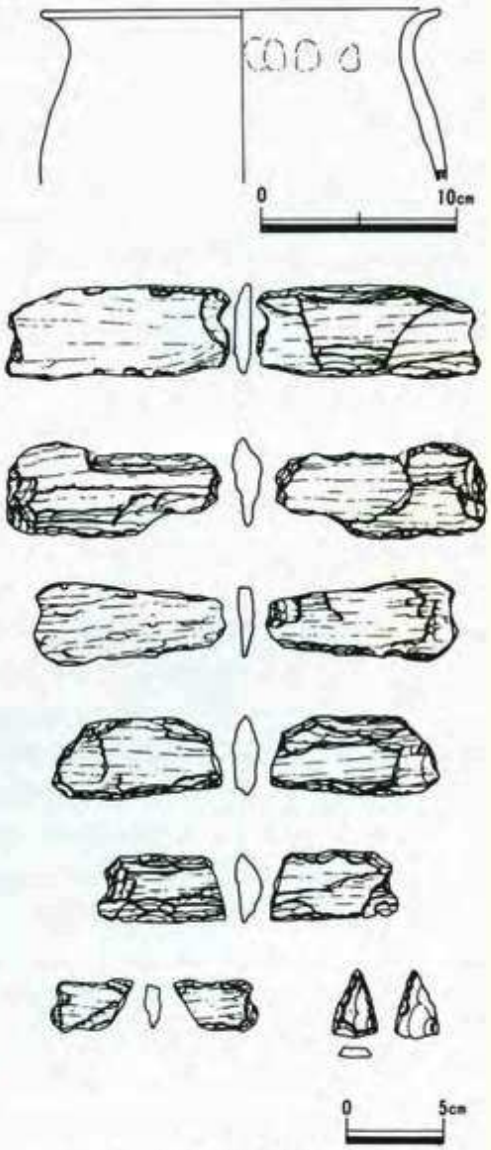
金蔵（こんぞう）～上井（うわえ）遺跡

所在地　板野郡土成町浦池字金蔵・上井1575他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　久保脇

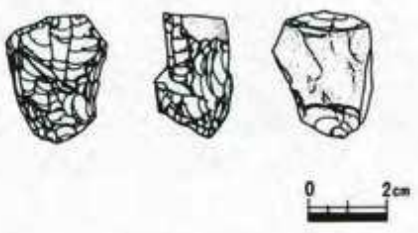
整理概要　本遺跡は平成元年度2,730㎡を対象として調査が実施された。今年度の整理作業は、遺物の洗浄、注記の基礎作業から作業を開始し、実測、トレース、レイアウト作業を経て報告書を刊行した。

遺跡は阿讃山脈南麓に形成された大規模な複合扇状地上の標高64～66m地点に位置している。3ヵ所に分けられた調査区は、開墾のため部分的に削平の著しい地点がある。検出された遺構は、弥生時代の土坑2、同時期の性格不明の焼土溜まり1、少なくとも鎌倉時代以前と考えられる溝状遺構1、炭窯6と僅かである。

遺物は旧石器から中世までの広範な時代のものが出土しているが、何れも遺構同様、一様に少なく、比較的まとまっているといえるものは、調査区の一部に広がる湿地の埋土とその周辺部から出土した弥生時代の遺物と旧石器だけである。なかでも旧石器に関しては、従来吉野川流域で知られている旧石器の遺跡とは様相を異にして素材にチャートやハリ質安山岩を多用しており、県南部で唯一旧石器の出土が報告されていたものの、県内では他に類似する遺物が無かった阿南市廿枝遺跡と関連付けられる資料と思われ、県下の旧石器時代を考える上で重要な位置を占めるものである。（久保脇）



1　弥生時代の遺物



2　旧石器（石核）

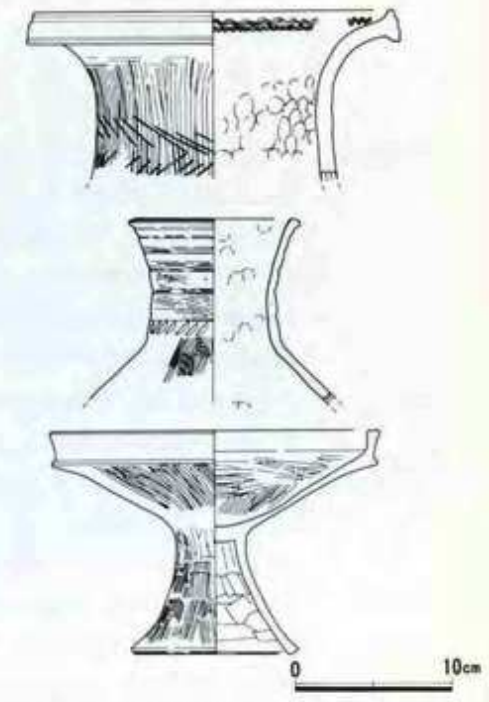
北原（きたはら）～大法寺（だいほうじ）遺跡

所 在 地　板野郡土成町土成字大法寺191－1他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担 当 者　久保脇

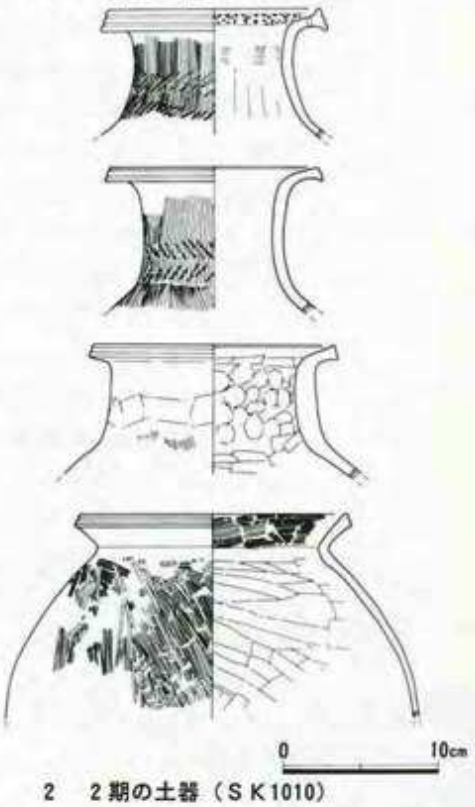
整理概要　本遺跡は平成2年度に面積4,890㎡を対象として調査を実施した。遺跡は標高約75～77mの扇状地上に立地している。鎌倉から室町時代にかけての遺物を若干まじえる以外は、全て弥生時代中期から後期にかけての遺物によって占められている。

検出された遺構の内訳は、竪穴住居跡1、土坑12、性格不明遺構4、ピット33である。これらの遺構は、出土遺物が少なく時期の明らかにできなかった一部の土坑や、性格不明遺構、ピットなどを除き、おおよそ前後2期に分けることができる。1期の土器は凹線文に櫛描波状文や矢羽根状刺突文が施される大形の広口壺や直口壺に代表される一群の土器で、これに杯部の屈曲が明瞭な高杯、台付鉢や把手付鉢などが加わる第Ⅳ様式後半段階のものである。2期の遺物は退化した凹線と刺突文が施された広口壺と、杯部の屈曲が明瞭で口縁端部を内外に拡張した高杯、台付鉢、甕などによって構成される。これには、壺形土器の中に香川県大空遺跡出土遺物に類似するものを含むことから、大空遺跡に併行する後期初頭に位置付けられるものと考えられる。従来、吉野川北岸中流域の弥生時代中期から後期にかけての土器の移行過程は不明瞭な部分が多かったが今回の資料は、この間の空白を埋めるものとして注目される。

（久保脇）



1　1期の土器（SK1005）



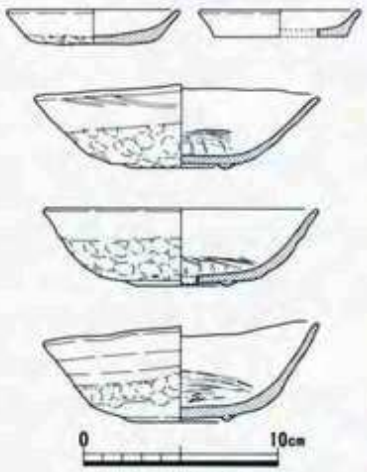
2　2期の土器（SK1010）

前田遺跡

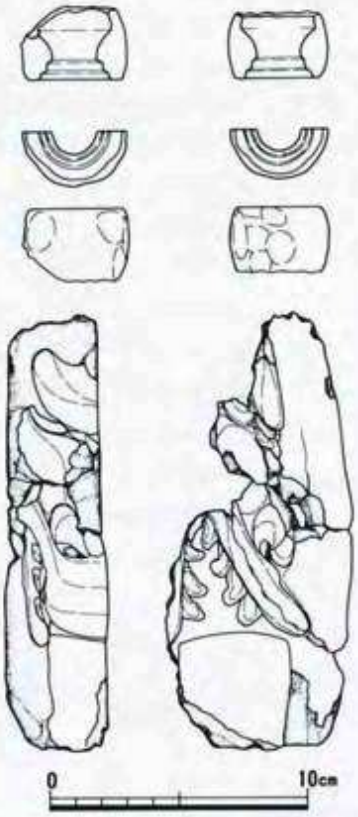
所在地　板野郡土成町土成字前田55－1他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　辻

整理概要　本遺跡は平成2年度に7,710㎡、平成2年度に3,100㎡のあわせて10,810㎡につき発掘調査を実施した。その結果、弥生時代の集落跡、鎌倉時代の集落跡、江戸時代の梵鐘鋳造に関連する遺構をはじめとする多数の遺構、旧石器時代から江戸時代にいたる遺物の出土を見た。整理作業は遺物の接合復元等の基礎整理及び遺物の実測、トレース、レイアウト等の作業を行い、併せて出土した鉄滓、銅滓の化学分析の委託も行った。

遺跡は吉野川左岸中流域の標高70m余りの扇状地上に位置する。調査区の西側において竪穴住居5軒、掘立柱建物8棟、土坑17基等が確認された。これらは弥生時代中期末葉～後期初頭という短期間存続したものである。同時期に扇状地上に存在する北原遺跡、北原～大法寺遺跡とは一連の集落を形成するものと考えられるが、本遺跡では竪穴住居、掘立柱建物が集中して検出されており、集落内での中心を占めるものと思われる。中世の遺構は掘立柱建物8棟、土坑、土壙墓、鍛冶遺構、木炭焼成窯等が確認された。これらは出土遺物からすると13世紀半ば～15世紀にかけてのものと思われる。出土遺物の大半は13世紀代の徳島県内に通有の底部を回転糸切りした土師質土器の杯、皿である。瓦器の中には底部を回転糸切りしたものや和泉型瓦器を模倣したと思われるものなど在地生産された瓦器に多様性が認められ、搬入された和泉型瓦器椀が椀形態の主流を占める吉野川下流域とは様相を違えている。江戸時代の梵鐘鋳造関連遺構からは多数の鋳型片、溶解炉片などが出土し梵鐘の鋳造が野外で行われた、いわゆる「出吹き」の痕跡を示すものとして注目される。報告書は平成5年度刊行の予定である。（辻）



1　瓦器実測図



2　梵鐘鋳型実測図

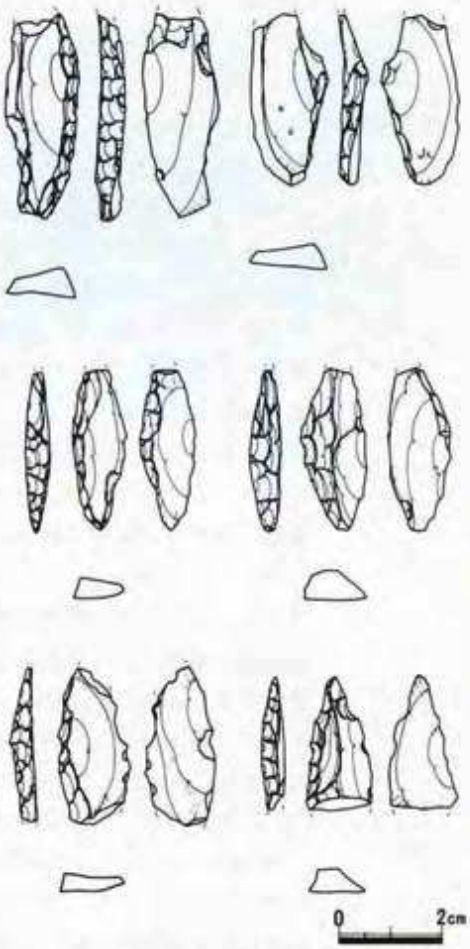
椎ヶ丸～芝生遺跡

所在地　板野郡土成町吉田字椎ヶ丸13他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　久保脇

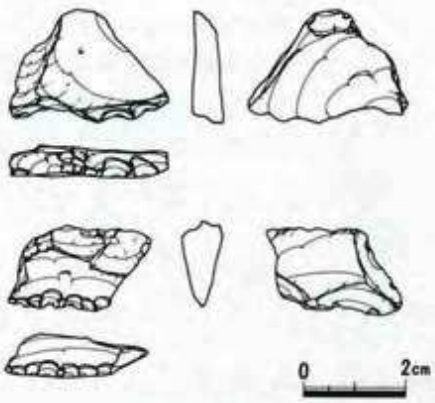
整理概要　本遺跡は平成2年度に面積3,550㎡を対象として調査を実施した。遺跡は宮川内谷川によって形成された標高約90mの段丘面上に位置し、県下でも有数の旧石器時代の遺跡として知られている。

今回の調査は段丘の南端に連続する段丘崖の斜面を斜めに横断する格好で行われたため、全体に土層の堆積が極めて不安定であった。ナイフ形石器、削器などを含む総数500点余りの旧石器は調査区全域から出土したが、不安定な斜面上の堆積を反映して殆どの資料が原位置を遊離しているものと考えられ、年代的にもさまざまな時期のものを含む可能性が強い。この段丘崖上の斜面部からは、旧石器以外にも弥生時代の遺構と遺物が検出されている。検出された遺構は、竪穴住居跡と土坑がそれぞれ3基ずつと少数であるが、何れも段丘崖下に広がる扇状地上の弥生時代の遺跡と同じ中期末から後期初頭にかけての時期のものである。それぞれ段丘面と扇状地と言うように立地条件が異なるものの、遺構の種類や年代、出土遺物などには顕著な差異は認められず、相互に密接な関係をもって成立したものと考えられ今後のこの地域の集落構成を考える上で興味深い資料である。

（久保脇）



1　ナイフ形石器



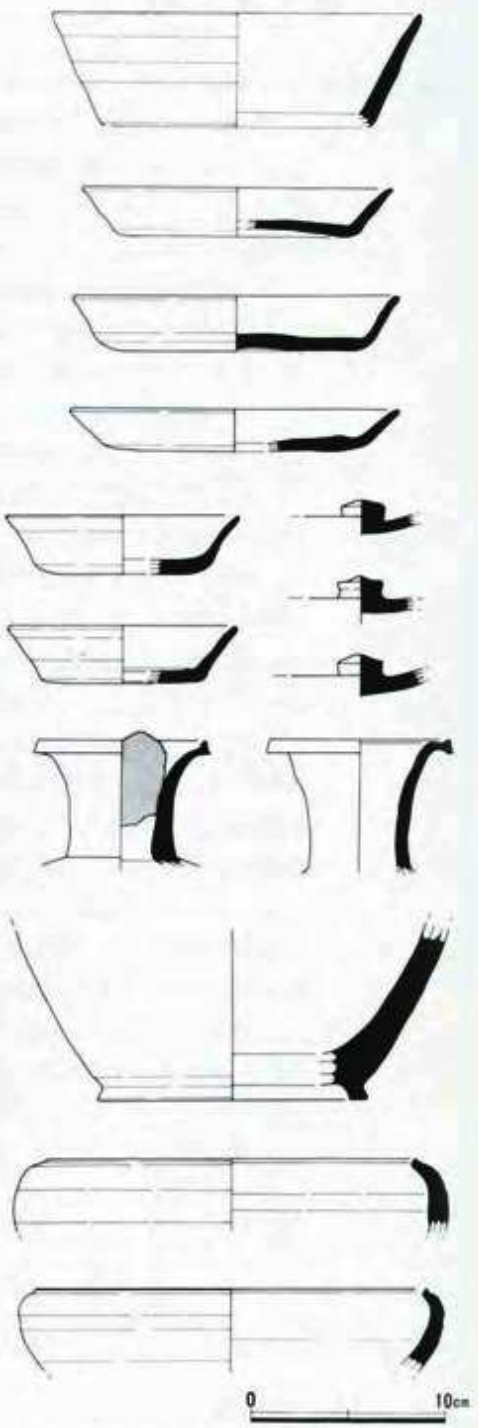
2　削器

十楽寺遺跡

所在地　板野郡土成町高尾字法教田159－1他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　久保脇

整理概要　本遺跡は平成2年度430㎡を対象として調査が実施された。遺跡は阿讃山脈南麓の丘陵の末端部の南北に細長く延びた谷の中に位置し、北から南に向かって流れる小河川の岸沿いの斜面に形成された窯跡と灰原によって構成されている。窯本体は後世の開田の際に破壊され、構造などは不明であるが、窯の焚口であったと考えられる地点の前の河川の堆積の中にはこの窯に伴ったであろう灰原が検出された。この灰原と周辺部からは、須恵器の他に、窯壁の一部や土師器、袋柄の鉄斧などが出土している。

出土した須恵器は概ね8世紀後半から9世紀前半のものと考えられ、杯身、杯蓋、皿、壺、壺蓋、高杯、鉢、甕などによって構成されているが、壺蓋、高杯などはごく僅かで大部分が杯と皿によって占められている。この内、杯は器高の大小、高台の有無などによって何種類かに分けられるが、無高台のものが大部分である。また、同時に出土した壺と鉢は平城京でそれぞれ壺L、鉢Aに分類されるものである。現在までに県下で8世紀代の遺物自体が出土した遺跡が少ない中で、今回不完全な形ではあるが、この時期の土器組成の一端を明らかにすることができたことは、県下の窯業の成立を考えるうえでも意義深いものと考えられる。（久保脇）



1　灰原出土遺物

天神山遺跡
青谷遺跡

所在地　板野郡上板町引野字山田原１－８他
整理期間　1992年４月１日～1993年３月31日
担当者　湯浅　平山

整理概要　天神山・青谷両遺跡の整理作業は、平成３年度に基礎整理を実施、本年度は報告書を刊行した。

遺跡概要　両遺跡は、ともに阿讃山脈南麓の低い尾根および緩斜面に立地する。耕地整理・採土等により遺構面を失っている箇所が多い。

天神山遺跡　天神山遺跡では、主に弥生時代後期前葉の遺構が検出されている。

緩斜面に構築されたＳＢ1001は一辺3.05mの隅丸方形で、２本の主柱穴を持つ小規模な竪穴住居跡である。出土した６本を数える石鏃は、いずれも大型で戦闘用とみられる。見張り小屋的な存在であった可能性が考えられる。

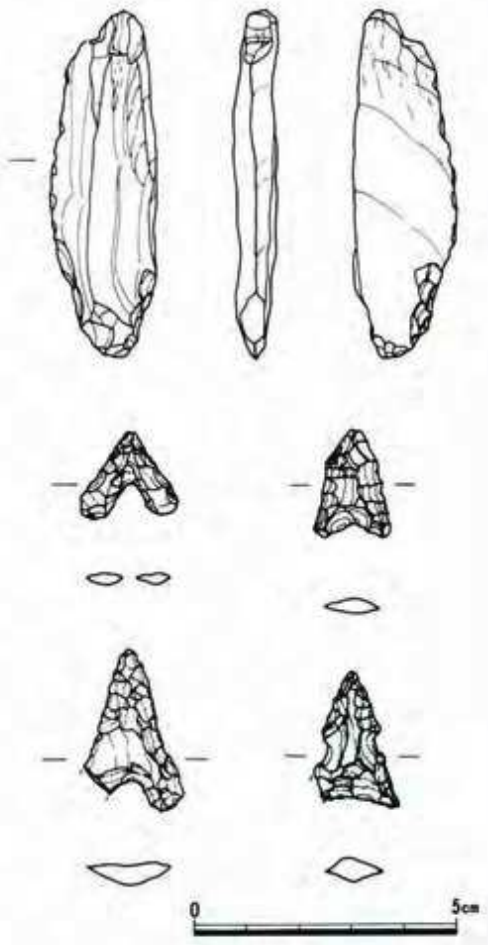
また、尾根上は墓域と考えられ、土壙墓が５基検出されている。このうちＳＴ1004は長辺2.18m、短辺1.55mの規模を持ち、中央部にさらに長方形の浅い落ちがみられる。木棺直葬墓の可能性も考えられる。ＳＴ1005が同様の出土状態を示している。

集落の周縁部ではあるものの、この地域では初めて弥生時代の様相の一部を明らかにした。

青谷遺跡　青谷遺跡は、天神山遺跡の東側に拡がり、密度は低いものの旧石器から縄文・弥生・古代・中近世の各時代の遺物が出土した。遺構は多数検出されているが、時代・性格の判然とするものは少ない。弥生時代の溝や土坑等の遺構が比較的密度の高い第２調査区にしても、周辺部的な様相である。

出土遺物の中で、数少ないが、ナイフ形石器をはじめ、縄文時代の石鏃、縄文土器については、類例が少ないものも含まれており、貴重な資料となろう。（湯浅）

1　天神山遺物　出土土器



2　青谷遺跡出土石器実測図

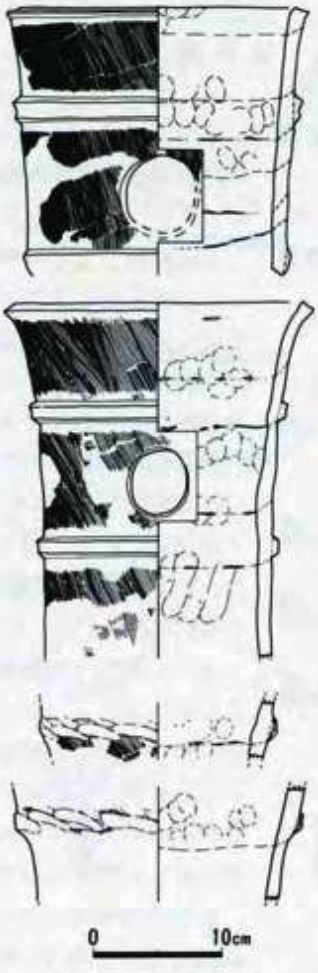
蓮華池遺跡（Ⅰ）

所在地　板野郡板野町犬伏字堀切39－1他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　須崎

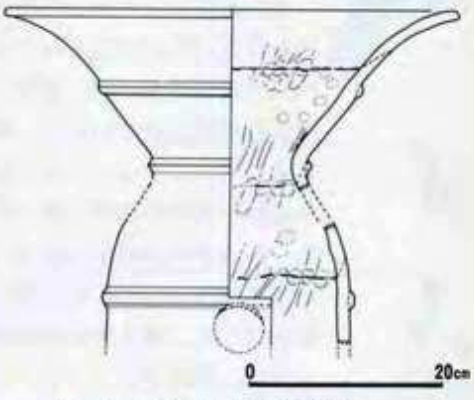
整理概要　本遺跡は、平成2年度に340㎡を対象に調査を実施したものであり、調査によって得られた成果は、古墳時代後期の不明遺構と自然流路、中世の土坑などの遺構と、古墳時代と中世を主とする遺物である。整理作業は、遺物の注記、接合復元等の基礎整理、及び遺物の実測、トレース・レイアウト等の作業を行った。平成5年度は以上の作業及び原稿の作成を終え、報告書刊行の予定である。

遺跡は、蓮華谷古墳群（Ⅰ）・（Ⅱ）が所在する2つの尾根に挟まれた谷部に位置する。調査区西南端で検出された不明遺構は、北側壁面に沿った溝を持ち、円筒埴輪、朝顔形埴輪、家形埴輪、盾形埴輪といった埴輪の他、須恵器器台、甕等が出土した。これらは出土遺物から6世紀前半のものと思われる。土坑は、調査区東側で確認され、出土遺物より13世紀頃のものと思われる。

出土遺物の大半は埴輪が占める。特に注目すべきは、古墳以外の遺構に伴う埴輪が確認されたこと、また「断続ナデ技法」を用いた突帯を底部に持つ円筒埴輪片が遺構から確認されたことである。古墳以外の遺構に伴う埴輪は、徳島県内では前山遺跡が知られるのみで、類例は少ない。また「断続ナデ技法」を用いた円筒埴輪は、徳島県内では前山遺跡、韓崇山古墳群に続いて3例目で、瀬戸内南岸に多い技法を持つ埴輪が出土したことは、この技法の分布圏を考える上で重要な資料であろう。遺跡の性格の検討は、今後の類例の増加を待ちたいが、埴輪を用いた祭祀を明らかにする上で、重要な遺跡の1つであるといえる。（須崎）



1　出土遺物（円筒埴輪）



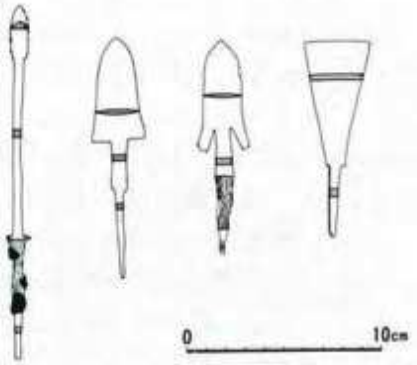
2　出土遺物（朝顔形埴輪）

蓮華谷古墳群（Ⅱ）

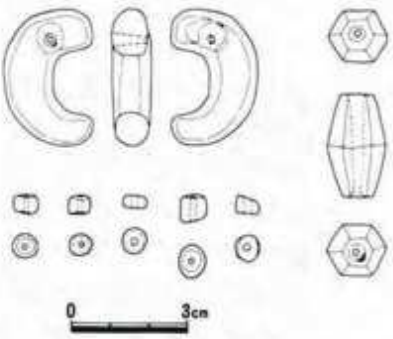
担当者　板野郡板野町犬伏蓮華谷108－3
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　須崎

整理概要　本遺跡は、平成2年度に1,220㎡を対象に調査を実施したものである。調査によって得られた成果は、古墳時代前期と後期の円墳やそれにともなう周溝などの遺構と、古墳時代を主とする遺物である。整理作業は、遺物の洗浄・注記、接合復元等の基礎整理、及び遺物の実測、トレース、レイアウト等の作業を行い、併せて出土した鉄器の保存処理、耳環のクリーニング、玉類の産地分析の委託のほか、銅鏡・朱の成分分析も行った。平成5年度は以上の作業及び原稿の作成を終え、報告書刊行の予定である。

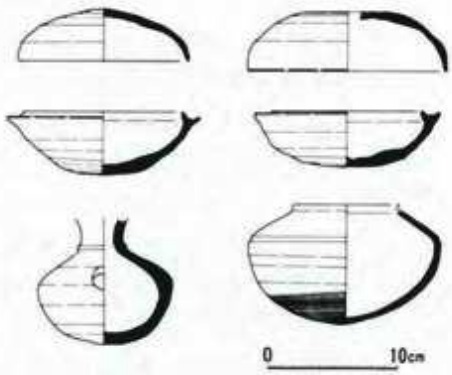
遺跡は阿讃山脈南麓の標高約14m～28mの尾根上に立地する。調査区の北西端で、礫敷木棺直葬の円墳を1基（2号墳）、続く尾根上に横穴式石室墳4基（3～6号墳）、それにともなう周溝、小竪穴式石室1基、土壙墓1基が確認された。これらは出土遺物からすると、2号墳が3世紀末、3～6号墳、土壙墓が6世紀後半と考えられる。出土遺物は、須恵器、土師器のほか、鉄剣・鉄刀・鉄鏃等の鉄製品、勾玉・管玉などの玉類も多く含まれている。2号墳は県内の古墳の最古の一例と捉えられるが、主体部が前期竪穴式石室に見られる基底部構造と共通性を保ちながらも石室を構築していないこと、東四国の前期古墳に卓越する東西頭位とは異なることなどの点が、特色としてあげられる。3～6号墳については、鉄鏃が台形篦被と棘篦被という新旧形式の転換期と捉えられることや、石室の規模の差異に加えて、鉄刀（3号墳）、馬具（4号墳）、鉄製心棒付石製紡錘車（5号墳）と副葬品にも差異があることが注目すべき点として挙げられる。（須崎）



1　出土遺物（鉄鏃）



2　出土遺物（玉類）



3　出土遺物（須恵器）

黒谷川宮ノ前遺跡

所在地　板野郡板野町犬伏字福田22他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　早渕　佐野

整理概要　本遺跡は平成2年度に、面積10,450㎡を対象として調査を実施したものである。

調査によって得られた成果としては、第1遺構面が古代から中世後期に至る集落遺跡、また第2遺構面には弥生時代後期後半の水田遺構がある。

黒谷川宮ノ前遺跡の整理作業は、接合・遺構台帳整理など基礎整理作業と共に、遺物実測・遺物トレース・原稿執筆の作業を行った。また、これらの作業と併行して木製遺物の樹種鑑定および人骨鑑定と弥生水田の花粉分析・プラントオパール分析および鉄器・木製品の保存処理を委託した。

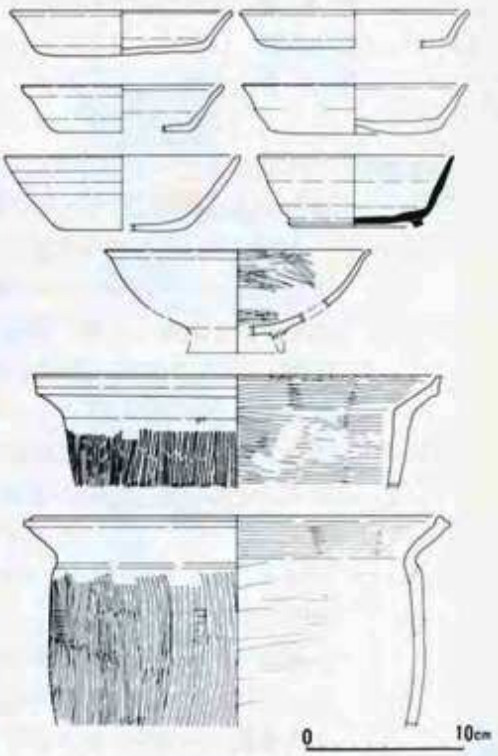
整理の結果、第1遺構面では出土遺物等から遺跡の変遷は9世紀から16世紀にかけて連続しており、大別すれば特に10世紀代と13世紀～14世紀前後に遺跡としての大きな画期が見られる。古代は地方官衙との関連を想定させる10世紀段階の遺物・遺構の増加時期、また中世は方形区画屋敷地の出現時期前後の13世紀以降の各時期である。

その他、木製遺物では平安時代中期の祭祀遺物である人形・斎串と、尺ならびに槍扇が出土しており、当該期の祭祀形態および工芸・技術の解明に貴重な資料となった。

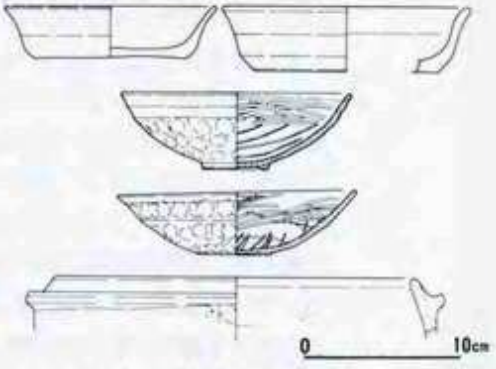
第2遺構面においては弥生時代後期後半の小区画水田21枚が整理の検討段階で新たに追加され、合計で大区画水田2枚、小区画水田46枚となった。また、出土している石庖丁・石鏃と共に、水田土壌および上部堆積土の花粉分析・プラントオパール分析から、稲科植物が検出されたことは稲作を裏付けるものと考えられる。

報告書は平成6年度刊行の予定である。

（早渕）



1　出土遺物実測図（平安時代）



2　出土遺物実測図（鎌倉時代）

3　槍扇（複製）

古城遺跡

所在地　板野郡板野町古城字木村77－2他
整理期間　1992年4月1日～1993年3月31日
担当者　原

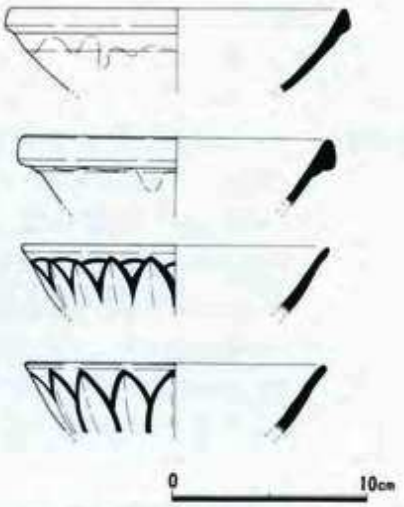
整理概要　本遺跡は、平成2年度に、A・B・C地点面積8,920㎡を対象として発掘調査を実施した。この調査によって、鎌倉時代を主体とする中世の遺構・遺物を確認することができた。

A・B・C地点のいずれも河川の氾濫原の中にある微高地上に存在し、中世（12世紀～15世紀）の遺物包含層が確認された。検出された遺構には、溝・住居跡・土壙墓・水田跡などがある。また、AおよびB地点では15世紀代の噴砂の痕跡が確認された。

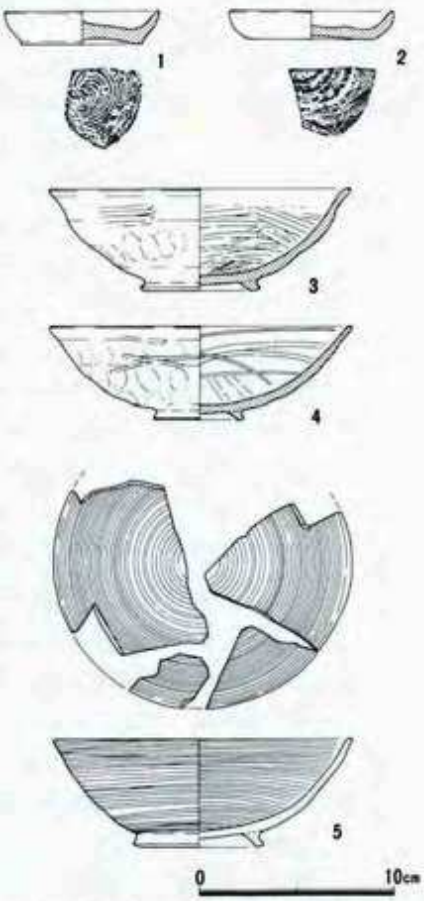
古城遺跡の整理作業は、平成4年4月1日～平成5年3月31日の期間で行った。今年度は、図面・写真整理、遺物の復元・実測遺物の選別・台帳作成の基礎整理および中世遺物の実測作業・原稿の執筆を行った。また、これらの作業と併せて土壙墓出土の人骨鑑定を委託した。

出土遺物については、11世紀～14世紀の中世土器を検出した。主な遺物には、輸入陶磁器（1）・土師器・瓦器（2－1～4）・黒色土器B類（2－5）等がある。

また土師質土器の杯・皿類の製作技法のひとつである底部回転糸切り技法が、県内において12世紀にはすでに通有の技法として確立していたことが明らかになった。本遺跡出土の土師器・瓦器等は、ほとんど不明であった本県における当該期の土器様相を知る上で貴重な資料となろう。（原）



1　出土遺物（白磁・青磁）



2　出土遺物（瓦器・黒色土器）

埋蔵文化財総合施設

所 在 地　板野郡板野町大字犬伏字平山86他
調査期間　1992年12月15日～1993年２月２日
担 当 者　羽山　島巡　菅原

1　調査地点の位置（川島）

調査概要　徳島県埋蔵文化財総合施設の建設に先立って実施された試掘調査である。

建設地付近にはかつて、犬伏諏訪神社古墳や犬伏平山古墳が立地しており、犬伏平山古墳群として知られている地域である。

本調査地は南方へ突出する丘陵尾根の端部寄り西面にあたる。度重なる開墾によって地形は大きく改変され、本来の自然地形は失われているが、標高約32～22m前後にかけての傾斜地形で、便宜的に３地区に大別することができる。数多く設けられた小段ごとに何らかの形で調査区を設定し、掘り下げを行った。建設地の中でも地形的にもっともすぐれた南寄り部分、現況ブドウ園内には分散する形で20ヵ所のトレンチを設定し掘り下げを実施した。しかしながら、検出された土層はすべて開墾や耕作に伴うもので、苗木植え込み時の掘り込み穴や、水はけ用の敷き込み礫等も検出された。他の箇所でも計８ヵ所のトレンチの掘り下げを実施したが、こちらも開墾や耕作に伴う土層堆積のみの検出であった。

2　調査地風景

まとめ　徳島県埋蔵文化財総合施設建設地内に、合計28ヵ所のトレンチを設定し掘り下げを実施した。そのすべてのトレンチにおいて何らかの人為的改変の痕跡が認められた。

だが、これらは近年における開墾・耕作・造成・家屋建築に係るもので、用地関係者の記憶にもあり、過去にまで遡りえる遺構・遺物の検出は一切見られなかった。

現在では削平されてしまっているが、建設地東端部付近の標高約39mを頂点とする箇所の西側面を造成用客土として採取した際、古墳らしきものが見られたとする話も聞いたが、確証を得るまでには至らなかった。（島巡）

3　土層堆積状況

Ⅳ　埋蔵文化財センターの活動

(1)　職員の対外活動

No.	期　　間	人　　員	内　　容
1	4.4～5.3	係長	県立二十一世紀館ビデオソフト製作協力
2	4.6.18～6.20	局長・主事1	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会出席（広島市）
3	4.6.25～6.26	課長2・技師1	四国埋蔵文化財法人実務担当者会議出席（坂出市）
4	4.8.23	係長1・研究員2	鳴門史学会研究大会発表（徳島市）
5	4.8.27	係長1	ロータリークラブ卓話（徳島市）
6	4.9.12～9.13	研究員1	類例調査及び鋳造研究会参加（京都市）
7	4.9.16～9.19	研究員1	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会出席（群馬県）
8	4.9.25～4.11.2	研究員3	徳島県立板野高等学校外部講師招へい事業講師
9	4.10.24～10.25	研究員1	四国中世土器研究会発表（徳島市）
10	4.11.5	研究員1	類例調査（福島県）
11	4.11.5～4.11.6	係長1・研究員1	四国埋蔵文化財法人実務担当者会議出席（坂出市）
12	5.2.5	係長1	ＮＨＫ徳島放送局スタジオ出演
13	5.2.20	研究員1	県教育委員会埋蔵文化財シンポジウム発表（徳島市）

(2)　現地説明会等の開催

本年度に実施した発掘調査のうち、矢野遺跡について現地説明会等を実施した。

No.	遺　跡　名	説　　明　　内　　容	期　　日	参加人員
1	矢野遺跡	考古学関係者への銅鐸埋納坑の公開 一般公開	5.1.8 5.1.9～1.10	100名 2,000名
2	矢野遺跡	銅鐸の公開	5.2.7	540名

(3)　講演会等の開催

自主事業として、埋蔵文化財講演会及び埋蔵文化財研修を実施した。

講　　師	演　　題	期　　日	参加人員
中国社会科学院考古研究所 研究員　安　志敏氏	鳥居龍蔵先生の思い出	4.5.9	360名
	日本古代文化のルーツと大陸	4.5.11	センター職員

(4)　資料の貸出

本年度行った資料の貸出は以下である。

No.	貸出先機関等	目　　的	貸　出　資　料	期　　間
1	徳島県立博物館	四国の古墳展	蓮華谷2号墳出土仿製鏡・管玉・勾玉・土師器・写真	4.4.17～6.5
2	石井中学校	教材資料	椎ヶ丸～芝生遺跡出土旧石器	4.5.26～6.5
3	日和佐中学校	教材資料	桜ノ岡遺跡（Ⅰ）出土弥生土器 山田古墳群Ａ出土須恵器	4.6.9～6.25
4	県立阿波高等学校	教材資料	弥生土器・土師器・須恵器・写真パネル	4.10.30～11.10
5	県立鳴門工業高等学校	文化祭展示	山田古墳群Ａ出土須恵器	4.11.6～11.10
6	学習研究社	ジュニア・日本史大図鑑掲載	黒谷川宮ノ前遺跡全景写真	

No.	貸出先機関等	目　的	貸出資料	期　間
7	朝日新聞社	朝日グラフ掲載	菖蒲谷西山B遺跡出土埴輪写真	
8	朝日新聞社	朝日グラフ掲載	矢野遺跡出土銅鐸写真	
9	学習研究社	6年の学習掲載	矢野遺跡出土銅鐸写真	
10	ジャパン通信社	月刊文化財発掘出土情報掲載	矢野遺跡出土銅鐸写真	

(5)　刊行物

『徳島県埋蔵文化財センター年報ＶＯＬ．３』　４年６月

埋蔵文化財講演会講演録『鳥居龍蔵先生の思い出』　４年６月

徳島県埋蔵文化財センター研究紀要『真　朱』創刊号　４年７月

『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』１　５年３月

矢野遺跡現地説明会風景

V　講義の記録

日本古代文化のルーツと大陸

中国社会科学院考古研究所　研究員
安　志敏

皆さん、おはようございます。私はただ今ご紹介あずかりました安　志敏です。このたびは徳島県埋蔵文化財センターに頼まれまして、「日本古代文化のルーツと大陸」というテーマでお話いたします。私は日本考古学の勉強を始めたばかりで、あまり詳しく知りませんし、日本語もうまくありませんので、うまくお話することができないかも知れませんが、どうぞご勘弁ください。

海に囲まれた日本列島は、先史時代から決して東アジアの中で孤立していたわけではありません。また隔絶した存在であったわけでもありません。大昔の氷河時代には寒冷な気候のため、地球上の水分が氷となって海水面が現在より100m以上下がりました。その時、大陸と日本列島は陸続きになり、人々が大陸から日本列島へ歩いて渡ってくることができました。そして完新世になると、氷河がなくなるのに伴い、海水面も上がって今の海峡のようになりましたが、それでも丸木舟や船の出現によって人類の往来、大陸との文化交流はとどまることがありませんでした。日本列島における旧石器の出現、土器、農耕の誕生及び金属器の輸入など、これらの源はみなアジア大陸に探すことができます。

古代文化の渡来は普通五つのルートが考えられています。一つはシベリアからサハリンと北海道を経て東北地方にいたる北方ルート。二つめは朝鮮半島から対馬海峡を経ての朝鮮ルート。三つめは中国東海岸から直接九州にいたる東シナ海ルート。四つめは中国の台湾から沖縄諸島を経て九州にいたる沖縄ルート。五つめは南太平洋から小笠原諸島を経て関東地方にいたる南洋ルート。以上の五つのルートは主にアジア大陸から来たもので、特に東シナ海と日本海の海上の道は文化交流の役割をよく果たしております。

今回の話は日本の旧石器、縄文、弥生の三つの時代に限っております。同時に、中国の考古学資料と対照して文化交流の様子を話していきます。まず、最初に旧石器の出現についてお話します。

旧石器の出現

最初日本に来た渡来人は大陸の旧石器文化をもってきました。その後、氷河の消えると生まれるとにしたがって、日本列島と大陸は何度も分かれたりあるいは続いたり、人類もたびたび往来して旧石器文化にも複雑な変化を起こしました。

日本の旧石器文化がいつ始まったのか、前期旧石器がありますが、まだ論争が残っております。少なくとも晩期の旧石器の分布は相当に広く、地域的な性格も現れております。年代測定によると宮城県の馬場壇遺跡は５万年前から７万年前まで、中峰遺跡は36万年前となっています。

年代の測定についてはまだ何かの問題があっても、私は日本の旧石器は晩期に限らず、前期のものもあると考えています。馬場壇遺跡や中峰遺跡は前期の代表的なものに違いないと思います。皆さんがご存知のとおり、中国の前期旧石器文化の分布は非常に広く、編年もはっきりしております。それらは日本の前期旧石器文化の研究の参考になると思います。

最近の研究によれば、中国の旧石器文化は二つの系統に分かれております。一つは剝片石器で、主に石片によって石器を作ります。例えばスクレイパーや尖頭器を主として、その形も時代を経るにしたがってだんだん小さくなる傾向があるようです。大きなチョッパーとかチョッピングトゥールとかは割合に少ない。華北における周口店などの遺跡は剝片石器の代表的な遺跡です。これは旧石器の前期から晩期まで続いております。

もう一つの系統は礫器で、主に大きな尖頭器とチョッパー、チョッピングトゥールなどで、その尖頭器はハンドアックスとよく似ています。それらはプロト・ハンドアックスと呼ばれ、ヨーロッパのようなハンドアックスとは異なるものと考えられています。その系統の分布は主に華中と華南地方です。華北地方では河南省から山西省までで、主に華中と華南地方です。その北の方は主に剝片石器の系統であります。

この二つの系統は、朝鮮半島と日本列島に影響しております。例えば宮城県の中峰遺跡、馬場壇遺跡、群馬県の岩宿遺跡などは剝片石器の系統に属しています。礫器としては、例えば前に話したプロト・ハンドアックスを代表とする石器は、韓国の全谷里遺跡にもたくさん発見され、日本ではいくつも似たものはありますが、まだはっきりとはしていないようです。例えば大阪の国府と群馬県権現山で発見されたハンドアックスは、今回、私が来てからその実物をみましたが、それらは中国の礫器とはあまり似ていないようです。国府と権現山のハンドアックスと呼ばれているものは形が小さく、薄いものです。あれはやはり石斧のようなものに似て、ハンドアックス

とは違うようです。

昨日、県立博物館でみせてもらった鳴門から出た一つの礫器、あれは立派なものです。年代はまだはっきりとしていませんが、これによって日本にも礫器が存在するだろうと考えています。例えば九州の大分県の丹生遺跡などには礫器があります。私の考えでは将来日本でも中国と同じようなプロト・ハンドアックスが発見されると考えております。

次に細石器のことを少し話しましょう。楔形細石核と細石刃を代表とする細石器はかつて北方地方特有のものと認識されており、その起源は昔はシベリアのバイカル湖周辺と信じられておりました。最近の発見によれば、この説を見直す必要がありそうです。昔の説では細石器の始まったところはバイカル湖であって、いろいろな地域の細石器はみんなこちらから伝わったものと信じられておりましたが、近年では細石器は新疆、内蒙古、東北地方ばかりではなく、華北地方でもたくさん発見されております。特に最近では渤海の沿岸や黄海の沿岸でも多く発見されました。そればかりでなく、現在の発見の分布はもっと広がっており、例えば広東省、雲南省、四川省、そしてチベットにまで発見されました。今の発見によれば、中国では北方地区だけでなく、江南及び華南地域にまで広がっているのです。

これらの年代はカーボンデーティングによって1万年から2万年前のもので、主に旧石器時代の末頃と中石器時代のものと考えられております。華北では新石器時代になると、農耕が始まった後に細石器がなくなって、かえって北方地方では新石器時代になっても細石器がまだ存在しております。

日本の細石器もやはり広く分布しています。例えば長崎県の泉福寺遺跡、岡山県の恩原遺跡、新潟県の荒屋遺跡、北海道の白滝服部台遺跡などはその代表的なもので、日本では北から南まで全体に細石器があります。いま挙げたのはその代表的なものです。その細石器の作り方と形は大陸のものとまったく同じで、昔から日本の細石器は北のルート、シベリアからサハリンと北海道を経て日本に入ったとされ、これが一つのルートと信じております。

他のルートは朝鮮半島を通って日本に入ったルートが考えられております。現在の発見によれば、山東省に多くの細石器が発見されておりまして、山東省の南部と江蘇省の北部、この発見によって、大陸と日本とには三つめのルートがあって、すなわち山東省と江蘇省から直接に日本に入ったことも考えられます。その場合は氷河のため陸続きとなり、人がこちらから直接渡ることもできます。山東省で発見された細石器は九州で発見されたものとよく似ています。

縄文文化の大陸要素

次に縄文文化の大陸要素を紹介したいと思います。新石器時代になると日本列島は海に囲まれましたが、縄文文化の発生と発展はやはり大陸とつながりをもっています。日本列島は隔絶された地理的環境によって、縄文文化の発展はいかにも大陸の新石器文化と違っています。縄

文文化には土器と磨製石器が発生してもまだ農耕と家畜をもっていない。これは自然環境の恵みを受けて、縄文人が採集と狩猟、漁撈が盛んであったため、あまり農耕生活に進まなかったと考えられます。同じ状態が今の華南地方によくみられます。例えば河西省や河東省などでは新石器早期になっても土器と磨製石器を使っても農耕・家畜はありません。新石器時代でも中期になると華南地方でもようやく農耕が発生して発達しました。これは日本の縄文文化に似ていると考えられます。

縄文文化の土器と磨製石器のルーツはやはり大陸で、ただ長い間に大陸と隔絶して独自の特徴が強くなりました。縄文前期の土器を例として、例えば九州長崎の福井洞穴、泉福寺洞穴で発見された隆起線文土器と同じものが山東省で発見されております。そのほかに、曽畑式土器は主に朝鮮半島から渡ってきた土器です。縄文土器の模様も大陸の土器と同じものがしばしばみられますが、特に縄文土器の繊維を含む土器は大陸の湖南省と浙江省などで発見されています。例えば湖南省の澧県彭頭山遺跡は8000年前で、浙江省の河姆渡遺跡ものは7000年前の土器です。これらの土器は繊維を含んで、よく日本の縄文土器と似ています。

他にいくつか紹介したいのは玦状耳飾と漆器です。玦状耳飾と漆器は縄文前期の代表的な遺物で、江南地方ではそのルーツを探すことができます。7000年前の河姆渡文化からは玦状耳飾が発見されており、縄文時代前期とほぼ同じ時代です。そして玦状耳飾の分布は主に揚子江の中流、下流で多くみられます。そして南の方にもありますが、それは時代が少し下がります。北の地方では山東省と河南省ではそれぞれ1点ずつ出土しており、年代は4000年ほど前です。近ごろ遼寧省でも発見されていますが、年代ははっきりしていません。玦状耳飾はやはり揚子江下流域から発生して南海岸に広がり、台湾、江蘇省、年代は下がりますが、ベトナムでも発見されています。日本の縄文時代の玦状耳飾と揚子江下流のものはなんらかの関係があるだろうと思います。

次は漆器ですが、中国で最も古いものはやはり河姆渡遺跡にあります。ここでは漆の椀が発見されています。これらは日本のものと関係があると思います。

そのほかにも最近、九州の大分県と宮崎県から9点ほどの鬲の土器片が発見されています。鹿児島県の奄美でも2点見つかっております。これらはいずれも脚部の破片で、全体が復元できるものではありません。鬲であろうと考えられているものです。しかし青森県の今津遺跡から出土した鬲状土器は中国で見られるものとまったく同じものです。ただ器面を飾る縄文は日本独自の施紋方法であります。これらはおそらく中国の鬲状土器を模倣して作られたものだと

考えられます。今津遺跡の鬲状土器は江蘇省で見られるものに器形が似ております。ただし、これまで朝鮮半島からは鬲が出土していないことから、日本には海上の道を通って伝ったものと考えられます。他の例をあげれば、縄文時代晩期に始まった稲作農耕はやはり揚子江の南、江南地方とつながりがあります。ヒョウタン、緑豆などもこの地方から伝わったものと考えられます。

華やかな弥生文化

次に弥生文化についてお話します。稲作農耕を生活の基盤とする弥生文化は新しいスタートとして日本列島の黎明期となりました。弥生文化は縄文文化を基礎とし、大陸文化の要素を消化吸収して生まれた新しい文化です。かつては朝鮮半島を弥生文化伝来の唯一のルートと考えられてきましたが、このルートがすべてではなく、東シナ海ルートも大きな役割を果たしていると考えられます。

稲作農耕の伝来ルートは昔から、華北地方から朝鮮半島経由で伝来したと考えるルート、江南地方から直接伝来したと考えるルート、華南地方から台湾、沖縄諸島を経由によって伝来したと考えるルートの三つが想定されています。考古学者は主に華北のルートを有力に考えていましたが、最近の成果では江南ルートが有力と考えられています。それは揚子江下流域が稲作農耕の発生が古く、湖南省では8000年前の稲籾の痕跡が発見されており、7000年前の浙江省河姆渡遺跡ではジャポニカ、インディカを含む、4種類の炭化米が発見されております。

江南地方は稲作農耕の中心地であり、伝播のスタートとしては粟や黍のような干ばつに耐える農作物を中心とした華北地方の農耕よりもふさわしいといえます。また、農耕の道具も重要な証拠です。例えば木柄に嵌入した石斧と抉入石斧の着柄方法は江南地方のものが弥生文化のものとよく似ています。半月形の石庖丁もそうです。また木製のスキ、クワも弥生文化のものと同じです。浙江省寧波市慈湖遺跡で発見された木製の下駄は5000年前のもので、弥生文化の田下駄よりも古いものです。これらの遺物によって、弥生文化の稲作農耕は朝鮮半島のものよりも江南地方の方が密接であると考えられます。

吉野ヶ里遺跡の環濠集落は弥生時代でも最も規模が大きいもので、二重の堀に囲まれていますが、その形成は農耕と定住生活が関係しています。中国では新石器時代の遺跡に時々環濠集落が形成されており、西安市半坡と臨潼県の姜寨遺跡はその代表的な遺跡でありますが、江南

地方にもみられます。江蘇省武進県の春秋時代の淹城遺跡は二重の堀に囲まれており、その面積は60万㎡で、吉野ヶ里遺跡の倍ほどあります。

環濠集落の他に建物として高床式建築も江南地方に多くみられ、先史時代から周代・漢代までに遺構や模型などが出土しており、現在でも高床式建築は雲南省、海南省、四川省、台湾などの少数民族地区で使われております。考古学の発見によれば、遺跡に残った木杭のほか、高床建築の模型も残っております。例えば江西省営盤里の土製模型と雲南省晋寧県石寨山の青銅器の模型はその代表的なものであります。特徴としてその建築の底板は木杭で支えたばかりでなく、棟は長く軒は短い形となっている。香川県出土と伝えられる銅鐸の建築絵画、奈良県佐味田宝塚古墳出土の銅鏡の建築絵画に似ております。環濠集落と高床式建築は江南地方から日本に伝わったものと考えられます。

金属器が使われるのも弥生文化の重要な特徴です。前期の多鈕鏡と細形銅剣、漢式鏡などは朝鮮半島から輸入されたもので、漢代に楽浪郡が置かれた後にその影響がいっそう強くみられます。弥生時代は青銅器の輸入とともに鋳造も始まりました。輸入は朝鮮半島からだけでなく、例えば東周式の銅剣や中平年（184～189）銘文の鉄の大刀は海上ルートによって直接輸入したものかもしれません。特に弥生時代後期に多くの呉鏡が出土することや、その後に呉鏡の系統を引く三角縁神獣鏡、これは中国大陸では一面も発見されていないために職人が日本に来て作ったものと考えていますが、これらのことから海上のルートによる文化の往来が盛んであったと考えられます。

鉄器の使用は最も重要なことで、その使用によって森林の伐採と水田の開発が加速され、稲作農耕を推進しました。

弥生文化の工芸技術はかなり発達していましたが、そのうち江南地方と関係が深いのはガラスと絹です。吉野ヶ里遺跡などで出土するガラス製の管玉は中国にはなく、日本製でありますが、その原料となったガラスはバリウムを含む鉛ガラスで、これは弥生のガラスと中国の漢代のガラス成分が一致しています。だから日本のガラスの玉は中国から原料を輸入して製作されたものと考えられます。最近、江蘇省で多くのガラスが発見されており、あるいはガラス生産の中心地の可能性があります。そのため、弥生文化のガラスの素材は海上のルートを利用して直接輸入されたと考えられます。

絹の研究では、布目順郎先生の研究では弥生前期末の絹の繊維は江南産の蚕のものと分析されています。弥生中期の後半になると、江南系と楽浪系のものが混じったものとされています。これらから弥生時代に最初に絹が輸入されたのは、江南地方からと考えられます。弥生文化の養蚕の開始は江南地方と密接な関係があるわけです。

墳丘墓は弥生文化から始まり、後の古墳時代にまで続いていますが、この墳丘墓の特徴は地面に土を積み上げ、墓を墳丘の中に作るものです。これは江南地方の土墩墓と同じものです。

華北地方と朝鮮半島の墓は一般に埋葬施設を墳丘の下に深く埋めており、弥生文化の墳丘墓とは違っています。しかし弥生文化の甕棺は主に大人を埋葬していますが、これは中国のものとは異なっています。中国では長い間、子供だけを埋葬する習慣があり、弥生文化の甕棺墓はやはり北九州で発達した墓制で、朝鮮半島の南部にまで広がっています。

弥生文化の社会状況は、共同体の解体から国家の形成段階に相当しています。少なくとも弥生文化の中期と後期になって、すでに国家が出現して文明時代に入っています。現在の考古学、歴史学、人類学、民族学などの一連の著作集ではたいていの場合、都市、金属器、文字、宗教的遺構などの出現によって文明時代の具体的標識としています。

弥生文化の考古学資料からは次のような発展があります。一つは吉野ヶ里遺跡を代表とする環濠集落は厳重な防御施設を備えており、農耕と商業の分化がさらに進んで、大陸から青銅器、鉄器及びその素材などを輸入して、商業の貿易化も発達しております。墳丘墓の規模が大きくなり、副葬品の豊富さが一般の墓と違ってきており、階級社会の存在を示しています。以上のことから、このときすでに都市が出現していることが証明できます。

最近私は奈良県の唐古・鍵遺跡から出土した土器片をみせてもらいました。その土器片には楼閣が刻まれています。その形は中国漢代の画像石や明器に示されたものによく似ています。魏志倭人伝に書かれた楼観はかなり立派なものだったと考えられます。これらのことから弥生文化の社会は私たちの想像よりも発達していたと考えられます。また弥生文化には多数の青銅器と鉄器を有しており、新石器時代から直接鉄器時代に入っています。金属器の製作と使用は文明時代の顕著な標識であります。

弥生文化には独自の文字はみられないが、銅鏡の中に多くの漢字の銘文があり、その一部分は日本で作られたものであります。例えば三角縁神獣鏡がそうです。ほかに景初四年の鏡が存在していますが、景初四年の年号は中国には存在していません。三年までしかありません。これはおそらく日本で作られたときに、中国の年号が改元されたことを知らない時点で作られたものだと考えられます。

こうした銅鏡の銘文からすでに中国の漢字を使用していたと思われます。それは鏡を作った職人ばかりではなく、当時の統制階級の中にも漢字を理解している者もいただろうと考えられます。例えば魏志倭人伝に出てくる邪馬台国の中国に派遣された使者も「表」を持っており、「表」は必ず漢字で書かれたものであったと考えられます。

そのほかに宗教的な遺構としては主に青銅器の埋納坑が代表的なものといえます。例えば島根県の荒神谷遺跡の二つの埋納坑から銅剣が358点と銅矛が16点、銅鐸が6点発見されています。他に礼器的性質を持った銅鐸はたいてい埋納坑から出土しております。これらは呪術的、祭祀的意味を持つものと考えられます。

以上のことから弥生文化は国家が出現した文明の時代に入ったことが確実といえます。その

上、魏志倭人伝に記載されたこともよく説明ができます。弥生文化は中国古代文明の影響を受けて、ヤマト政権の出現より前にすでに国家社会が生まれていました。

最後に古代日本人とその文化の形成は縄文人を基礎として、渡来人と外来文化の影響を受けて消化吸収して日本文化の原点となりました。外来の文化要素の痕跡は考古学資料の中に残っているだけであります。これらは私の考えであり、間違いもあるかも知れませんが、どうぞ皆さんにご訂正していただければと思います。（1992・5・11）

編者注

安　志敏先生は1992年5月8日、新緑の徳島に来県され、5月12日に離県、5月末日、中国に帰国された。徳島県滞在中は鳥居龍蔵博士に縁の遺跡や県南部の自然に触れられた。2回目の訪問となる県立鳥居記念博物館では、鳥居博士の子息である龍次郎氏と旧交を温められた。また本センターの職員はもとより、県内の若い考古学関係者とも大いに交流を深められた。

この講義はセンターの職員を中心とした研修のため特別にお願いしたものであって、先生がすでにいろいろなかたちで発表されている論文の要約の一部である。講義ではスライドを用いての解説や質疑応答が行われたが、本年報ではその前半を収録させていただいた。

なお、5月9日行った公開講演の記録「鳥居龍蔵先生の思い出」徳島県埋蔵文化財センター　1992　は先生が帰国後、中文に訳し「追怀鳥居龙藏先生」『文物天地』第1期　文物出版社　1993　として紹介されていることを付け加えさせていただく。

Ⅵ 受 贈 図 書

書名			寄贈者等名
北 海 道			
音威子府村 咲来2遺跡・咲来3遺跡	（財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書	第73集	（財）北海道埋蔵文化財センター
滝里7遺跡・滝里32遺跡 滝里遺跡群Ⅱ	〃	第74集	〃
恵庭市 ユカンボシE4遺跡	〃	第75集	〃
清水町 上清水2遺跡・共栄3遺跡・東松沢2遺跡 芽室町北明1遺跡	〃	第76集	〃
美沢川流域の遺跡 XV	〃	第77集	〃
七飯町 大中山13遺跡	〃	第78集	〃
函館市 中野A遺跡	〃	第79集	〃
調査年報 4 平成3年度			〃
深川市 納内3遺跡			〃
青 森 県			
埋文 あおもり 第11号			青森県埋蔵文化財調査センター
岩 手 県			
紀要 XII			（財）岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財センター
福 島 県			
五十辺遺跡	福島市埋蔵文化財報告書	第22集	（財）福島市振興公社
昭和61年度 遺跡詳細分布報告書	〃	第23集	〃
昭和62年度 遺跡詳細分布調査報告書	〃	第24集	〃
仙台内前遺跡	〃	第25集	〃
房ノ内遺跡	〃	第26集	〃
中ノ内遺跡	〃	第27集	〃
旧福島大学教育学部付属中学校跡地試掘調査報告書	〃	第28集	〃
昭和63年度 遺跡詳細分布調査報告書	〃	第29集	〃
石合前・小家場遺跡	〃	第30集	〃
愛宕原遺跡	〃	第31集	〃
月ノ輪山遺跡	〃	第32集	〃
八幡塚古墳確認調査報告書	〃	第33集	〃
平成元年度 遺跡詳細分布調査報告書	〃	第35集	〃
古屋敷遺跡	〃	第36集	〃
丸子条里遺構 六反田遺跡	〃	第37集	〃
宮脇遺跡	〃	第39集	〃
平成2年度 遺跡詳細分布調査報告書	〃	第40集	〃
岩田遺跡	〃	第41集	〃
沖町遺跡	〃	第42集	〃
月崎A遺跡（第3次・4次調査）・月崎B遺跡	〃	第43集	〃
沖町遺跡（第2次調査報告書）	〃	第45集	〃
丸子条里遺構	〃	第46集	〃
いわき市教育文化事業団年報 第2号			（財）いわき市教育文化事業団
いわき市教育文化事業団研究紀要 第3号			〃
泉城後 近世陣屋後の調査			〃
根岸遺跡 ～平成2年度・3年度範囲確認発掘調査概報～			いわき市教育委員会
郡山東部12			郡山市教育委員会
浦倉古墳群			〃
片平城遺跡Ⅰ			〃
西方前遺跡Ⅱ（土製品・石製品篇）			仲田茂司氏
三春町文化財調査報告書 第8集・三春ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ			〃
茨 城 県			
筑波大学 先史学 考古学研究 第3号			筑波大学歴史 人類学系
向野Ⅱ			（財）勝田市文化スポーツ振興公社
武田Ⅴ －1991年度武田遺跡群発掘調査報告の概要－			〃
ぶんかざいほごねんぽう 1991 フィールドノートVol.4			〃
沢三木台遺跡外 茨城県教育財団文化財調査報告		第70集	茨城県教育財団埋蔵文化財部
ヨナ川遺跡外	〃	第71集	〃
柴崎遺跡Ⅲ区	〃	第72集	〃
裏山遺跡	〃	第73集	〃
柏木古墳群	〃	第74集	〃

書名	寄贈者等名
上ノ台岡ノ内遺跡　茨城県教育財団文化財調査報告　第75集	茨城県教育財団埋蔵文化財部
東原　石伏南遺跡　〃　第76集	〃
沢田遺跡　上・下　〃　第77集	〃
年報11号　平成3年度	〃
研究ノート　創刊号	〃
鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告書　Ⅳ	（財）鹿島町文化スポーツ振興事業団
〃　Ⅵ	〃
〃　Ⅶ	〃
鉢形地区条里遺跡発掘調査報告書	鹿島町教育委員会
勉大行事日記	〃
1988年度　平塚周辺遺跡発掘調査報告および概要	美浦町中央公民館陸平調査会
茨城県稲敷郡美浦村陣屋敷遺跡	〃
栃木県	
栃木県文化振興事業団年報（平成3年度）	（財）栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
埋蔵文化財センター年報　第2号（平成4年度）	〃
栃木県埋蔵文化財センター通信　No.2　やまかいどう'91冬号	〃
長為遺跡　県道静・藤岡線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査	〃
栃木県埋蔵文化財調査報告　第119集	
一般国道4号（新4号国道）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の経過	〃
〃　第120集	
栃木県埋蔵文化財保護行政年報（平成2年度）	〃
〃　第122集	
下野国分寺跡Ⅷ　平成2年度発掘調査概報	〃
〃　第123集	
久保遺跡　県営圃場整備事業（赤羽地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査	〃
〃　第125集	
群馬県	
新堀城跡　第25集	吉井町教育委員会
小池遺跡　群馬県埋蔵文化財調査報告書　第33集	群馬町教育委員会
井出地区遺跡群　群馬町埋蔵文化財調査報告書　第34集	〃
国指定史跡　岩宿遺跡	笠懸村教育委員会
古代からのメッセージ	〃
笠懸村稲荷山遺跡　笠懸村埋蔵文化財調査報告　第3集	〃
笠懸村和田遺跡　〃　第5集	〃
神社裏道跡遺跡調査概報　〃　第6集	〃
向山遺跡調査概報　〃　第8集	〃
宮久保遺跡　〃　第9集	〃
歴史を走る　今蘇る古代の証　関越自動車道（新潟線）地域	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
埋蔵文化財発掘調査終了記念写真集	
書上本山遺跡・波志江六反田遺跡・波志江神山遺跡	〃
一般国道17号（上武道路）地域埋蔵文化財発掘調査報告書	
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告　第125集	
五目牛南組遺跡	〃
一般国道17号（上武道路）地域埋蔵文化財発掘調査報告	
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告　第139集	
南蛇井増光寺遺跡	〃
関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書　第14集	
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告　第142集	
埋文群馬　No.15　16合併号	〃
年報11	〃
研究紀要10	〃
「岩宿時代」展示解説	岩宿文化資料館
資料館だより『岩宿時代通信　Origin』創刊号　第2号	〃
埼玉県	
行田市郷土博物館報　第2　3号	行田市郷土博物館
ミュージアム行田　No.9　10	〃
埋文　さいたま　第8～10号	埼玉県立埋蔵文化財センター
埼玉県立埋蔵文化財センター年報1　平成2年度	〃
さいたまを掘る　埼玉県立埋蔵文化財センター第6回出土品展示図録	〃
研究紀要　第14号	埼玉県立歴史資料館

書名			寄贈者等名
也加多			埼玉県立歴史資料館
埼玉県歴史資料館報　第13号　（平成３年度）			〃
文化財だより　第９・10号			鳩山町教育委員会　鳩山町文化財保護委員会
文字Ⅱ			鳩山町教育委員会
久保1号瓦窯跡　鳩山町埋蔵文化財調査報告　第14集			〃
小敷田遺跡第Ⅰ・Ⅱ　Ⅲ分冊　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書		第95集	埼玉県埋蔵文化財調査事業団
向山遺跡	〃	第106集	〃
在家	〃	第107号	〃
下山田遺跡	〃	第108集	〃
大門南遺跡	〃	第109集	〃
代正寺　大西第一・二分冊	〃	第110集	〃
新屋敷東　本郷前東第１・２分冊	〃	第111集	〃
荒井附遺跡	〃	第112集	〃
西新田遺跡	〃	第113集	〃
大杉　岡原・蟹山	〃	第114集	〃
東谷遺跡	〃	第115集	〃
伊佐島遺跡	〃	第116集	〃
薬師堂遺跡	〃	第117集	〃
白草遺跡Ⅱ	〃	第118集	〃
蟹沢・芳沼入・芳沼入下　新田坊尻尻・尻尻北　大野田	〃	第119集	〃
稲荷前遺跡（A区）	〃	第120集	〃
桑原遺跡	〃	第121集	〃
千葉県			
小野遺跡D地区・S地区　平成３年度　東金市内遺跡群発掘調査報告書			東金市教育委員会
平成4年度東金市内遺跡発掘調査報告書			〃
富津市内遺跡発掘調査報告書			富津市教育委員会
神明山遺跡発掘事前総合調査報告書			〃
加藤遺跡			〃
西原古墳			〃
富里町埋蔵文化財発掘調査報告書　平成３年度			富里町教育委員会
山武町内遺跡群発掘調査報告書　平成２年度			山武町教育委員会
山武町内遺跡群発掘調査報告書　平成３年度			〃
千葉県文化財センター研究紀要　13			（財）千葉県文化財センター
研究連絡誌　33～35号			〃
房総の文化財　創刊号・第２号			〃
千葉県文化財センター年報　No. 17			〃
峰上城跡測量調査報告　千葉県中近世城跡研究調査報告書　第12集			〃
千葉市字津志野窯跡確認調査報告書			〃
小見川町白井大宮台貝塚確認調査報告書			〃
市原市今富塚山古墳確認調査報告書			〃
船橋市夏美台遺跡			〃
千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書　XI			〃
千葉市地蔵山遺跡			〃
東関東自動車道事業地内埋蔵文化財調査報告書　Ⅷ　（佐原地区４）			〃
東金市井戸ヶ谷遺跡			〃
主要地方道成田松尾線　Ⅶ			〃
天神後遺跡			〃
君津市滝原塚			〃
松尾町山室城跡			〃
上仁羅台　西長山野　東長山野遺跡			〃
宝永作遺跡			〃
佐倉市松向作遺跡			〃
千葉市榎作遺跡			〃
西の城貝塚			〃
房総考古学ライブラリー　6　古墳時代編（２）			〃
本佐倉南大堀遺跡			酒々井町教育委員会
上宿遺跡			〃
千葉県佐原市　香取新福寺遺跡　（財）香取郡市文化財センター調査報告書		第４集	（財）香取郡市文化財センター
千葉県佐原市　長部山遺跡	〃	第５集	〃
千葉県香取郡大栄町　かのへ塚・寺の上遺跡	〃	第６集	〃
千葉県香取郡下総町　中里西口遺跡	〃	第７集	〃
神代夏方遺跡・稲荷入墓跡　稲荷入１号塚　２号塚	〃	第８集	〃

書名			寄贈者等名
青馬大明神遺跡 (財)香取郡市文化財センター調査報告書		第9集	(財) 香取郡市文化財センター
四角山遺跡	〃	第10集	〃
私たちの文化財 18 19			(財) 市原市文化財センター
第7回 市原市文化財センター遺跡発表会要旨 平成3年度			〃
白船遺跡 第1次			〃
－千葉県市原市－ 村上城遺跡			〃
大和田遺跡			〃
今富大道遺跡			〃
－千葉県市原市 唐崎台－ 千葉県市原市能満唐崎台における			〃
弥生時代後期の集落址の発掘調査			
千葉県市原市－ 千草山遺跡 東千草山遺跡			〃
市原市姉崎東原遺跡			〃
福増山ノ神遺跡発掘調査報告書			〃
市原市小谷1号墳			〃
市原市奈良大仏台遺跡			〃
市原市棒ヶ谷遺跡・永田遺跡 海土有木遺跡 稲台遺跡 姉崎山谷遺跡・喜多高沢遺跡 辰巳ヶ原遺跡 原遺跡不特定遺跡発掘調査報告			〃
市原市叶台遺跡			〃
－千葉県市原市－ 奉免上原台遺跡			〃
(財) 山武郡市文化財センター年報 No. 6・7			(財) 山武郡市文化財センター
長田要害・長田長台遺跡発掘調査報告書			(財) 印旛郡市文化財センター
尾上藤遺跡C地区発掘調査報告書			〃
長勝寺塩館跡発掘調査報告書			〃
和良比遺跡発掘調査報告書			〃
尾上出戸遺跡			〃
龍角寺尾上遺跡 龍角寺谷田川遺跡			〃
宮本宮後遺跡B地区			〃
油作第1遺跡発掘調査報告書			〃
大台遺跡			〃
敷内遺跡発掘調査報告書			〃
木野子大山遺跡発掘調査報告書			〃
年報 7			〃
俵ヶ谷遺跡～小浜遺跡群VI～ (財) 君津郡市文化財センター発掘調査報告書		第54集	(財) 君津郡市文化財センター
鹿島塚古墳群～請西遺跡群II～	〃	第57集	〃
『四留作第2古墳群・第1号墳』『四留作第2古墳群・第2号塚』	〃	第63集	〃
打越遺跡・神明山遺跡 －第2分冊－	〃	第64集	〃
岩井遺跡	〃	第65集	〃
川島遺跡発掘調査報告書	〃	第66集	〃
内裏塚古墳群	〃	第67集	〃
富士見台遺跡III	〃	第68集	〃
小谷遺跡発掘調査報告書	〃	第72集	〃
郡条里遺跡II	〃	第73集	〃
下北原遺跡	〃	第74集	〃
西郷遺跡 万崎古墳群	〃	第75集	〃
竹岡十三塚遺跡	〃	第76集	〃
七人堀込遺跡	〃	第78集	〃
きみさらづ －創刊号－			〃
シンポジウム 縄文時代後 晩期安行文化			国立歴史民俗博物館
＝土器型式と土偶型式の出合い＝ 埼玉考古別冊4－3			
堀之内貝塚資料図譜 市立市川考古博物館研究調査報告 第5冊			市立市川考古博物館
ほりのうち No.14 15 考古 歴史博物館ニュース			〃
市立市川考古博物館年報 第18・19号			〃
東京都			
青丘学術論集 第2 3集			(財) 韓国文化研究振興財団
日本全国書誌－逐次刊行物の部－			国立国会図書館
出土品展示目録 古鏡			宮内庁書陵部
日本考古学年報43 (1990年度版)			日本考古学協会
湘南藤沢キャンパス内遺跡 第2巻 岩宿時代 縄文時代I部			慶応義塾総合企画室
湘南藤沢キャンパス内遺跡 第3巻 縄文時代II部			〃
湘南藤沢キャンパス内遺跡 第4巻 弥生時代～近世・近代			〃
明治大学考古学博物館「館報No.7」			明治大学考古学博物館
地震考古学 －遺跡が語る地震の歴史－			寒川旭氏
東京都埋蔵文化財センター年報 12 平成3(1991)年度			(財) 東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター 研究論集XI			〃

書名	寄贈者等名
資料目録　5　6	（財）東京都埋蔵文化財センター
飛田給北遺跡　東京都埋蔵文化財センター調査報告書　第13集	〃
多摩ニュータウン遺跡　平成2年度（第1分冊）　〃　第14集	〃
〃　（第2分冊）　〃　第15集	〃
〃　（第3分冊）　〃　第16集	〃
〃　（第4分冊）　〃　第17集	〃
はらやま　－都営調布柴崎一丁目第2住宅建て替えに伴う発掘調査－	調布市原山遺跡調査会
ジュニア日本史大図鑑	学習研究社
東京の遺跡散歩	東京都教育委員会
下宿内山遺跡	清瀬市下宿内山遺跡調査団
神奈川県	
横小路周辺遺跡発掘調査報告書　二階堂字往柄9番1地点	馬渕和雄氏
大倉幕府周辺遺跡群　雪ノ下大倉耕地569番1地点発掘調査報告書	〃
神奈川県埋蔵文化財調査報告　34	神奈川県教育委員会
川尻遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター
上溝6丁目遺跡	〃
かながわの考古学	〃
池子遺跡群だより　11～22	〃
大むかしの大井　現地説明会資料　第一東海自動車道No.35遺跡	〃
津久井町三ヶ木遺跡調査の概要	〃
向原遺跡の調査	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター　年報11	〃
宮ヶ瀬遺跡群Ⅲ　神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告　21	〃
向原遺跡Ⅱ　〃　25	〃
三ヶ木遺跡　〃　26	〃
えびなの歴史　海老名市史研究第3　4号	海老名市役所企画部市史編纂室
鎌倉　69	桑原邦彦氏
北条泰時　時頼邸跡　雪ノ下一丁目371番地－1地点発掘調査概報	〃
模様玉縄城城郭字打越165地点の発掘調査	〃
鎌倉市二階堂向往柄遺跡発掘調査報告書	〃
小町二丁目345番－2地点遺跡　雪ノ下教会改築に伴う	〃
埋蔵文化財発掘調査報告	〃
大倉幕府周辺遺跡群　雪ノ下字大倉耕地569番－1地点発掘調査報告書	〃
中世鎌倉の火処をめぐって	〃
青山考古　第9号	〃
よみがえる中世（3）	〃
山梨県	
帝京大学山梨文化財研究研究報告　第3集	帝京大学山梨文化財研究所
〃　第15集	〃
〃　第16集	〃
村の墓　都市の墓－中世考古学及び隣接諸学から－資料集	〃
第3回「考古学と中世史研究」シンポジウム	〃
湯乃奥金山遺跡の研究	一宮町教育委員会
松原遺跡　県営緊急畑地帯総合整備事業（一宮東原地区）における幹線道路1号	
平成3年度分工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	
長野県	
長野小県郡長内町　鷹山遺跡群Ⅰ　Ⅱ	氏家敏之氏
長野県埋蔵文化財センター　年報8	（財）長野県埋蔵文化財センター
下茂内遺跡　上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書1	〃
木戸平A他21遺跡　上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2	〃
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書3　－長野市内－	〃
長野県埋蔵文化財ニュースNo.34	〃
新潟県	
埋文にいがた	（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
富山県	
富山県埋蔵文化財所報　「埋文とやま」　第37～40号	富山県埋蔵文化財センター
富山県埋蔵文化財センター年報　平成2年度	〃
古沢バイパス関連遺跡発掘調査報告－中老田C遺跡　塚越A遺跡－	〃
石太郎G遺跡　石太郎J遺跡　ジャパンエキスポ関連遺跡群発掘調査報告書Ⅰ	〃
石太郎Ⅰ遺跡　石太郎J遺跡　〃　Ⅱ	〃

書　　名	寄　贈　者　等　名
南中田D遺跡発掘調査報告書	富山県埋蔵文化財センター
北陸自動車道遺跡発掘調査報告　～朝日町編6～	〃
東海北陸自動車道関連発掘調査概報（3）	（財）富山県文化振興財団
埋蔵文化財年報（3）	〃
石　川　県	
高松町大海西山遺跡発掘調査報告書	高松町教育委員会
（社）石川県埋蔵文化財保存協会年報2・3	（社）石川県埋蔵文化財保存協会
辰口町米丸サクラマチ窯跡	石川県立埋蔵文化財センター
安養寺遺跡群発掘調査報告書	〃
宮丸遺跡　村井北遺跡　北出遺跡　村井キヒダ遺跡　米永古屋敷遺跡	〃
宮保遺跡群	〃
金沢市寺中B遺跡	〃
三浦遺跡	〃
古府しのまち遺跡発掘調査報告書	〃
杉森テラアト遺跡	〃
松任市法仏遺跡	〃
押水町冬野遺跡	〃
大谷則貞	〃
垣吉A29　30号墓－垣吉マツサキ山中世墓－	〃
松任市竹松遺跡群	〃
石川県立埋蔵文化財センター年報　第11　12　36～39号	〃
石川県遺跡地図	〃
横江	〃
金沢市戸水B遺跡	〃
特別名勝　兼六園（江戸町跡推定地区）発掘調査報告	〃
飯田町遺跡	〃
千代	〃
相川遺跡群	〃
藤橋遺跡	〃
岐　阜　県	
文化財保護センターだより　きずな　第4～6号	（財）岐阜県文化財保護センター
史跡　高山陣屋遺跡　岐阜県文化財保護センター調査報告書　第1集	〃
門坂シズマ遺跡　岐阜県文化財保護センター調査報告書　第2集	〃
城之内遺跡Ⅱ　岐阜県文化財保護センター調査報告書　第3集	〃
宮下遺跡　岐阜県文化財保護センター調査報告書　第4集	〃
静　岡　県	
大門大塚古墳　昭和61年度基礎資料収集調査報告書	静岡県袋井市教育委員会
若作遺跡　若作古墳群Ⅰ	〃
領家遺跡　（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第18集	（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所
長崎遺跡Ⅰ（遺構編）　本文編　図版編　〃　第27集	〃
角江遺跡　〃　第30集	〃
吉岡原遺跡　〃　第34集	〃
向畑遺跡・社宮寺遺跡　〃　第35集	〃
瀬名遺跡　昭和63年度静清バイパス（瀬名地区）埋蔵文化財発掘調査概報	〃
〃　平成元　2年度	〃
池ヶ谷遺跡　昭和63年度静清バイパス（池ヶ谷地区）埋蔵文化財発掘調査概報	〃
〃　平成2年度	〃
御殿川流域遺跡群　平成2年度一級河川御殿川小規模改修工事に伴う発掘調査概報	〃
〃　平成3年度	〃
角江遺跡　平成2年度二級河川新川住宅宅地関連公共施設整備促進工事に伴う発掘調査概報	〃
年報　Ⅶ・Ⅷ	〃
研究所報　No.35～41	〃
愛　知　県	
瀬戸市埋蔵文化財年報　平成2年度	瀬戸市教育委員会
東本町A窯遺跡愛知県瀬戸市東本町　陶栄町における埋蔵文化財発掘調査報告	〃
上半田川遺跡愛知県瀬戸市上半田川町地内試掘　発掘調査報告	〃
愛知県瀬戸市　海場遺跡	〃
穴田南古窯跡群Ⅵ　－第4・5・7号窯発掘調査報告1－	〃
上之山　愛知県瀬戸市吉田　吉田奥遺跡郡　広久手古窯跡群発掘調査報告書	〃
発掘調査35年史展	（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

書名	寄贈者等名
東権現A窯跡　(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告書　第1集	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
三重県	
メクサ3号墳発掘調査報告	津市教育委員会
三重県津市一身田上津部田城址（第2次）発掘調査報告	〃
滋賀県	
遺跡散歩マップ（高島郡編）　遺跡散歩マップシリーズ（2）	(財)滋賀県文化財保護協会
滋賀文化財だよりNo.166～No.181	〃
膳所焼　文化財教室シリーズ（127）	〃
野洲の観請吊　文化財教室シリーズ（128）	〃
平成3年度　調査文化財展の説明用冊子	〃
紀要　第5号	〃
安土城考古博物館　常設展示解説	滋賀県立安土城考古博物館
二ノ畦遺跡発掘調査報告書　守山市文化財調査報告書　第30冊	伴野幸一氏
横枕遺跡発掘調査報告書　〃　第34冊	〃
二ノ畦・横枕遺跡発掘調査報告書Ⅰ　〃　第38冊	〃
益須遺跡発掘調査報告書	
安城寺遺跡Ⅰ　安城寺遺跡発掘調査報告	吉川和則氏
宮山二号墳　史跡大岩山古墳群整備事業報告－1	〃
昭和60年度野洲町埋蔵文化財調査年報　野洲町埋蔵文化財資料集1987－6	〃
市三宅東遺跡発掘調査報告－5　〃　1990－3	〃
〃　－2　第2次調査　〃　1990－4	〃
野洲町埋蔵文化財調査集報－1　〃　1991－3	〃
野洲町左岸遺跡発掘調査報告－3　〃　1991－3	〃
下々塚遺跡発掘調査報告－2　〃　1992－1	〃
富波遺跡－Ⅱ，富波遺跡発掘調査報告　〃　1992－2	〃
京都府	
解説シートNo.1　丹後国分寺	京都府立丹後郷土資料館
丹後郷土資料だより　第22号	〃
由良川の遺跡　私たちの考古学Ⅱ	〃
山陰道の考古学	〃
ニゴレ古文とその周辺　特別陳列　弥栄	〃
京都府埋蔵文化財情報　第43～47号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
10年のあゆみ	〃
第10回　小さな展覧会	〃
京都府遺跡調査概報　第15　16・47～51冊	〃
京都府遺跡調査報告書　第17冊	〃
京都大学構内遺跡調査研究年報　1988年度	京都大学埋蔵文化財研究センター
同志社大学　考古学シリーズV　考古学と生活文化	同志社大学考古学研究室
同志社大学キャンパスの遺跡	同志社大学校地学術調査委員会
福地山市カヤガ谷古墳群	福知山市教育委員会
石原・興・観音寺遺跡　西中筋東部地区遺跡発掘調査概報	〃
長岡京市埋蔵文化財センター年報　平成2年度	(財)長岡京市埋蔵文化財センター
勝龍寺城　発掘調査報告書	〃
長岡京市文化財調査報告書　第29冊	〃
長法寺南原古墳の研究	〃
古代学研究所　研究紀要	〃
大分県丹生遺跡群の研究	(財)古代学協会古代学研究所
平城京発掘調査概報	〃
京都市内遺跡立会調査概報	京都市文化観光局
京都市内遺跡試掘調査概報	〃
焼場谷炭窯発掘調査概要	〃
京都芸術短期大学芸術文化研究所研究紀要1	〃
平安京右京6域一坊　京都市埋蔵文化財研究所調査報告（第1冊）	京都芸術短期大学文化財科学研究所 (財)京都府埋蔵文化財研究所
大阪府	
国立民族学博物館研究報告　16巻4号	国立民族学博物館
〃　17巻1号	〃
〃　17巻2号	〃
〃　17巻3号	〃
〃　別冊　17号	〃

書名	寄贈者等名
大阪市文化財年報　昭和62年度	大阪市教育委員会　(財)大阪文化財協会
大阪市文化財年報	〃
大阪府内埋蔵文化財包蔵地　発掘調査報告書　平成2年度	〃
大阪市平野地区　長原遺跡発掘調査報告　Ⅲ	(財)大阪市文化財協会
〃　Ⅵ	〃
長原　瓜破遺跡発掘調査報告　Ⅰ	〃
〃　Ⅱ	〃
〃　Ⅲ	〃
難波宮址の研究　第九	〃
旧佐賀藩大坂蔵屋敷船入遺構調査報告	〃
枚方市文化財年報　11	(財)枚方市文化財研究調査会
ひらかた文化財だより　第10～13号	〃
ひらかた文化財年報　12（1990年度）	〃
研究紀要　第2集	〃
東大阪市下水道事業関係　発掘調査概要報告　1990	(財)東大阪市文化財協会
西ノ辻遺跡　第28　29　発掘調査報告	〃
大庭寺遺跡Ⅰ調査の概要	(財)大阪府文化財センター
大阪城跡の発掘調査　2	〃
(財)大阪文化財センター通信Ｎｏ．8	〃
日置荘遺跡　その2－3・その6－2　調査の概要	〃
大阪府下埋蔵文化財研究会（第26回）資料	〃
第10回近畿地方埋蔵文化財研究会資料	〃
第27回大阪府埋蔵文化財研究会資料	〃
長法寺南原古墳の研究	大阪大学文学部考古学研究室
雪野山古墳Ⅱ	〃
桜井谷窯跡群2－23号窯跡	〃
堺　埋蔵文化財だより　第3～5号	堺市立埋蔵文化財センター
堺市文化財調査概要報告　第21～30号	〃
山ノ内遺跡Ｂ地区　山直北遺跡　(財)大埋協調査報告書　第24輯	(財)大阪府埋蔵文化財協会
上フジ遺跡　〃　第25輯	〃
福瀬遺跡　〃　第39輯	〃
高向遺跡　〃　第40輯	〃
陶邑　大庭寺遺跡　〃　第41輯	〃
二俣池北遺跡　上ヤジ遺跡　〃　第45輯	〃
平井遺跡Ⅱ　〃　第46輯	〃
三軒屋遺跡　〃　第47輯	〃
高向遺跡Ⅱ　〃　第48輯	〃
福瀬遺跡Ⅱ　〃　第49輯	〃
陶邑　大庭寺遺跡Ⅱ　〃　第50輯	〃
山直中遺跡Ⅱ　〃　第52輯	〃
小田遺跡　〃　第53輯	〃
池田寺遺跡Ⅱ　〃　第54輯	〃
唐国泉谷遺跡　〃　第55輯	〃
大場遺跡　〃　第56輯	〃
黒石遺跡　〃　第59輯	〃
陶邑　大庭寺遺跡Ａ地区　〃　第60輯	〃
山ノ内遺跡Ⅱ　〃　第61輯	〃
三ヶ山西遺跡　〃　第62輯	〃
池渕遺跡Ⅱ　〃　第64輯	〃
池田寺遺跡Ⅲ　〃　第65輯	〃
加治　神前　畠中遺跡　〃　第66輯	〃
母山遺跡　〃　第67輯	〃
中開遺跡　〃　第68輯	〃
脇浜遺跡Ⅲ　〃　第69輯	〃
貝ノ池遺跡　(財)大埋協調査事業報告　第3冊	〃
(財)大阪府埋蔵文化財協会　研究紀要Ⅰ	〃
日根荘総合調査が語るもの～中世荘園世界の解明をめざして～	〃
第6回泉州の遺跡～平成3年度の調査から～	〃
日根荘とその周辺～空港関連事業の調査から～	〃
弥生文化博物館研究報告　第1集	大阪府立弥生文化博物館
池上　曽根遺跡　大阪府立弥生文化博物館資料集2	〃
跡部遺跡発掘調査報告書－大阪府八尾市春日町1丁目出土銅鐸－	成海佳子氏
跡部遺跡－八尾市春日町1丁目出土銅鐸－	〃

書　名	寄贈者等名
兵　庫　県	
城郭研究室年報	姫路市城郭研究室
播磨国分寺跡　遺跡発掘事前調査概要報告	姫路市教育委員会
明石市文化博物館ニュース『Akasi City Culture Museun』	明石市立博物館
長者ヶ谷1号墳　西紀　丹南町文化財調査報告　第8集	西紀　丹南町教育委員会
西谷遺跡発掘調査概要報告書　〃　第9集	〃
大山荘内埋蔵文化財調査概要報告書　〃　第9集	〃
大山荘を訪ねて　大山荘案内冊子	〃
のじぎく文化財だより　第12号	（財）のじぎく文化財保護研究財団
奈　良　県	
正倉院年報	宮内庁正倉院事務所
平城宮発掘調査報告XII	奈良国立文化財研究所
埋蔵文化財ニュース　71・73～76	〃
遺跡探査ニュースレター　No.1～4	〃
よみがえる二上山の3つの石	香芝市二上山博物館
海を渡ってきた武人　開館記念特別展	〃
奈良県埋蔵文化財調査概要報告書　平成3年度	
平城京東市跡推定地の調査　第12次発掘調査概要	
奈良市埋蔵文化財調査センター紀要　1991	
前方後円墳を考える	帝塚山考古学研究所
古代の寺を考える	〃
第5回　考古学におけるパーソナルコンピューター利用の現状	〃
考古学における計量分析	〃
考古学における熱ルミネッセンス年代測定	〃
筒井城　第3次　森目地区発掘調査概要	大和郡山市教育委員会
松山古墳I　第1　2次発掘調査概要報告書	〃
古屋敷遺跡　第3次発掘調査概要報告	〃
六道山古墳I　第2次緊急発掘調査報告書	〃
来光遺跡　第1次発掘調査概要	〃
高月遺跡　発掘調査報告書	〃
原田遺跡　第3次調査報告	〃
平城京右京八条一坊十三　十四坪発掘調査報告	〃
菅原遺跡平城京西方給料墓壇建物跡の発掘調査	水野正好氏
奈良大学平城京発掘調査報告書　第1集	
文化財學報　第9　10集	奈良大学文学部文化財学科
橿原町内埋蔵文化財発掘調査報告書　1991年度	橿原町教育委員会
和　歌　山　県	
和歌山県市史　第一巻　自然　原始　古代　中世	森　浩一氏
六十谷古墳群発掘調査報告	和歌山市教育委員会
鳴神VI遺跡発掘調査報告書	〃
〃　第2次発掘調査報告書	〃
〃　第3次発掘調査報告書	〃
（財）和歌山県文化財センター年報　1987～1991	（財）和歌山県文化財センター
今福町遺跡発掘調査概要	〃
吉原遺跡　県道柏　御坊線改良工事に伴う弥生遺跡発掘調査概報	〃
吉原遺跡　県道柏　御坊線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	〃
粟生遺跡　県道有田　高野線改良工事に伴う縄文時代遺跡発掘調査	〃
粟生遺跡　県道有田　高野線改良工事に伴う第4次発掘調査概報	〃
粟生遺跡発掘調査報告書　県道有田　高野線道路改良工事に伴う発掘調査	〃
根来寺坊院跡　岩出町立歴史民俗資料館建設に伴う事前発掘調査概報	〃
根来寺坊院跡　根来公衆便所設置に伴う発掘調査概要	〃
根来寺坊院跡　町道根来　北大池線改良舗装工事に伴う事前発掘調査概要	〃
根来寺坊院跡　前山地区宅地造成工事に伴う調査	〃
岡村遺跡　亀の川中小河川改修工事に伴う弥生遺跡発掘調査概報	〃
速玉大社境内遺跡　佐藤春夫記念館建設に伴う発掘調査概報	〃
稲成遺跡発掘調査概報	〃
稲成遺跡　一般国道42号（田辺バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	〃
金剛峯寺遺跡　高野山霊宝館新収蔵庫及び駐車場建設に伴う発掘調査報告書	〃
金剛峯寺遺跡　南都銀行高野山支店新築工事に伴う発掘調査	〃
金剛峯寺遺跡発掘調査概報　紀陽銀行高野山支店新築工事に伴う発掘調査	〃
田殿尾中遺跡発掘調査概報	〃
佐野遺跡発掘調査概報	〃
西国分II遺跡発掘調査概報	〃

書　　名	寄贈者等名
鳥居遺跡発掘調査概報　ＪＲ紀勢線海南駅連続立体交差事業に伴う発掘調査	（財）和歌山県文化財センター
小熊Ⅲ・木曽遺跡試掘調査報告書	〃
笠嶋遺跡　串本中学校校舎建築に伴う発掘調査報告書	〃
南紀男山焼	〃
山東22号古墳　県道和歌山橋本改良工事に伴う発掘調査概報	〃
昭和63年度　御坊市内遺跡発掘調査概報	御坊市教育委員会内　御坊市遺跡調査会
平成元年度　〃	〃
平成２年度　〃	〃
平成３年度　〃	〃
御坊駅前広場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	〃
〃　Ⅲ	〃
広域営農団地農道整備事業に伴う岩内古墳群他埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	〃
小松原Ⅱ遺跡（湯川氏館跡）発掘調査概報Ⅶ	〃
鳥　取　県	
宇谷第1遺跡　南谷大ナル遺跡	（財）鳥取県教育委員会
福岡遺跡	〃
鳥取埋蔵文化財ニュース　No.32	鳥取県埋蔵文化財センター
東桂見遺跡試掘調査報告書	〃
布施鶴指奥墳墓群試掘調査報告書	〃
鳥取県　布施鶴指奥墳墓群　鳥取市　東桂見遺跡	〃
上淀廃寺と彩色壁画　概報	水野正好氏
島　根　県	
島根埋蔵文化財調査センターニュース	島根県埋蔵文化財調査センター
島根県教育庁文化課　埋蔵文化財調査センター　古代文化センター　要覧	〃
岡　山　県	
原遺跡　御津町埋蔵文化財発掘調査報告3	御津町教育委員会
伊田沖遺跡　〃　4	〃
寺部遺跡　〃　6	〃
平岡西遺跡Ⅱ　〃　7	〃
平岡西遺跡Ⅰ　〃　8	
広　島　県	
石井ヶ原遺跡群　広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書　第89集	（財）広島県埋蔵文化財調査センター
山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅵ）　〃　第91集	〃
山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅶ）　〃　第92集	〃
手島山墳墓群　〃　第93集	〃
山居遺跡　〃　第94集	〃
備後国府跡～推定地にかかる第10次調査概報～　〃　第105集	〃
賀茂学園都市開発整備事業地内（西高屋地区）遺跡群Ⅵ	〃
年　報　Ⅵ　平成元年度	〃
年　報　Ⅶ　平成２年度	〃
研究紀録Ⅰ	〃
ひろしまの遺跡　第48～52号	〃
中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（Ⅰ）	〃
東広島ニュータウン遺跡群Ⅱ（図録編）	〃
山陽自動車道に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（Ⅶ）	〃
金平山　貞付谷遺跡	〃
内長見遺跡	〃
浅谷山東Ｂ地点遺跡	〃
河原田２号遺跡　寺の前古墓	〃
高山１　２号遺跡	〃
来源遺跡	〃
東広島ニュータウン遺跡群Ⅲ（図録編）	〃
賀茂学園都市開発整備事業地内遺跡群Ⅶ（西高屋地区）	〃
研究紀録Ⅱ	〃
広島県の重要文化財　1　考古・歴史資料　古文書　仏教絵画	広島県立歴史博物館
広島県の重要文化財　2	〃
明王院　その歴史と文化	〃
広島県立歴史博物館ニュース　第９～14号	〃
広島の埋蔵文化財～平成２年度　事業の概要～　広島県埋蔵文化財保護行政資料３	広島県事務局教育部

書名	寄贈者等名
城ノ下A地底遺跡発掘調査報告　(財)広島市歴史科学教育事業団調査報告書　第2集	(財)広島市歴史科学教育事業団
上端深川北遺跡発掘調査報告　〃　第3集	〃
稗畑遺跡発掘調査報告　〃　第4集	〃
広島城中堀発掘調査報告　〃　第5集	〃
広島城外堀発掘調査報告　〃　第6集	〃
大久保遺跡発掘調査報告　〃　第7集	〃
山口県	
山口大学構内遺跡調査研究年報　X	山口大学埋蔵文化財資料館
山口大学埋蔵文化財資料館だよりNo.14～17	〃
徳島県	
徳島市文化財だより No.27	徳島市教育委員会
四国の古墳	徳島県立博物館
徳島県立博物館研究報告	〃
徳島県立博物館　総合案内	〃
徳島の文化財	徳島県教育委員会
香川県	
国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　平成3年度	(財)香川県埋蔵文化財調査センター
空港跡地遺跡発掘調査概報　平成3年度	〃
(財)香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成3年度	〃
「いにしえの讃岐」第4　6号	〃
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	〃
東山崎　水田遺跡(第一・第二分冊)　高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第1冊	〃
瀬戸内地方出土土錘調査報告書(I)	瀬戸内海歴史民俗資料館
史跡　有岡古墳群(王墓山古墳)保存整備事業報告書	善通寺市教育委員会
南滝山　奥14号墳	香川大学教育学部考古学研究室
讃岐国弘福寺領の調査　弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書	高松市教育委員会
愛媛県	
桑原地区の遺跡(図版編)　松山市文化財調査報告26	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
〃　(本文編)	〃
祝谷アイク遺跡　松山市道後城北遺跡群	〃
来住・久米地区の遺跡	〃
朝美澤遺跡・辻町遺跡	〃
道後城北遺跡群	〃
松山市埋蔵文化財調査年報　VI	〃
弥生時代の海上交易～瀬戸内海における物と人の流れを探る～	〃
分銅形土製品の謎　西日本における弥生人の顔と精神文化　第5回特別展	松山市考古館
妙見山古墳　発掘調査概報I　墳丘編	下條信行氏
埋蔵文化財のはなし～調査の方法～	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
埋文えひめ　第15～17号	〃
平松遺跡・旗屋遺跡I　県道伊予～川内線関連埋蔵文化財発掘調査報告書	〃
黒田遺跡　愛媛県立今治南高等学校日高農場埋蔵文化財発掘調査報告書	〃
松還古照遺跡　一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書I	〃
愛媛考古学	岡田敏彦氏
文京遺跡第2　3　5次調査　松山市文化財調査報告書28	愛媛大学
今治市内遺跡詳細分布調査II　平成元年度概要報告	今治市教育委員会
今治市埋蔵文化財調査報告書　第14集	
今治市埋蔵文化財調査報告書II　第2次調査　乃万・日高地区	〃
〃　第15集	
今治市内遺跡詳細分布調査報告書　第3次初年度調査概報	〃
〃　第16集	
高知県	
松ノ木遺跡I　本山町埋蔵文化財調査報告書　第3集	本山町教育委員会
福岡県	
今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告II	前原市立伊都歴史資料館
今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告II	〃
前原地区遺跡群II	〃

書　　名	寄　贈　者　等　名
潤・壱丁田遺跡	前原市立伊都歴史資料館
萩浦の文化財	〃
井原塚廻り遺跡	〃
平原周辺遺跡	〃
伊都～古代の糸島～　前原市立伊都歴史資料館図録	〃
福岡市埋蔵文化財センター年報　第11号	福岡市埋蔵文化財センター
大　分　県	
会下遺跡・的場２号墳・塩谷伊豫野遺跡　大分空港道路建設に伴う	大分県教育委員会
埋蔵発掘調査報告書Ⅰ　大分県文化財調査報告　第83輯	〃
下郡桑苗遺跡Ⅱ　大分県文化財調査報告　第89輯	〃
慈眼山　瀬戸口遺跡　平成３年度　国家公務員合同宿舎日田住宅2号棟	
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	
伊藤田窯跡群　中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書（４）	〃
大分県内遺跡詳細分布調査概報　11	〃
光広遺跡　発掘調査報告書　安岐町教育委員会第２集	安岐町教育委員会
宮　崎　県	
国衙　群衙・古寺等範囲確認調査概報調査報告書Ⅰ	宮崎県教育委員会
内野々遺跡　林業試験場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	〃
田代ヶ八重遺跡　綾北川総合開発建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	〃
吉村遺跡　中池遺跡　中萩遺跡　百長原地区遺跡他　平成３年度農業基盤整備事業	〃
に伴う発掘調査報告書	〃
樺山　群元地区遺跡　年見川小規模河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	〃
東九州自動車道関連遺跡詳細分布報告書	〃
宮崎県文化財調査報告書　第35集	〃
穂北遺跡　県道杉安　高鍋線道路改良工事関係発掘調査報告書	〃
海蔵寺遺跡　様屋敷遺跡　国道221号線バイパス建設関係発掘調査報告書	〃
永田原遺跡　小木原遺跡群脈地区口一坪遺跡　えびの市埋蔵文化財発掘調査報告書 第６集	えびの市教育委員会
長江浦遺跡群　水流・馬場田遺跡　〃　第10集	〃
天ヶ谷遺跡　野尻町文化財調査報告書　第５集	野尻町教育委員会
遺跡詳細分布調査　高崎町文化財調査報告書　第３集	高崎町教育委員会
鹿　児　島　県	
埋文だより　創刊号　２号	鹿児島県立埋蔵文化財センター
西丸尾遺跡　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（64）	〃

徳島県埋蔵文化財センター年報　Vol. 4
－平成４年（1992）度－

平成５年７月１日

編集・発行　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
〒779－01　徳島県板野郡板野町川端字関ノ本25番
TEL　（0886）72－4545　FAX　（0886）72－4550

印　　刷　㈱教育出版センター
〒771－01　徳島県徳島市川内町平石流通団地27番地
TEL　（0886）65－6060